

見村ノ老農、辻喜代藏ニ物品陳列掛ヲ囑託ス。

四月二十二日、本會會頭宮内次官伯爵吉井友實薨ズ。是ヨリ先キ三重幹事太田小三郎、上京シテ伯爵ヲ病褥ニ訪フ、伯爵ニ危篤、語通ゼズ、幾モナク薨ズ、太田幹事葬儀ニ參預シ、且訃電ヲ發シテ三重事務所ニ報ズ。三重幹事委員等、訃ニ接シテ悲悼ニ禁ヘズ、直ナニ伯爵家扶ニ左ノ弔電ヲ送致セリ。

伯爵遠逝悼惜ノ情盡シ難シ、謹デ弔辭ヲ呈ス

神苑會三重幹事

同 委員

四月二十三日、農業館工事本月二十日落成ヲ告グ、適、大日本農會、農産物品評會ヲ開カントシ、田中建設委員長ヲ經テ本會ニ交渉スル所アリ、乃チ五月一日以降七日間之ヲ農會ノ使用ニ充テ、閉場ノ翌八日ヲ以テ開館式ヲ行フコトニ決ス。既ニシテ五月一日ヲ迎ヘ、大

日本農會農産物品評會ヲ此ニ開催ス。

五月八日、農業館開館式ヲ行フ。午後一時本會役員、會員、招待員等、式場ニ集ル者凡百名、幹事田中芳男ハ、總裁殿下ノ御名代トシテ之ニ臨ミ、三重幹事岩男三郎ハ、三重幹事長ノ代理トシテ臨場ス、式ノ次第左ノ如シ。

- (一) 本會役員、會員招待諸員着席
- (二) 總裁殿下ノ御名代幹事ノ先導ニテ式場ニ臨ム、一同敬禮
- (三) 幹事長本館開館ノ旨ヲ述ブ
- (四) 御名代總裁殿下ノ令旨ヲ朗讀ス
- (五) 會員總代答辭ヲ述ブ
- (六) 式終ルヲ告ゲ一同退館ス

總裁殿下令旨

神苑ノ設置既ニ成リ、農業館ノ建築亦竣ル、抑神苑ヲ設クルハ、宮

域ノ規模ヲ恢宏スルニ在リ、農業館ヲ設クルハ國產ノ富饒ヲ企圖スルニ在リ、是本會ノ目的トスル所ニシテ、爰ニ成功ヲ告グルヲ得タルハ、神德ノ光輝ニ出ト雖モ、實ニ會員諸子勤勉ノ勞ニ由レリ、願ニ本會ノ事業ハ未ダ茲ニ止マラズ、諸子努力シテ、益完備ノ位置ニ達セシメンコトヲ望ム。

明治二十四年五月八日

神苑會總裁 熾 仁 親 王

三重幹事長ノ演說

夫レ神苑會ノ設ハ、宮城ヲ恢弘シ、神苑ヲ開キ、其他 神宮ニ緣故アル施設ヲナシ、以テ 神德ヲ顯揚シ、億兆仰敬ノ意ヲシテ益厚カラシメントニルニ在リ、明治十九年ヲ以テ業ヲ創メ、爾來專ラ其準備ニ從事シ、二十二年ニ至リ會頭以下ノ役員ヲ置キ、有栖川宮殿下ヲ仰テ總裁トナシ、本會ノ組織略成ル、乃チ其第一ノ事業トシテ、同年五月神苑ノ工事ニ着手シ、九月ヲ以テ落成シ、第二ノ事業トシテ今茲ニ農業館

ノ建築ヲ竣フ、伏テ惟ニ本邦ノ國ヲ立ル農ヲ以テ本トス、農事ノ本邦ニ於ル實ニ天祖ノ恩惠ニ因ルモノナレバ、歷朝之ヲ以テ祭政ノ本トシ、庶民之ヲ以テ生計ノ基トス、古來願曆授時ノ事之ヲ 神宮ニ仰ギ、農民主トシテ 神宮ニ賽スル如キ、洵ニ以アルナリ、而シテ本會ガ他ノ施設ニ先ジテ農業館ノ設立ヲナシタルモ、亦其意茲ニ存ス、蓋本館ハ農藝漁獵牧畜養蠶等ノ產物製品ヲ始メ、之ニ要スル器具標本及圖書統計表等ヲ蒐集シテ、衆庶ノ觀覽ニ供シ、農民ノ智識ヲ開キ、實業ノ便益ヲ與ヘ以テ益 天祖ノ恩惠ヲ發揮シ、國家ノ隆運ヲ企圖セントスルナリ、曩ニハ神苑ノ築造ヲ竣ヘ今又此建築ヲ爲シ、本會ノ目的ヲシテ着々達成ニ至ラシムルモノ、固ヨリ神德ノ高キニ出ルト雖モ、抑亦 總裁宮殿下會務ノ勞ヲ取ラセラル、ノ篤キニ依ラズンバアラズ、是三郎等ノ深ク感謝スル所ナルノミナラズ、衆庶ノ等シク頌揚スル所ナリ、茲ニ開館ノ式ヲ舉ルニ方リ、本會來歴ノ一端ヲ敘シテ遙ニ 總裁宮殿下ニ奉謝シ、併テ本會ノ隆昌ヲ祝ス

明治二十四年五月八日

神苑會三重幹事長代理

神苑會幹事 岩 男 三 郎

會員總代三重幹事滿岡勇之助答辭

神苑既ニ成リ、農業館亦新築セラル、ニ由リ、總裁宮殿下特ニ御名代ヲ派遣セラレ、本日ヲトシテ開場ノ典ヲ舉ゲラル、夫神苑ハ、神德ヲ發揚シ、農業館ハ民力ヲ化育シ、共ニ相待テ離ルベカラズ、不肖等數年之ニ從事シ、漸ク今日ヲ致セルモ、尙之ヲ以テ端緒トナシ、會テ計畫スル所ノ豫望ヲ充タシメントス、謹デ奉答ス

明治二十四年五月八日

神苑會三重幹事從七位 滿岡勇之助

(右ノ外會員ノ祝詞御巫清直ノ演說アレドモ略ス)

此夜大日本農會幹事池田謙齋ノ主催ニ係ル、農業幻燈會ヲ本館ニ開キ、衆庶ノ觀覽ニ供ス。翌九日ヨリ本館物品ノ陳列ニ着手シ、二十三日ニ至リ終了ス。二十四・五ノ兩日間、本會會員・贊助員及度會郡内町村長・學校教員等ノ縱覽ニ供シ、田中幹事物品ニ就テ説明ス。二十六・七ノ兩日衆庶ノ觀覽ヲ縱ルシ、館則チ設ケテ之ヲ保管ス。館ノ敷

地二千二十五坪餘、建坪百三坪、木造瓦葺平家タリ、當時館内ノ陳列未ダ完備ノ域ニ至ラズ、從ウテ其點數モ亦饒多ナラザリキ、然レドモ客歲第三回内國勸業博覽會ニ就キテ購入セシ農具七十四點ハ皆是參考上必要ノ器械器具ト謂フベク、其他農商務省・內務省・東京府・福岡縣・千葉縣・熊本縣等ヨリ下付又ハ寄贈セラレタル統計表・報告書并ニ圖說等百餘種、東京市田中芳男・池田謙藏・穴山篤太郎・大日本水産會等ヨリ寄贈ノ圖書類凡百五十餘種、大日本農會主催第二十五回農產品評會出品人ヨリ寄贈ノ農產物數百種等、仔細ニ之ヲ歴覽スレバ、一トシテ農事ニ裨益スルノ資料タラザルハナシ、今悉ク列舉ニ遑アラザルヲ以テ之ヲ略ス。

農業館規則

第一條 本館ハ神苑會ニ屬シ、外宮神苑地ニ沿ヒ宇治山田町大字豐川町百九十九番地第一ニ設置ス

第二條 凡ソ本館ニ陳列スル物品ハ、農作種樹漁獵牧畜養蠶ノ產物并製品及各種ノ標本模型圖書統計表等ナリトス

第三條 本館ハ公衆ノ來觀ヲ許ス

第四條 凡ソ本館ニ物品ヲ寄附シ、若クハ出陳セント欲スルモノハ、豫メ本館ノ承諾ヲ愛クベシ、但嵩高若クハ重量ノ物品又ハ其資質ニ依リ特ニ謝絶スルコトアルベシ

第五條 出品荷造運搬ニ係ル費用ハ、出品人ニ於テ自辨スルモノトス、但寄附物品ハ協議ニヨル

第六條 出品ニハ出品主ノ府縣國郡町村氏名員數ヲ記シ、且成ルベク詳細ナル説明書ヲ添付スベシ

第七條 陳列品ハ本館ニ於テ丁寧ニ保管スベシト雖モ、運搬中破損ニ係ルモノ、及不虞ノ災害ハ本館其責ニ任ゼズ

觀覽人心得

第八條 本館ハ常時開館ス、其時限左ノ如シ

一 自一月廿一日午前八時開館午後五時閉館

一 自六月廿一日午前八時開館午後四時閉館

第九條 觀覽人ハ觀覽券ヲ携フベシ、其觀覽券料ハ壹錢トス、但此券ハ出館ノ時守衛ノ者ニ返付スベシ、尤五歳未滿ノ者ハ觀覽券ヲ要セズ、滿五歳以上、十歳未滿ハ半額ノ券ヲ携フベシ

第十條 本會會員ニシテ其證ヲ携帶スルトキニ限り、觀覽券料ヲ要セズ

第十一條 癡狂或ハ大醉者ト認ムルトキハ觀覽ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十二條 觀覽人ノ携帶物品若シ陳列品ニ障害アリト認ムルトキハ之ヲ制止スルコトアルベシ

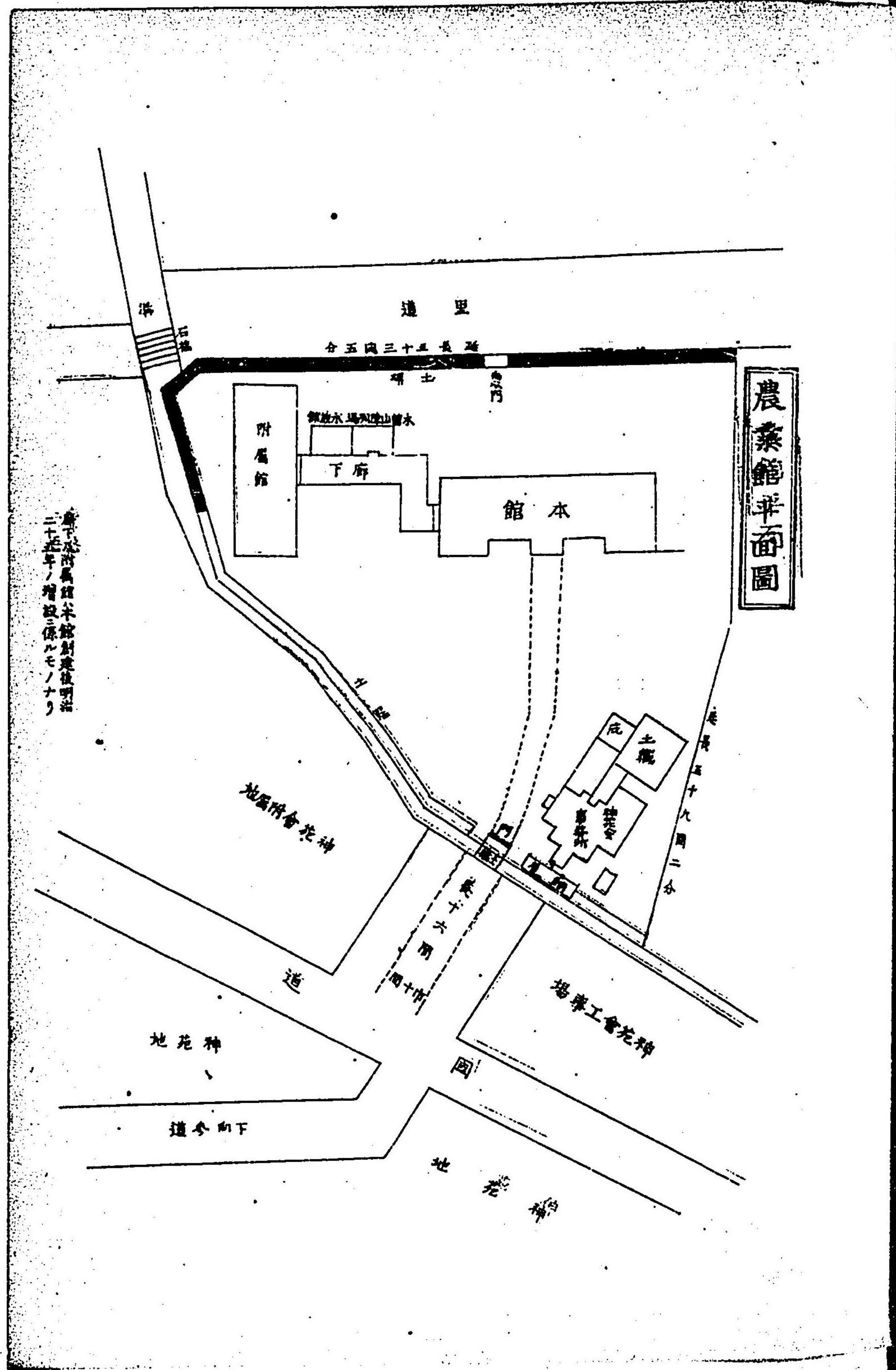
第十三條 館内ニ於テ禁止スベキ條件左ノ如シ

一 喫烟スル事 一 物品ニ手ヲ觸ル、事 一 動物ヲ牽キ入ル、事

一 喧噪奔馳其他遊戯個間敷事

第十四條 物品ヲ手ニ取り、若クハ試用セントスルモノハ本館ノ承諾ヲ請クベシ

第十五條 觀覽者誤リテ物品ヲ毀損スルトキハ、相當代價ヲ辨償セシム、但物品全



農桑館本館創建後
三十五年ノ増設係ルモノナリ

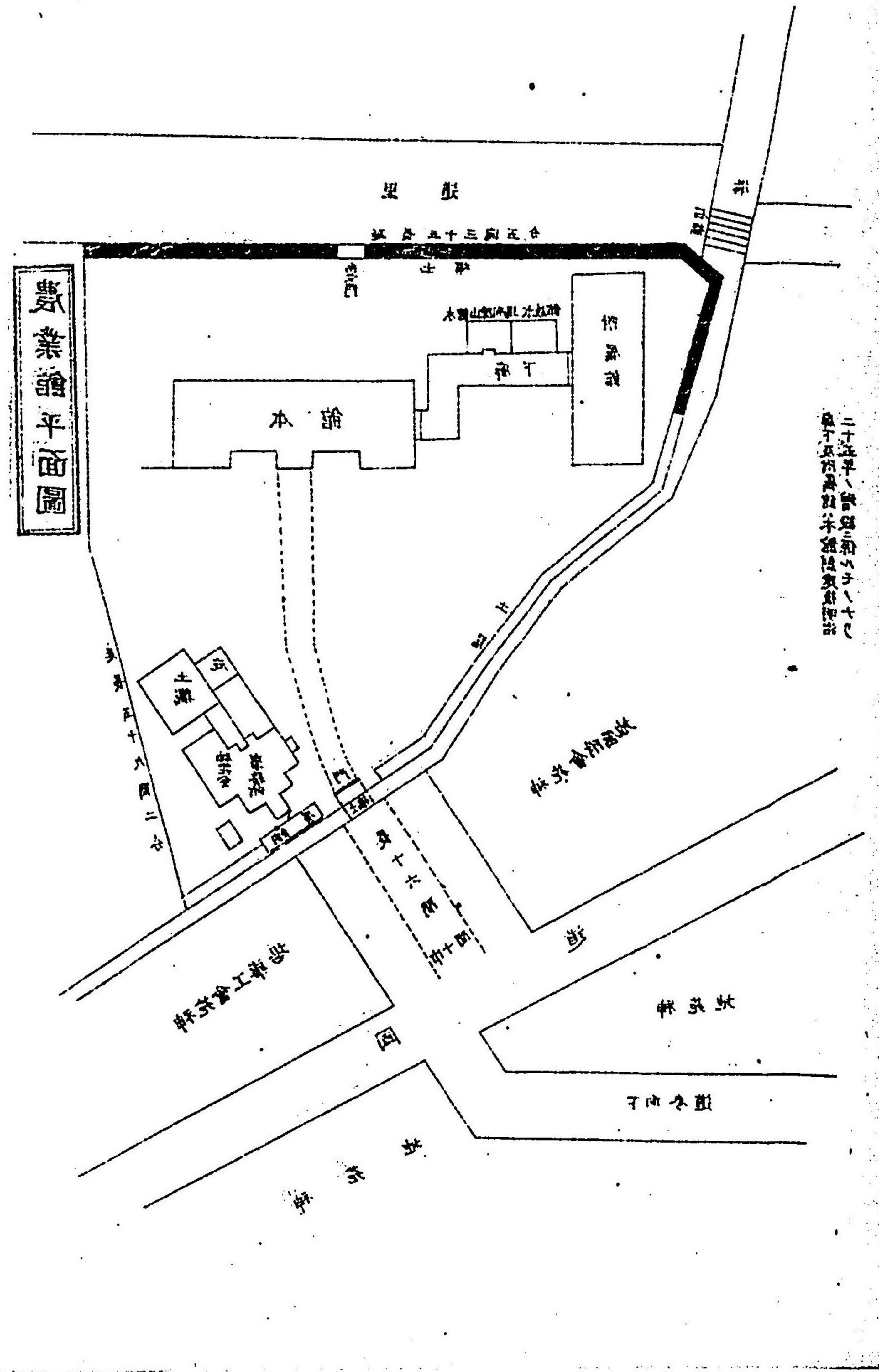
第六編 成立第二期 明治二十四年

三四四

ク破損シ、全部ノ償金ヲ辨納セシムルモ毀損品ハ本館ニ留ム

第十六條 陳列品ハ總テ賣買セザルモノトス

第十七條 學校教員并ニ生徒學術上研究ノ爲メ、觀覽ヲ望ムモノハ、該校ノ證明書ヲ携帶スルトキニ限り觀覽料ヲ要セズ



二十一年六月三日
農事省農務局長
勅諭

本會前會頭吉井友實伯薨去ノ後、會頭ヲ闕クコト凡四旬餘、副會頭花房義質、推サレテ會頭ノ後ヲ襲ギ、六月三日 總裁殿下ノ囑託辭令書ヲ拜受ス。

六月四日、三重事務所ヲ農業館構内ニ新築ス、二十一年以來大字田中中世古町ニ假設シ、今其落成ヲ告グルニ及ビ此處ニ移轉ス。
七月二十九日、本會賓日館ヲ東宮職ノ御用ニ供シ奉ル、是ヨリ先キ、皇太子嘉仁親王殿下、神宮御參拜且御避暑ノ爲、二見浦賓日館ニ行啓アラセラルベキ旨仰出サレ、此日、中山東宮大夫以下ノ供奉員ヲ從へ、御着輿アラセラル、幹事長以下職員、鳥羽港ニ奉迎シ、供奉シテ賓日館ニ到ル、其御着館ニ方リ、煙火ヲ以テ祝砲ニ代へ、引續キ晝夜煙花ヲ揚グ。翌三十日、御旅情御慰ノ爲、潑瀨ノ海魚八十尾ヲ水槽中ニ游泳セシメ、御覽ニ供シ奉リ、翌日又網曳ヲ御覽ニ供シ奉ル、其

後 殿下ニハ毎日御學友ト海水ニ游浴シ給フ。

東宮殿下、八月六日午前六時賓日館御發輿、神宮ニ御參拜アラセラル、此日紀念ノ爲、御手カラ、兩宮苑地ニ松樹各一株ヲ植給ヒ御途次農業館ニ成セラル、同館内ニ於テ成川三重縣知事ノ執奏ヲ聞食レ、本會三重幹事委員等十二名ニ拜謁ヲ賜ハリ、午後二見ニ還御シ給フ、其拜謁ヲ許サレタル者左ノ如シ。

幹事 滿岡勇之助 太田小三郎

委員 應松重明 宇仁田宗馨 村井恒藏

大岩芳逸 藤井清司 村田徳三

上野梧一 小川宗一 西田七左衛門

竹内善兵衛

八月十二日、小松陸軍大將宮、賓日館ニ成セラレ、東宮殿下ニ御對顔アラセラル。

十八日、東宮殿下御思食ヲ以テ、純銀香爐ヲ賓日館ニ下賜セラル。二十日、東宮殿下還啓仰出サレ、賓日館御發輿、鳥羽港ヨリ御乗船アラセラル、本會幹事長以下職員、鳥羽港ニ供奉奉送ス。

九月三日、花房會頭ヲ宮内省ニ召レ、東宮職ヨリ金五百圓ヲ下賜セラル。

此歳一月以降、土木工事ハ 兩宮苑地修補事業トシテ、外宮方面ニ一、鳥居口參道及勾玉池水路ノ改修、内宮方面ニ土橋ノ架換等ヲ施シ、苑地外ニ在テハ農業館并三重事務所ヲ建築シ、賓日館構内ノ土藏、納屋等ヲ増築ス。而シテ寄附金募集事務ハ東京・三重ノ兩方面、各豫期ノ實績ヲ收メント欲シ、書ヲ府縣長官ニ致シ、或ハ部署ヲ定メテ派出誘導ノ策ヲ講ズル等、専心致行セザルハナシ、然レ共日月流レ易ク速ニ效果ヲ收ムル能ハザルハ、轉焦慮ニ堪ザル所ナリ。

明治二十五年一月一日、例ニ依リ、新年拜賀式ヲ行フ。
農業館陳列品整理ヲ要スルモノアリ、本年四月、幹事田中芳男來リ
テ之ヲ監督ス。

六月六日、委員宇仁田宗馨ニ幹事ヲ囑託ス。

本會創業以來、經營數年、既ニ造苑ノ土功ヲ修ムト雖モ、第二ノ事業
未ダ其緒ニ就クエト能ハズ、前途遼遠頗ル豫期ニ違ヘリ、蓋時勢推
遷、最モ募金ノ困難ヲ來シ隨テ事業ノ進行ヲ害フ、今ヤ宜ク時機ヲ
審察シ將來應變ノ方策ヲ定ムベシ。茲ニ於テ七月一日、東京事務所
ニ評議會ヲ開キ、左ノ方針ヲ決議ス。

本會ノ事業目的ハ會則第二條ニ掲グル如ク、第一苑圃ノ開造土功第二徵古館ノ設
置第三待客館舎ノ建築ニ在リ、而シテ其事業未ダ完全ニ至ラズシテ時勢一變、義捐
金募集ノ舉四方ニ起リ、人皆其事ノ正否ヲ選ムニ違アラズ、只之ヲ忌避スルノ風ヲ

ナシ、大ニ本會ニ影響ヲ及ボセリ、故ニ衷ヲ披キ誠ヲ推シ誘導洵ニ容易ナラズ、而シ
テ其承諾ヲ得タル寄附金僅カニ貳萬五千圓、是或ハ當局者力足ラザルノ致ス所ナ
リト雖モ、時勢ノ變遷亦其一原因ト謂ハザルベカラズ、此ノ如キノ實況ナルヲ以テ
當初以來ノ寄附額ヲ合算スルモ拾八萬九千餘圓ニ止マリ、此内既ニ支出ヲ了セシ
事業經營及維持ノ經費等八萬餘圓ヲ除キ、又寄附額ノ内勞力ヲ以テセンコトヲ約
セシモノ、其勞力ヲ要セザルニ至レルガ爲メ、減ズベキ高凡四萬圓ヲ除クトキハ、今
後維持ノ原資ニ充ベキモノ、外更ニ事業進行ニ充ベキ餘裕ナシ、依テ此際ニ於テ
本會事業ノ處置及將來ノ方針ヲ定ムル左ノ如シ

一 既成ノ事業ヲ以テ第一期一段落トシ、本年十月十一日ヲトシ、總裁殿下台臨、開
苑奉告祭并ニ開苑式ヲ舉行セラルベキ事

理由 既ニ神苑開造略成ルヲ告グ、隨テ奉告ノ祭典、開苑ノ儀式ヲ舉行セザルベカ
ラズ、然ルニ其典式ノ如キハ極メテ盛大ナラザルモ、寧ロ其敬ヲ盡シ信ヲ立ルヲ旨
トシ、僅ニ六百餘圓ノ經費ヲ以テ質素ニ舉行スベキモノトス

一 既成ノ 兩宮苑圃地ヲ 神宮附屬地ニ獻納シ、將來其神苑ノ維持保存ハ本會之

ヲ擔任シ、其維持費ハ本會之ヲ負擔スベキ事、但倉田山苑園并ニ岡田林丸山琴ヶ岡ハ先ヅ當分従前ノ儘、本會ニ於テ維持スルモノトス
理由 本會ハ元是有志者共立ノ一私會タルニ過ギズ千百年ノ事固ヨリ期スベカラズ、而シテ其地所本會ニ屬スルトキハ、神苑ノ名稱、本會ト盛衰ヲ同クセザルヲ得ズ、是誠ニ憂懼ニ堪ザル所ナリ、依テ其成ルニ從ヒ之ヲ 神宮ニ獻ジ、本會ハ其維持者ノ責ニ任ゼントスルモノナリ

一開苑式舉行、苑地獻納ヲ了スル迄ヲ、本會事業ノ第一期トシ、其以後ヲ第二期トス、故ニ第一期中、既納ノ金員并ニ之ニ屬スル豫約ノ金員ハ、本期事業ノ維持費ニ充テ、更ニ第二期ニ至リ、新寄附ノ金員ヲ以テ、將來進行ノ事業費及維持費ニ充ツベシ理由 事業費維持費相伴ハズシテ徒ニ進行シ、願慮スル所ナキニ於テハ、却ツテ他日神宮司廳ヲ煩ハスノ憂ナキ能ハズ、現在既成ノ事業ニ要スル維持費ヲ豫算スルニ、凡一個年參千五百圓許、此原資ハ五分ノ利ヲ生ジ得ルモノトスレバ七萬圓ヲ要ス、然ルニ既ニ申込アリシ寄附金ヲ悉皆徴收シ了レバ五萬圓ノ原資ヲ得ベキヲ以テ、是ヨリ七分ノ利ヲ生ゼシムルコトヲ勸メテ、之ヲ第一期ノ維持費ニ充ツ、是即チ

一期二期ノ段落ヲ明ニセザルヲ得ザル所以ナリ

右決議ノ方針ニ由リ、來ル十月、總裁殿下ノ台臨ヲ仰ギ、内宮神苑ニ於テ開苑奉告ノ祭典并ニ開苑式ヲ舉行スルニ決シ、奉告祭式開苑式直會宴會ニ關スル件等其順序ヲ定メ、本年七月廣告通牒既ニ了ルノ後、九月二十三日ニ至リ其期日ヲ十二月十一日ニ變更シ、再ビ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ廣告セリ、蓋 總裁殿下、今秋十月執行アラセラルベキ陸軍大演習ノ御用アラセラル、ニ由ル。既ニシテ開苑式豫定ノ期ニ接近スルヤ、三重事務所ニ於テハ、幹事委員書記・雇員等、各分擔シテ之ガ準備ニ從事シ、幹事宇仁田宗馨ヲ開苑式事務掛トシテ之ヲ督理セシム。其執行ニ關シ東京事務所ニ稟議ヲ要スルモノアリ、十一月二十六日宇仁田幹事上京、左ノ諸件ヲ協定シ、十二月二日歸所ス。

一開苑式招待狀ノ件

一直會宴會ニ參列スルハ金百圓以上ノ寄附者ト内定セシヲ五拾圓以上ノ寄附者ト收ムル事

一直會宴會ノ節ハ 總裁殿下ノ御酒肴七種ノ内定ヲ三種ニ改メ、一般招待人モ三種トスル事

一奉獻能樂ハ十一日 外宮苑地ニ、十二日 内宮苑地ニ奏行スル事

一能樂煙花其他苑地點燈等有志者主催ニ係ル分ニ對シ慰勞トシテ金員贈與ノ事

一總裁殿下及會頭來ル十二月八日名古屋ニ宿泊、九日御着ノ事

十二月一日、東京事務所ニ於テ、開苑式案内狀及依頼狀ヲ發シ、官報并ニ新聞紙ヲ以テ其式日ヲ廣告ス、案内狀依頼狀等左ノ如シ。

- 一 第一案内狀 直會宴會招待 一 第二案内狀 評議員案内狀
- 一 第三案内狀 三重管内紅紐牌員 一 第四通知書 管外一般會員
- 一 第五廣告 官報并ニ新聞紙 一 第六依頼狀 地方委員長
- 一 第七依頼書 皇族方家令

(第一案内狀)

拜啓、陳者來十一日午後一時於 内宮神苑地、本會開苑式舉行可致ニ就テハ、御都合ヲ以テ式場御參列相成候様致度、且翌十二日正午祭主館借用、直會ノ宴相開御招待申度尤 總裁殿下ニモ御臨席可相成、猶能樂奉獻等モ有之候ニ付、何卒御參會被下度、此段得貴意候 敬具

明治二十五年十二月一日

神苑會三重幹事長 成川 尙 義
神苑會 會頭 花房 義 質

宛

追テ御諾否御一報被下度、且宇治山田町へ御到着相成候ハ、同地本會事務所へ御通知被下度尤參宮者汽車乘組取扱方左之通ニ付、四日市河原田高宮下庄一身田ノ五驛ヨリ津迄、津ヨリ關西鐵道會社各驛へ御乘車ノ節ハ、本會證牌證狀若クハ此案内狀ヲ以テ本會會員タルコトヲ證明相成度、此段申添候也

一大阪京都馬場三驛ヨリ津迄、九日ヨリ十一日迄半賃ニテ往復切符ヲ發行ス

一關西鐵道會社各驛ヨリ、津迄、津ヨリ同社各驛迄ハ、九日ヨリ十三日迄乘車賃半額

(第二案内狀)

拜啓陳者本會造苑事業略竣工ニ付彌來ル十一日ヲ期シ於 內宮神苑地開苑式舉行十二日能樂奉獻致候ニ就テハ御都合ヲ以テ式場へ御參列相成候様致度此段得 貴意候 敬具

明治二十五年十二月一日

神苑會會頭 花房 義 質

神苑會評議員宛

追テ宇治山田町へ御到着相成候ハ、同地本會事務所へ御一報被下度且參宮者汽車乘組取扱方左ノ通ニ付以下同文

(第三案内狀)

拜啓陳者本會造苑事業略竣工ニ付本月十一日於 內宮神苑地開苑式舉行十二日能樂奉獻致候間御參向相成度希望致シ候此段及御案内候也

明治二十五年十二月一日

神苑會三重幹事長 成川 尙 義

神苑會 會頭 花房 義 質

宛

二白參宮者(以下同文)

(第四通知書)

拜啓陳者本會開苑式ノ儀彌以本月十一日於伊勢 內宮神苑地致舉行且翌十二日能樂奉獻致候幸ニ御參會相成候ハ、大慶ノ事ニ候此段及御通知候也

明治二十五年十二月一日

神 苑 會

宛

二白(同文)

(第五廣告)

本月十一日彌以伊勢神苑地ニ於テ開苑式舉行シ翌十二日能樂奉獻ス

但參宮者汽車乘組取扱方左ノ通ニ付四日市河原田高宮下庄一身田ノ五驛ヨリ津マデ津ヨリ關西鐵道會社各驛へ御乗車ノ節ハ本會證牌若クハ證狀ヲ以テ本會會員タルコトヲ證明セラルベシ

一大阪京都馬場三驛ヨリ津マデハ九日ヨリ十一日マデ半賃ニテ往復切符ヲ發行ス

一關西鐵道會社各驛ヨリ津マデ津ヨリ同社各驛マデハ九日ヨリ十三日マデ乗車

貸半減

明治二十五年十二月一日

神 苑 會

(第六依頼狀)

拜啓陳者來ル十一月日本會開苑式舉行翌十二日能樂奉獻致候ニ就テハ、罷ニ官報新聞等ヲ以テ報告致置候次第モ有之候處、委員及會員ニ限リ更ニ別紙甲號ノ通通知書差出候間、自然遺漏モ有之候ハ、別紙印刷物へ宛名御記入、配付方御取計被下度此段得貴意候 敬具

明治二十五年十二月一日

神苑會會頭 花房 義 質

地方委員長宛

追テ本文外、別ニ乙號ノ通官報及新聞ヲ以テ廣告ニ及候間御管内ニ於テモ適宜廣告御取計被下度候也

別紙甲號ハ前記第四通知書、乙號ハ第五廣告文同様ニ付茲ニ略ス

(第七依頼書)

拜啓陳者本會造苑事業略竣工ニ付來十一月一日於 內宮神苑地開苑式舉行致候間、

殿下へ御披露被成下度、此段得貴意候 敬具

明治二十五年十二月一日

神苑會會頭 花房 義 質

伏見宮家令 淺田進五郎殿

山階宮家令 黒岩直方殿

小松宮家令 長崎省吾殿

北白川宮家令 千藤孝行殿

華頂宮家令 萩原是知殿

梨本宮家令 西尾爲忠殿

(各通)

十二月五日、總裁殿下御發着日割、左ノ如ク決定セラル。

七日午前八時東京御發程

濱松御泊

八日

草津御泊

九日

津 御泊

十日 松坂ヨリ松坂マテ三重縣備前馬車御召 宇治御泊
松坂ヨリ山田マテ神宮司廳備前馬車御召 宇治御泊

十二月七日、開苑式參列會員宿泊所ヲ、宇治山田町旅人宿、宇仁館以

下十三個所ト定メ、之ニ對シテ注意事項ヲ指示シ、請書ヲ徵ス。

九日、總裁殿下奉迎ノ爲、幹事宇仁田宗馨、津市ニ出張ス。幹事田中芳男、同飯田巽、東京ヲ發シ、此日山田ニ着ス。

十日、午後二時、總裁殿下、浦田町祭主官舎ニ御着アラセラル、三重幹事委員、會員、事務所員等宮川ニ奉迎シ、會頭幹事等官舎ニ伺候ス。

十一日、内宮神苑地式場ノ設備整頓シ、正午開苑奉告祭典ヲ舉ゲ、次デ開苑式ヲ舉グ、其次第左ノ如シ。

第一鼓 會員一同式場ニ着床

第二鼓 神饌及神床祭場ノ器具ヲ辨備ス、豫メ神床ノ神籬ヲ建ツ

第三鼓 祭員一同祭場ニ着床、椅子ヲ用ユ以下之ニ準ズ

總裁殿下御着床 參列諸員敬禮

先祭員一同、白狩衣進テ修祓所ニ就キ祓ヲ修シ、大麻ヲ執テ神床神饌ヲ清メ、畢テ祭員及諸員ヲ清メ、大麻ヲ元ノ所ニ樹テ復床、祭儀立禮

次祭員一員、白狩衣進テ御籬ヲ執リ、神床以下ヲ清ム

次祭員一員、白狩衣進テ神降ノ詞ヲ申ス、畢テ復床 此間諸員磬折

次祭員一員、白狩衣進テ神床先皇大神宮前ニ候ス

次祭員四員、白狩衣進テ葉薦及饌案ヲ次第ニ神前祇候ノ祭員ニ傳フ、設ケ畢テ各復床

次祭員六員、白狩衣進テ神饌神酒ヲ次第ニ案前祇候ノ祭員ニ傳ヘ、奠シ畢テ各復床

此間奏樂

次祭員一員、白狩衣進テ祭文ヲ奉讀シ、畢テ復床

此間諸員磬折

次祭員一同、八拜手兩端

次祭員一同、白狩衣進テ饌案ノ前先皇大神宮ニ候ス

次祭員一員、白狩衣進テ二獻ノ神酒ヲ案前祇候ノ祭員ニ傳ヘ、奠シ畢テ各復床

此間奏樂

次、祭員一同奉拜手一端

次、總裁殿下及諸員起床一拜

次、終享奏樂

次、祭員一員、白狩衣進テ神饌案先皇大神宮ニ候シ神饌神酒ヲ撤ス

次、祭員六員、白狩衣進テ神饌ヲ次第ニ傳ヘ撤シ畢テ復床

此間奏樂

次、祭員一員、白狩衣進テ饌案及葉薦ヲ撤ス

先皇大神宮

次、豐受大神宮

次、祭員四員、白狩衣進テ饌案及葉薦ヲ次第ニ傳ヘテ撤下シ畢テ復床

此間諸員磬折

右祭典畢テ開苑式ヲ舉グ其順序左ノ如シ

一、總裁殿下令旨

一、會頭答辭

一、幹事長祝辭

一、幹事會務(農業館ノ件)ヲ報告ス

一、宇治山田町長祝辭

饗膳式

一、會員二名、臺机ヲ捧ゲテ 殿下ノ前ニ居ユ

次、會員一名、饗膳ノ案ヲ捧ゲテ前ノ臺机ノ上ニ居ユ

次、幹事進テ饗案ノ前ニ候ス

次、配膳ノ會員二名一員ハ瓶子ヲ執リ、一員ハ杯ヲ執リ、進テ勸杯、幹事ノ側ニ候ス

次、幹事會員所執ノ杯ヲ把リ、扇ヲ以テ掃フコト三度、酒ヲ會員ニ盛ラシメ、殿下ニ

初獻ヲ進ム

殿下拍手一之ヲ受ケ、飲ミ畢テ杯ヲ配膳ノ會員ニ附ス、幹事會員各復床

次、委員一名、饗膳案ノ前ニ進ミ御箸ヲ申復床

次、三獻ノ杯ヲ進ム、次第二獻ノ如シ

次、殿下會員ニ御會釋

次、會員四名參列員ヲ一々呼出シ案前ニ於テ酒杯ヲ授ク

次、會員二名臺机ヲ撤ス

次、總裁殿下以下祭員退場

諸員敬禮

次、參列員一同ニ箱入ノ土器一菓子一及花輪正模寄贈ニ係ル扇子ヲ頒テ、一同退散

神苑開苑報告祭修祓

祓所乃大神乃前留白久今日乃神業仕奉留大御食大御酒乎始且此乃神苑留參集留人等乎祓清留事乃由乎相宇豆奈比給止此乃禮代捧進且請祈奉留狀乎平久安久所聞食止恐美恐美申須

明治二十五年十二月十一日

神苑開苑報告祭祝詞

此乃敷座留神苑乃真中留伊豆乃真屋乎造利伊豆乃神床乎設計掛卷茂畏岐天照皇大神

豐受大神二柱能大御靈乎其乃神床留招奉里合座奉且利神苑會乃會員等諸常利與殊留

忌利波清萬波海河山野乃種々乃御響奉且内外乃宮乃二所乃神苑乎造利營美奉留御苑祝乃賀詞白志賜止波久白須阿波禮此乃内宮乃大宮地母波纏向珠城宮留御宇天皇乃大御代留大宮定奉且止近岐界遠岐境各毛各毛四至定奉且時留東南西乃方波深山乎限利北乃方波宇治川乃廻里流留限利一里餘乎利限里賜且其乃内留人不住止定米賜比制天賜天比又外宮乃大宮地毛波延長四年留内宮乃宮地留準比大垣乃外乃回各肆拾丈乎限里賜且比其乃内留人宅不合在止制天賜比禁米賜岐比如是制米賜比禁米賜留大御制波今乃現留解放留介多留有良石乃上乃舊留御代乃事留有禮年月乃累流留何時毛止志無久弛留計美留神官等波言卷母更利奈中古乃頃留與利商估人等且萬稍々留移比住此穢岐家居醜岐米住所乃御座邊近久立列里近岐界乃御注繩乃内留市町乎左造里續且介諸乃汚穢波更奈火乃災毛度々起天里大御内留及留倍事母一度二度留非須火災止云火災乃皆此乃近岐家居里起留毛多慷毛止志慷久畏岐極留奈有留介茲仁明治乃下知食毛與以後萬機波盡留張利百度波次々留具備波里奴大御代乃御光乎得氏皇大神等乃敷座留世大宮地毛近岐世能汚穢乎攘比遠岐世乃跡留與會里且往昔樣留復志且大御掟留從止且萬志有留人々等相語比相議里斯久神苑會止云布會社乎與里

故爾 總裁有柄川熾仁親王 始互前會頭吉井友實今乃會頭花房義質等四方國乃
 縣知事等爾所々平分持米多志廣久深久遠久人々平誘導志故爾
 天皇爾聞食左志賞賜比贊賜且恐俊所々乃御渡毛爾阿奈奈比賜且比許多乃黃金且寄世
 賜俊比是爾依且天下乃公民等波男止無久女止無久老止多里無久近俊者波相呼比遠俊
 者波相傳且倍天下乃公業須奈成留波多御代乃御榮波云卷茂更奈禮專二所乃
 皇大神乃廣久厚久高久尊俊御恩德爾會員等諸畏美奉里辱美奉里禮故是爾依且去明
 治十九年六月里與事始米同二十二年爾至留爾彼乃近俊御注繩乃內留奈町四町戸百六
 十九戸悉爾取退且介其他坪若干坪毛購得且內外二所乃神苑地登為志其賀中爾春乃
 花乃樹秋乃黃葉常磐乃小松堅磐乃小笹種々乃物乎植並倍且啖丹寶布櫻乃春波和妙
 乃御裝束織留倍狹丹釣相紅葉乃秋波照妙乃神御裝染武倍露結布玉笹乃葉波月乃
 八十影宿良志平色更奴姬松我枝波雪乃白木綿加志幸池乃心廣久思比樹立能林深久
 慮且立石波高久芝生波平且介花乃區々庭乃八十隈漏留事無久落留事無久事美久
 二所乃神苑造里奉里竟都禮自今以後波無民乃汚穢毛無久畏俊火乃災害毛無久太
 古乃御定毛爾立勝且利見并加座左四時乃眺望毛絕留事無久盡留時無久常磐爾堅磐爾

大座々左平會員等諸嬉美志辱奈樂美志悅波餘爾月乃中爾月乎擇美日乃中爾日乎擇美
 今年明治二十五年十二月十一日平生日乃足日止撰定且米神苑地開苑乃祝詞聞衣奉
 良久言卷茂尊俊

二柱乃大神阿那阿波禮止聞食志阿那米傳太止看行且志參入里罷出流國々乃諸人等
 毛爾見志悅米志見志娛米天志御盛德波此乃御苑爾春乃花乃榮留如久秋乃葉乃照留
 如久小笹乃月能真左那加爾小松乃雪乃彌高爾見霧志座須大御眺望乃絕留事無久
 盡留時無俊我如久天下四方國乃大御寶等爾御恩賴乎蒙米良志賜止倍神苑會會員諸大前
 爾集侍且御苑壽乃賀詞乎竟奉止良久白須

明治二十五年十二月十一日

令旨總裁殿下開苑式御祝辭

神苑新ニ設ケテ深邃ノ幽光ヲ騰ゲ、靈境倍ス拓ケテ清淨ノ樂郷ヲ
 添フ、人心ノ歸向スル所、
 神慮安ゾ安享シ玉ハザルアラシヤ、茲ニ良辰ヲトシ開苑ノ典ヲ舉

グ、抑モ創始ノ難キ發意者經營ノ勞ヲ知ルベシ、竣成ノ丞ナル、會員協贊ノ效ヲ見ルベシ、而シテ之ヲ永久ニ保存スルハ守成者ノ精誠ニ賴ラザルベカラズ、因テ聊カ開苑ヲ賀シ、併テ本會將來ノ隆盛ヲ祝ス。

花房會頭答辭

今茲明治二十五年十二月十一日、總裁殿下親ク臨テ神苑開創ノ典ヲ舉ゲ、辱ク令旨ヲ賜ヘリ、伏テ惟ニ神德ノ光輝八表ニ被テ赫々タリ、祀典ノ尊嚴千古ニ亘テ穆々タリ、而シテ歲月ノ久シキ、靈域ノ或ハ潔淨ヲ闕カンコトヲ恐レ、有志者相謀テ本會ヲ設立シ、拮据經營、賓日館ヲ設ケテ賓客燕息ノ所ニ充テ、農業館ヲ置テ以テ農産勸誘ノ資ニ供ス、他日將ニ徵古館ヲ完成シテ以テ本會ノ企圖ヲ達セントス、義質等夙ニ宗祀恭敬ノ誠ヲ表シ、宮城齋肅ノ觀ヲ補ハント欲スルノ微衷貫徹シ、今ヤ此盛典ヲ舉ゲ、殿下ノ親臨ヲ辱スルヲ得ルニ至ル、洵ニ欣喜ノ至ニ勝ヘザル所ナリ、然レドモ業ハ創ムルニ易クシテ守ルニ難シ、義質等終ヲ慎ムコト宜シク始ノ如ク

スベシ、是、殿下ノ獎勵アル所以ナリ、義質不敏乏ヲ會頭ニ承ク、願ハクハ會員協同ノ力ト國民崇敬ノ誠トニ賴リ、盛事ヲ無疆ニ顯揚シ、殿下ノ令旨ニ背クナキヲ期セントス、神苑會頭花房義質誠恐誠惶、謹テ奉答ス

成川幹事長祝辭

恭惟ルニ

今上、宸宇ニ御シテ乾綱復歸シ、光澤洽被シテ百度俱ニ舉ル、乃チ首トシテ大廟ヲ修シ、祭祀典禮舊制ニ從ヒ、以テ國家治道ノ大本ヲ明ニシ玉フ、洵ニ盛且大ナリト謂フベキナリ、本會臣民ノ至誠ヲ以テ斯ノ盛旨ヲ奉體シ、大ニ神苑ヲ開ラキ靈地ヲ擴修シテ國光ヲ顯揚シ、聊カ神祖覆載ノ洪恩ニ報ジ奉ラント欲スル茲ニ久シ矣、而シテ殿下維城ノ懿親、節錚ノ重任ニ膺リ、謀猷獻替、夙夜鞅掌ノ勞ヲ厭ハセラレズ、又本會ヲ總裁セラレ、ノ榮ヲ賜フ、是誠ニ上聖旨ヲ贊翼シ、下臣民ノ至情ヲ嘉納セラル、ノ盛意ニ出ヅ尙義等誠惶誠恐感激ノ至ニ堪ヘズ、抑本會設置以來、規模ヲ畫定シ、施設ヲ次第シ、拮据經營茲ニ六年、四方會員子來協同シテ成功ヲ促シ、今ヤ苑地泉石樹竹ノ配置略ホ整ヒ、

農業賓日ノ兩館モ亦既ニ竣ヲ告グ、輒チ本日ヲトシテ親シク開苑ノ式ヲ舉ラル、ニ至レリ、蓋シ此一大事業ニシテ竣功ノ速ナルト成績ノ美ナルトハ、偏ニ殿下ノ懿徳ト會員ノ勉勵ニ賴リ、而シテ

祖宗在天ノ靈照鑒ヲ賜フニ因ラズンバアラズ、尙義之キヲ幹事長ニ承ケ、犬馬ノ勞未ダ以テ令旨ニ酬ヒ奉ルニ足ラズ、今此盛典ニ陪シテ歡喜慚惶交々至ル、只爾後益奮勵從事、進デ微古館ヲ建築シ、苑地ヲ豫定ノ區域ニ擴張シテ以テ殿下ノ盛意ニ對ヘ、會員ノ希望ニ副ハンコト竊ニ期スル所ナリ、謹デ殿下ノ盛徳ヲ奉頌シ、併セテ本會ノ隆盛ヲ祝ス

神苑會三重幹事長從四位成川尙義代理

神苑會三重幹事從六位 岩 男 三 郎

田中幹事報告(農業館ノ件)

農業館ヲ設立セラル、ノ計畫ハ、去ル明治二十三年七月ニ在リシモ、本員ガ前ノ會頭吉井伯ヨリ其設計ヲ示サレ、賛成ノ意見ヲ述ベタルハ同年十一月ニアリ、而シテ屢其協議ニ預リ、遂ニ翌二十四年一月花房副會頭ト共ニ此地ニ來リ土地ヲ選定シ

タルノ後豐川町ノ地ヲ相シテ設立スルコトナリ、次デ本館ノ建築ヲ竣リ、開館ノ式ヲ行ハレシハ同年五月ニ在ルモ、當時陳列スル物品ハ甚ダ僅少ナリシ、爾來間斷ナク物品ノ蒐集調製ニ從事シ、今ハ殆ド館内餘地ナキニ至レリ、茲ニ其陳列スル所ノ物品并ニ圖書ノ數ヲ舉レバ、物品ノ數ハ凡ソ二千二百點ニシテ、其内寄贈ニ係ルモノ凡ソ一千八百點、購入ニ係ルモノ凡ソ四百點アリ、又圖書ノ數ハ凡ソ一千一百ニシテ、其内寄贈ニ係ルモノ八百五十、購入ニ係ルモノ二百五十アリテ、總計三千三百點トス、然ルニ目下展列スル所尙ホ未ダ其分類ノ區別ヲ判然スルコト能ハザルハ物品ノ全備セザルト、館内ノ狹隘ナルトニヨル、故ニ向來益其缺漏ヲ補ヒ、漸次完全ノ位置ニ達セシメ、殖産興業上ノ模範トナリ、衆庶ニ裨益ヲ與ヘンコトヲ希望スル所ナリ、本日開苑式ニ臨ミ、謹デ顛末ヲ述ブルト云爾

明治二十五年十二月十一日 神苑會幹事從四位勳三等 田中芳男

宇治山田町長祝辭

今茲明治二十五年十二月十一日

總裁殿下親シク式場ニ臨マセ給ヒ、地ヲ神苑内ニトシテ開苑式ヲ舉行セラル、仰デ

神路山ノ巍々タルヲ望ミ俯シテ五十鈴川ノ湯々タルヲ見ル
 皇風ノ淵源スル所光景歴々筆舌何ゾ及バン大方ノ紳士亦茲ニ會同參列シ拜觀者
 塔ノ如シ誠ニ昭代ノ盛典曠世ノ逸事也癡ニ吾町民率先首唱經營怠ラザルニ方リ
 宮廷特ニ微衷ヲ獎成セラル、アリ遂ニ公衆ノ協贊ヲ得テ今日ノ盛典ニ逢フ蓋
 神人一和ノ績ニ非ルハナシ茲ニ恭ク 神德ノ極ミナキヲ仰ギ奉リ恭ク 聖代ノ
 雍熙ヲ頌シ奉リ以テ 皇都ト共ニ益々 神都ノ隆昌ヲ謳歌セントス聊カ不腆ノ
 辭ヲ具ヘテ本日ノ盛典ヲ祝スト云爾

明治二十五年十二月十一日

宇治山田町長 村 井 恒 藏 敬白

此日參列員ニ頒ツ所ノ土器(酒盃)ハ其質純白其形匾圓ニシテ徑凡
 三寸六分正中ニ 神宮徽章ノ菱花紋アリ而シテ納ムルニ桐箱ヲ
 以テス蓋好個ノ紀念品タリ。

翌十二日正午直會宴會ヲ祭主官舎ニ行ハル此日招待ニ與カリ參
 殿スル者百六十名豫定ニ從ヒ午前十一時三十分迄ニ控所(官舎)ノ

北隣神宮教院ニ參集シ同十一時五十分參殿ス(但服裝羽織袴祭服
 「フロックコート」)

儀式順序

- 一 招待人着席
- 一 總裁殿下御臨席 一同敬禮 (正午)
- 一 殿下ニ御酒肴ヲ上ル
- 一 招待人一同ニ酒肴ヲ頒ツ
- 一 殿下令詞ヲ賜フ
- 一 殿下御退席 (午後二時)
- 一 招待人隨意退席

殿下ノ令詞

昨日ハ神苑奉告祭式無事相濟喜悅ニ堪ヘズ多年會員諸子及有志
 者ノ盡力満足ニ存ズ本日直會式ヲ行フニ付各歡ヲ盡サレント

ヲ望ム。

此夕、花房會頭夜會ヲ旅館澤湯ニ催シ、三重幹事并ニ委員ヲ饗ス、奉獻能樂ノ仕手觀世清廉、片山九郎三郎、大和田建樹等興ヲ幫ケテ席上數番ノ謠曲ヲ奏セリ。

開苑式既ニ終ル、其招待人員計千八百九十七名、内參列セシ者千六百十九名、内三重縣管内千三百五十六名、直會宴會招待人員計二百四十一名、内參列セシ者百六十名。

舉式ノ當日、宇治山田町有志ノ徒、餘興トシテ煙花數百發ヲ寄附ス、即チ晝ノ部ヲ 内宮附近ニ、夜ノ部ヲ 外宮附近ニ放揚シ、本會奉獻ノ能樂ハ十一日 外宮苑地ニ、十二日 内宮苑地ニ於テシ、各衆庶ノ拜觀ヲ縱セリ。又九日ヨリ十五日ニ至ルマデ、農業館ノ無料觀覽ヲ縱セリ。

神苑會開苑式奉獻能樂(二十五年十二月十二日午前十時ヨリ 内宮苑地ニ於テ奏演)

能組

柴田 殺彦

小 鍛 治 西村敬光 角田 銘二 鬼頭 八郎
山岡 正吉 藤田 清二郎

咲 化 磯部 三段二

觀世 清廉

三 輪 加藤十郎 角田 銘二 鬼頭 八郎
山岡 正吉 藤田 清二郎

飛 越 後藤 三平

片山九郎三郎

土 蜘蛛 西村敬光 吉田 方條 鬼頭 八郎
山岡 正吉 藤田 清二郎

入述之傳

附祝言

式既ニ畢リシガ爲メ、花房會頭櫻井飯田兩幹事等十三日ヲ以テ歸京シ、總裁殿下ニハ十八日ヲ以テ御歸京アラセラル、三重幹事委

員・會員等ノ奉送スル者奉迎ノ時ニ同シ

本會久シク會計決算ノ報告ヲ省略セリ、今茲ニ開苑式ノ濟了ヲ機トシ、其式口ノ概況ニ併スニ創業以來本年本月ニ至ル出納決算ヲ以テシ、本月下旬新聞紙ニ依リテ之ヲ會員ニ廣告ス。

神苑會會員諸君ニ廣告

本會開苑式曩ニ廣告ノ通本月十一日午後一時開始シ、奉告祭ニ引續キ 總裁殿下祝辭會頭答辭三重幹事長祝辭幹事ノ會務報告農業館報告畢テ饗膳ノ儀アリ、參會者二千人許、殿下ノ御流盃ヲ拜戴シテ退散セリ、此日宇治山田町ノ有志者ハ能樂煙花球燈ヲ奉獻シ、翌十二日ハ祭主御館ニ於テ直會ヲ行ヒ又 內宮苑地ニ於テ能樂ヲ奉獻セリ、本會會計決算ハ毎年報告スベキノ處創業ノ際其手續ヲ省略シタルニ付、今般開苑式ヲ期トシテ併テ茲ニ明治十九年六月以降二十四年十二月ニ至ル出納ノ決算ヲ報告ス

明治二十五年十二月

神苑會

神苑會會計決算(自明治二十九年六月至明治二十四年十二月)

一金拾參萬五拾圓九拾七錢七厘

收 入 高

此 譯

金九萬五千五百七拾貳圓貳拾五錢壹厘

寄 附

金千貳百四拾八圓壹厘

苑館收入

金五百拾七圓七拾七錢參厘

資財收益

金七拾壹圓四拾七錢六厘

事務所雜收

金參萬貳千六百四拾壹圓四拾七錢六厘

借 入

一金拾貳萬貳千八百貳拾圓貳拾壹錢四厘

支 出 高

此 譯

金七千九百九拾圓參拾六錢四厘

地 所

金九千九百九拾四圓八拾錢參厘

館 舍

金千四百四拾八圓拾六錢六厘

農 業 供 品

金四萬五千參百貳拾壹圓拾四錢

庭 苑 費

金參千貳百四拾八圓貳拾貳錢九厘

館 舍 費

第六編 成立第二期 明治二十五年

三七五

金壹萬九千五百四拾八圓九拾錢壹厘	事務費
金貳百拾圓五拾八錢	寄贈
金貳拾七圓九拾六錢四厘	割引利子
金參千四百八拾八圓五拾九錢壹厘	借入金利子
金參萬貳千六百四拾壹圓四拾七錢六厘	借入金返戻
一金七千貳百參拾圓七拾六錢參厘	殘高

右之通

明治二十六年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ行フ。

三月八日正午、所有山林岡田林、火ヲ失シ午後二時鎮火ス、此日西風火勢ヲ煽セシモ、市街及神宮司廳ノ消防夫等、力ヲ盡シ燒失區域極メテ狹小ニ止マルヲ得タリ、其損害ノ程度立木一尺回以下百二十本(價金壹圓貳拾錢)ニ過ギズト雖モ、宮城山林ニ接邇セルヲ以テ一時大ニ驚怖セリ、發火ノ原、樵夫西川某ナル者柴草刈除中、喫煙ノ

殘煖ヲ逸セシニ因ル。

四月十二日、三重縣各郡并ニ附近府縣ノ募金ヲ督促センガ爲メ、三重事務所員ノ分擔區域ヲ定メ、各員ヲシテ專ラ事ニ從ハシメ、次デ五月、太田、宇仁田ノ兩幹事、一府六縣下ニ出テ勸誘ス。

六月十三日、三重幹事長成川尙義書ヲ會頭ニ致シ、本會事業ノ完成ヲ速カニセンコトヲ稟請ス、宇治山田町民亦陳情スル所アリ、幹事長副申送達ス、會頭乃チ幹事長ニ告ルニ、來二十八年ヲ期シテ徵古館ヲ建設スベキ旨ヲ以テシ。越テ八月委員福地復一ヲ三重事務所ニ派シ、幹事委員ヲ會シテ其建設ニ係ル諸件ヲ協議セシム。幹事長ノ稟申、并ニ宇治山田町民陳情書左ノ如シ。

本會創立ノ目的ハ、兩苑地ノ築造及徵古館待客館ヲ建設シ、以テ事業ノ隆盛ヲ永遠ニ期スルニアリ、然ルニ本會創設以來、事業ノ成績ヲ看ルニ、壓カニ待客館徵古館ノ

一部分タル賓日館農業館ノ建設ニ止リ、其他ノ部分ハ今尙建設ノ運ニ至ラザルノミナラズ、去二十四年已來、事業ハ退歩ノ一方ニ傾キ、今ヤ幾ンド中絶ノ悲況ヲ呈スルニ至レリ、右ハ本會ノ資力乏シキニ據ルモノニシテ而シテ資力乏シキヲ告ゲシハ寄附金ノ募集意ノ如クナラザルガ爲メニ有之、然ルニ寄附者ノ一方ニ在リテハ事業ノ澹滞ニ不快ノ念ヲ抱キ、三重事務所ニ對シ、屢々右兩館殘部ノ建設ヲ促シ、甚シキハ之ヲ口實トシテ寄附金ヲ拒避スルモノアルニ至レリ、右ノ如キ實況ニ付、若シ本會ニシテ今日ノ儘ニ打過グルトキハ、竟ニ本會ノ信用ヲ失墜スルノ虞レナシトセズ、故ニ三重事務所幹事委員等ニ於テモ大ニ之ヲ憂慮シ、屢々集會、右挽回ノ方法ニ付協議ヲ凝シタルモ、結局創立ノ目的ヲ徹底スルノ外他ニ良案無キヲ以テ、銳意寄附金ノ募集ヲ努ムルコトニ協議一決致候ニ付、不日太田宇仁田兩幹事ヲ以テ近傍府縣へ巡回セシムル筈ニ候へ共到底一回ノ巡回ニテ好果ヲ收ムベキ望ナシ、如何トナレバ右兩幹事ハ何レモ他ニ業務ヲ有スルヲ以テ終始本務ニ專任シ難キ事情アレバナリ、依テ此際有給専務委員及書記數名ヲ選任シ、受持部内各府縣ニ差遣シ、汎ク會員ヲ募リ、以テ寄附金取集メノ事務ヲ爲取扱候ハ、大ニ便宜ヲ得ル儀

ト相考候、就テハ此際東京事務所ニ於テモ、専務委員等數名ヲ御選任相成、本會ノ爲メニ一層御盡力、三重事務所へ御委托以外ノ各府縣ニ就キ、充分御獎勵相成候様仕度、然ラザレバ本支部接續府縣ニ對スル行務上、彼是權衡ヲ失スル嫌モ有之、且三重受持部内ハ狹隘ニ付、此一部ノ寄附金ヲ以テ殘餘ノ事業ヲ結了スルハ到底至難ノ業ニ有之候條、自今、本支兩部氣脈ヲ一串シ、勵精寄附金ノ募集ニ力メ、速ニ兩館ノ殘務ヲ完結シ以テ本會創立ノ目的ヲ貫徹仕度ト存候間、前記兩事務所へ専務委員及書記數名御選任之儀御裁可成下サレ度、但右御裁可ノ上ハ、經常費以外ノ費途ヨリ、其手當ヲ御支給相成候様致度、右幹事委員ノ決議ニ依リ、此段稟申候也

明治二十六年六月十三日

神苑會三重幹事長 成川 尙義

神苑會會頭 花房 義 質殿

宇治山田町民ノ出セル陳情書ノ副申

度會郡宇治山田町長村井恒藏外五名ヨリ、本會事業施設之儀ニ付、別紙陳情書差出候ニ付、調査候處、右ハ宇治山田町發起人實際ノ情況ニ有之候、同伴ニ付テハ、今般太山宇仁田兩幹事、近府縣へ出張、寄附金募集ノ結果ニ依リ、尙義ヨリモ具上致度、次第

モ有之候ヘドモ、先以テ別紙進達候條、何分ノ御詮議相成度、此段副申候也。

明治二十六年六月十九日

神苑會三重幹事長 成川 尙義

神苑會會頭 花房 義質殿

陳情書

兩宮神苑ノ開設及賓日館ノ建營ハ神苑會既成ノ事業トシテ天下公衆ノ觀感ヲ惹起スル所ナリ、乃チ同會ガ組織ヲ皇張シ、規則ヲ確定セシト共ニ、能ク其唱道ノ事實ヲ闡明シ、以テ大ニ江湖ノ信認ヲ博セシ所以ノ者アリト謂フベシ、然レドモ會則第二條ニ明記セラレタル徵古館待客館建設ノ事ニ至テハ、未ダ着手ノ報ニ接スルヲ得ズ、之レ本町民等ガ發起者ノ分際トシテ特ニ其建設ヲ願フノ情ニ切ナル所ナリ、今ヤ交通ノ便日ニ備ハリ、參詣ノ人士愈々多シ、而シテ參宮鐵道ノ期成亦既ニ本年ニ迫レリ、若夫鐵軌一タビ通ジテ汽笛直チニ神都ヲ衝クノ日ハ、此他單ニ庶群ノ頻繁ヲ加フルノミナラズ、神苑會ノ事業ヲシテ益々顯著ナラシムルノ機ヲ與フルヤ疑ハザル也、殊ニ明治二十八年ハ恰モ第四回勸業大博覽會ノ開設ト共ニ、奠都千百

年ノ紀念祭ヲ舉ントシテ、京都市ガ專ラ其準備ヲ講ズルアリ、而シテ比近ノ府縣亦相聯絡シテ豫メ當時ニ應ズルノ設計ヲ定メントス、嗚呼日月流レ易ク好期再ビシ難シ、此時運ニ遭際シ、速カニ豫定ノ實蹟ヲ奏スルニ非ンバ、何ノ日カ又其完成ヲ望ム可ンヤ、是宜ク會務ノ振張ヲ策シ、進ンデ事業ノ施設ヲ畫スベキノ秋ナリ、願フニ明治二十二年ノ式年遷宮ニ瀕シテ、苑圃ノ期成ヲ促シタルハ、神苑會ガ既往ノ經歷ニ徵證スベキ所、其他賓日館農業館亦皆時會ノ宜キヲ邀ヘテ、速成ノ效果ヲ致ス者ニ非ルハ莫シ、事歷既ニ然リ、以テ將來ニ紹述スルニ足ル、然リト雖モ計圖雄宏、本一朝ノ成功ヲ期スベキノ非ザルヲ知ル、乃チ今ヨリ方途ヲ定メ、明治二十八年ヲ期シテ大成ノ域ニ至ランコトヲ佇望セズンバアラザルナリ、冀クハ閣下時會ノ順適ヲ諒トシ、裁斷稟議速カニ其施設ノ功ヲ奏セラレンコトヲ、本町民等切望悃請ノ至ニ堪ヘザル也。

明治二十五年六月十二日

宇治山田町會議員

島田長兵衛

山羽九郎兵衛

吉澤重郎

山本伊兵衛

同町長

村井恒藏

神苑會會頭 花房義質殿

六月十三日、農業館構内ニ建築スル文庫及附屬家屋、客年十月二十日起工シ、此日竣工ス。

七月三日、農業館附屬館移築ノ工ヲ起ス、此館元三重縣物産陳列場トシテ津市公園内ニ在リ、昨年縣會ノ議決ヲ經、館舎并ニ陳列品數百點、此價格金千九百八圓七拾六錢貳厘ヲ舉テ本會ニ寄附セラル、是レ此工ヲ起ス所以ナリ。

八月、幹事・中村秋香・三重幹事・岩男三郎・三重委員・田門愿一・瀨津恂渡・邊融・伊藤主一・下村御鋏等ヲ解キ新ニ幹事・阿部浩三・重幹事・池永端

三重委員・中山光大・松平正秀・吉村春樹等ヲ囑托セララル、是皆官歴異動ノ結果ナリ。又更ニ左記十二名ニ委員ヲ囑托シ、專ラ徵古館建築并物品ノ調査蒐集等ノ事ニ當ラシメ、評議員・渡邊洪基・重野安釋其事務ヲ董督ス。

黒川眞頼 坪井正五郎 坪井九馬三 箕作元八

福地復一 久留正道 岡倉覺三 今泉雄作

小中村義象 川崎千虎 小杉楯郎 御巫清直

東京事務所ニ於テハ、徵古館設立ヲ速ニセント欲シ、左ニ掲グル甲號主意書ニ添テ、乙號書面ヲ地方長官ニ、丙號書面ヲ地方委員長ニ發シ、專ラ寄附金募集ノ實務ニ従事ス。

丙號

拜啓愈御佳適奉賀候、陳者本會會員募集方、追々御盡力被下、感謝此事ニ候、然ル處、今般別紙甲號ノ通、本會規則第二條中ニ有之徵古館建設之儀、來二十八年ヲ期シ完成

之計畫ヲ以テ、從前委員設置無之各地方へ、別紙乙號之通及依頼、會員募集、一層擴張致候都合ニ有之候間、貴地方ニ於テモ、各委員諸氏御督勵、乍此上御補助被成下度、募集擴張主意書五十部相添、此段及御通牒候敬具

明治二十六年七月 日

神苑會會頭 花房 義 質

乙號

拜啓愈御多祥奉賀候陳者本會會員募集ニ付御縣地方委員御推薦勸誘方、御着手被成下度旨昨二十五年七月中、再應御依頼申進候趣モ有之候處、尙又今般別紙甲號之通、本會事業當初目的ノ一ナル徵古館來二十八年ヲ期シ完成ノ見込ヲ以テ、募集事務一層擴張ノ計畫モ有之、且本會ノ舉タル元來報本反始ノ微意ニ出テ候儀ニ付、凡ソ忠愛心ニ富ムノ帝國臣民ニシテ資力有之者ハ、必然贊成可有之ト確信致居候儀ニ候へ共、今別冊乙號會員贊助員名簿ニ徵シ候へバ、各地方應募ノ景況冷熱頗ル懸絶、自然民情土俗秦越休戚ヲ異ニスルノ外觀ヲ呈シ候次第、右ハ野生等不徳ノ致ス所畢竟本會ノ旨趣未ダ地方人民ニ徹底セザルニ由ル儀ト被存不堪慚愧仕合ニ御座候就テハ、再三之御依頼厚顔之至ニハ候へドモ、何卒衷情御洞察、此際一臂ノ御助

力被成下度、規則書、募集擴張主意書、各三十部、地方委員取扱心得六部相添、此段及御依頼候 敬具

明治二十六年七月

宛

神苑會會頭 花房 義 質

甲號

忠愛ノ精神ヲ發揚スルハ、典籍ニ據リ事物ニ徵シ、臣民其國ノ歴史ヲ知得スルニ在リ是即チ

天祖ノ 神徳ヲ顯彰シ、億兆仰敬ノ意ヲシテ益々厚カラシムル所以ニシテ、伊勢ノ神都ニ完全ナル徵古ノ設備ヲ爲スハ、本會已ニ之ヲ創業ノ初ニ企圖シ、曩ニ明治二十二年本會擴張ノ主意ヲ公ニスルニ及ビ、其規則第二條ニ徵古館ノ事ヲ掲ゲ、宮廷特ニ金圓ヲ賜ヒ有志家之ヲ贊助シタル本會大目的ノ一ナリトス
茲ニ本會經營スル所ノ苑圃、略其功ヲ竣へ、待客館ノ一ナル賓日館ハ早ク既ニ設置セリ、因テ去年十二月、總裁殿下親臨アリテ開苑式ヲ舉ラレタリト雖モ、徵古館ニ至リテハ其規模廣大、一朝完成ヲ期シ難キノ故ヲ以テ、僅ニ其一部分タル農業館ヲ

建設スルニ止レリ、是實ニ當初計畫ノ規模ト、上下ノ和同ヲ得タル目的トヲ完成セザルモノニシテ、日本國民ノ本分トシテ之ヲ企圖シタルモノ、安ズル能ハザル所ナルベシ、特ニ來明治二十八年ハ、京都ニ於テ桓武天皇奠都一千百年祭ヲ舉行シ、帝國政府ハ内國勸業博覽會ヲ開キ、近傍府縣之ニ應ズルノ設備アリ、帝國博物館ノ京都奈良ノ兩舊都ニ建設セラル、モノ、亦將ニ此時ヲ以テ落成ヲ見ルニ至ラントス、此神都ニシテ完全ナル徵古ノ機關ナキヲ得ベケンヤ、況ヤ此時タル關西鐵道ニ接シテ參宮鐵道既ニ成リ、億兆ノ人民此神都ニ臨至シテ以テ 神恩ヲ謝シ 神德ヲ仰ギ奉ルノ最好時期ナルヲヤ本會此機ヲ失ハズ、至當ノ計畫ニ據リ徵古館ヲ建營シ、典籍物品ヲ蒐集シ、神苑ト共ニ維持保存ノ根基ヲ鞏固ナラシメントス、然ニ本會ノ全國一致ノ協會ト爲リテヨリ以來有志ノ贊助ヲ得、資金ノ義捐ヲ受ルモノ、其額僅少ナリト謂フベカラザルモ、前記ノ目的ヲ完全ナラシメントスルニハ、尙數萬圓ノ資ヲ要スルヲ以テ、更ニ大方ノ賛成ヲ求ムルノ止ヲ得ザルニ至レリ、庶幾ハ最前其機ヲ得ズシテ本會會員ニ列セラレザル諸彦ハ本會ノ主旨ヲ納レ、此際奮テ會員ト爲リテ共ニ力ヲ戮セラレ、又

既ニ會員タル諸彦モ、此舉ヲ完成スルニ、尙資本ノ缺クル所アルヲ察シ、更ニ特殊ノ捐資アラシムコトヲ

明治二十六年七月

神苑會會頭 花房 義賢

前神宮祭主 久邇宮朝彥親王殿下薨セラレテヨリ、本會總裁 有栖川宮熾仁親王殿下神宮祭主ニ御補任アラセラル。今茲十月、神嘗祭奉仕トシテ、御參向、祭典既ニ了リテ祭主館ニ在セラレ、台命ヲ幹事田中芳男ニ傳ヘテ本會役員ヲ召セラル。是ニ於テ本月十九日成川幹事長以下三重幹事委員等、祭主館ニ參候スル者十五名、殿下之ニ謁ヲ賜ヒ、又親シク令旨ヲ賜フ一同恐惶謹承ス。

令旨

神苑創設以來、諸子ノ盡力鮮カラズ、今茲ニ會同ヲ煩シ、益將來ノ振作ヲ畫セント欲スルモノアリ。

頃日參向ニ際シ、親シク本會ノ成績ヲ目撃スルニ、林泉蒼然トシ

テ大ニ神苑ノ風趣ヲ加ヘ、掃洒周ク到リ、絶テ纖埃ヲ存セズ、農業館モ亦益品彙ヲ蒐集シテ陳列宜キヲ得タリ、既往經營ノ績、深ク嘉賞スル所ナリ。

當初計畫ノ一ナル徵古館ノ建營ハ、荏苒歲月ヲ經過セシモノ、如シ、今ヤ進テ施設ヲ要スベキノ時機ニ際會スルヲ以テ、宜ク之ガ位置ヲ相シ、設計ヲ講ジ、相協同提撕シテ來ル二十八年ヲ期シ、克ク其事業ノ竣成ヲ努ムベシ。

既成ノ神苑ヲ以テ之ヲ 神宮ニ奉獻スルハ、永ク本會ノ榮譽ヲ貽シ、將々神域廓清ヲ保テ、一舉兩全ノ策ヲ得ルモノニシテ、大ニ可認スル所ナリ、目下進張ヲ圖ルニ方リ、會頭ノ稟申ニ接シ、此席ニ列セル門岡千別ニ幹事ヲ囑托ス、子其レ之ヲ勉メヨ、自餘ノ諸子モ亦昔日ニ異ナラズ銳意事ニ從ヒ、相共ニ本會ノ隆昌ヲ期ス

ベシ。

右令旨ヲ賜ハリ、且參候者一同ニ坐作ヲ寬フシ各所見ヲ陳述セヨト命ゼラル、幹事田中芳男、謹デ農業館ニ係ル件并ニ附屬館築造ノ狀況ヲ言上シ、尙當初、徵古館建設ノ目的地トシテ指稱セル、倉田山ノ實況ヲ詳察スベキコト等ヲ陳情シ、一同退散ス。此日午後、成川幹事長、田中幹事、其他幹事委員等、倉田山ニ至リ實地ヲ視察ス。

總裁殿下、二十日午前七時官舎御出發、御歸京遊バサル。是ヨリ先キ、殿下十三日午後祭主館ニ御着、十七日本會職員御機嫌伺トシテ參候シ、薯蕷及ビ鯉節ニ目錄ヲ添ヘ獻上ス。

東京事務所ニ當務幹事ヲ置キ、三重事務所ニ調査掛庶務掛會計掛ヲ置キ、各左ノ事務ヲ掌理セシム。

東京事務所常務幹事專務事務

- 一 事務所所屬員ヲ董督スル事
- 一 役員囑託ニ關スル一切ノ事
- 一 文案起草及執行ノ事
- 一 寄附金申込會員申込ヲ受クル事
- 一 寄附金臺帳會員名簿ヲ整理スル事
- 一 寄附金ノ拂込ヲ受ル事
- 一 東京事務所費ノ出納計算整理ノ事
- 一 會議招集ノ事
- 一 寄附金其他廣告ノ事
- 一 文書物品發送接受ノ事
- 一 筆紙墨其他需用品供給ノ事
- 外ニ會務
- 一 募集事務ノ事
- 一 農業館事務ノ事

- 一 徴古館事務ノ事
- 一 資金保管及計算調査ノ事

三重事務所各掛分掌事務

調査掛

庶務會計兩掛ノ主管スル一切ノ事務ヲ調査スル事

庶務掛

文書往復編纂役員進退會議招集寄附募集規程ニ關スル事項役員會員名簿整理及寄附物件并ニ會員申込接受證牌證狀附與本會廣告其他會計掛ニ屬セザル雜務ヲ掌ル事

會計掛

金錢出納豫算決算寄附金收入并ニ臺帳整理及文書物品發送接受需用品供給其他物品貸借ニ係ル事項及小者雇入ニ關スル諸件ヲ掌ル事

十二月、還ニ囑托セラレタル幹事門岡千別ヲ三重事務所詰トシ、報酬年額金五百圓ヲ給與ス。是ヨリ先キ三重事務所庶務兼會計課長。

幹事宇仁田宗馨・參宮鐵道株式會社ノ重役ニ舉ラレタルヲ以テ、報酬手當ヲ辭シ、且屢課長ノ任ヲ辭センコトヲ請フ、此月二十四日之ヲ解キ、門岡幹事ニ其任ヲ襲シム。

此月、會員募集ノ爲、門岡宇仁田ノ兩幹事、京都府・大阪府及愛知・靜岡・滋賀・岐阜・兵庫・岡山ノ各縣ニ出張スベキニ決ス。

本年七月ノ起工ニ係ル農業館構内ノ附屬館、十二月二十日落成ス、元是三重縣ノ寄附ニ係リ、本會之ガ築造ニ改良ヲ加ヘ、愛知縣人、服部長七創製ノ人造石(同人ノ寄附)ヲ用キテ地盤ヲ堅牢ニシ、又通廊ヲ設ケテ農業館ト連絡ノ便ヲ計リ、館内ヲ二區ニ劃シ、其一ニハ三重縣寄贈ノ工藝品、其一ニハ徵古館ニ屬スベキ古代ノ書畫模寫圖・古器物等ヲ陳列ス。

十二月二十五日、農業館陳列品整理其他會務ヲ負ヒテ、田中幹事來

リ、次デ徵古館建設ノ件ニ關シ、評議員渡邊洪基來ル。

農業館前ニ一小屋ヲ新設シ辻喜代藏ニ無料貸與シテ、農業ニ係ル圖書・種苗ヲ販賣スルコトヲ許可シ、傍ラ本館觀覽券ノ交付方ヲ委託ス、神農園ノ名稱ヲ以テ賣店ヲ開ケル者是ナリ。此歲農業館ニ對スル寄贈品九百八十五點、之ヲ前年ニ比シ半數ニ充タズ、蓋農商務省・帝國博物館・大日本農會・御料局等ノ寄贈品、皆前年度ニ屬セシニ由ル、購入陳列品四百二十七點、觀覽人七千五百三人ヲ計上セリ。

明治二十七年一月一日、新年拜賀式ヲ行フコト例ノ如シ。

二月十一日、農業館附屬館建築既ニ成リ、陳列品整理完了ト共ニ、徵古館ニ屬スベキ備品モ亦其陳列ヲ告ゲ、本日ヨリ三日間公衆ノ無料觀覽ヲ許ス。當時恰モ參宮鐵道開業式ニ會シ、同會社主催ノ畫幅展覽會(松坂町富豪小津與右衛門所藏畫幅)ヲ賓日館ニ於テスルコ

トヲ承認ス、抑同會社ノ本會ニ於ケルヤ、關係最モ深キモノアリ、方ニ今本會會務ノ振張ヲ圖リ、茲ニ運輸交通機關ノ具ハルニ逢フ、誠ニ得難キノ好機會ト謂フベシ。是ニ於テ乎、各地ノ會員ニ通牒シテ、參宮ヲ勸誘シ、相當待遇ヲ加フルハ勿論、同會社ガ開業祝意ヲ表シ、發行スル所ノ割引乘車券(開業式當日ヨリ向三十日間携帶者ニ對シ、農業館無料觀覽ヲ許ス等、勉メテ會員并ニ一般參宮者欸待ノ方針ヲ實行セリ。抑參宮鐵道ノ發起計畫ハ、本會創立史第四編中ニ記述ノ如ク、明治二十二年三月、會頭吉井伯ノ勸誘ニ基キ、幹事太田小三郎ノ發意ヲ以テ、同志數名ト之ヲ創辦スル所ナリ、其發起以來、成功ノ今日ニ至ル迄、當事者ノ心勞想フベキ哉、當時布設セル所、津市以南小俣村ニ止マリ、未ダ宮川ヲ通過セズト雖モ、之ヲ未設以前ニ比スレバ、交通ノ便否、固ヨリ同日ノ論ニ非ル也、後又資金ヲ増額シ

線路ヲ神都内ニ延長スルニ至リ、參宮旅客ノ利便始メテ完了ス。

二月十二日、參宮鐵道開業式ニ參列セル各鐵道會社員ヲ賓日館ニ招待ス、此會合ヲ好機トシ、本會評議員渡邊洪基ノ演說スル所左ノ如シ。

這回參宮鐵道開業式ニ遭遇シ、諸君ニ拜接スルノ機ヲ得タリ、依テ神苑會擴張ノ事實ヲ陳シ、名望資産共ニ世人ノ推稱スル所ノ各鐵道會社役員及株主諸君ノ各位ト、併セテ公共ノ利便ヲ謀ルノ業ヲ營ム鐵道會社ノ團體ニ向ヒテ、此ノ舉ヲ贊襄セラレンコトヲ請ハントス

神宮ハ歷朝ノ尊奉スル所、億兆ノ仰敬スル所タルコト、及ビ此神都ニ完全ナル徵古ノ機關ヲ設クルノ必要ナルハ、諸君ノ御手許ニ配付シタル神苑會主意書及ビ徵古館設立主意書ニ細說シ、且ツ申迄モナキコトナレバ之ヲ略シ、單ニ事實ヲ陳ベシニ、神苑會ハ明治十九年地方ノ有志者之ヲ創始シ、次デ 皇室及ビ神宮司廳ノ保護ヲ仰グニ至リテ、有柄川宮一品親王殿下ヲ總裁ニ仰ギ、故伯爵吉井友實君ヲ會頭ト

シ、洪基乏キヲ其副會頭ニ承ケ、洪基ノ遠任及ビ吉井伯菟去ノ爲メニ現ニ花房宮内
次官其會頭トシテ盡カスル所ニシテ、爾來拮据經營スル所ノ苑囿、略其功ヲ竣ヘ、待
客館舎ノ一ナル賓日館(即チ今日小津與右衛門珍藏ニ係ル應舉ノ畫幅ヲ展觀シ諸
君ヲ御案内シタル所)ハ既ニ設置セラレタレドモ彼徵古館ニ至リテハ規模頗ル廣
大ナルモノニシテ、一朝完成ヲ期シ難キノ故ヲ以テ、僅ニ其一部タル農業館(外宮前
豐川町ニ在リテ本館ヲ農業館トシ、附屬館ヲ工藝館トシ、其内ニ徵古館ノ圖及ビ備
品ノ既ニ蒐集シタルモノヲ陳列セリ、是亦諸君ヲ御案内シタル所ナリ)ヲ建設スル
ニ止レリ、是レ實ニ當初計畫ノ第一目的ヲ遂行セザルモノニシテ、實ニ遺憾ニ堪ザ
ル所ナリトス、然ルニ最早關西鐵道ニ接シテ參宮鐵道モ竣功シ、來年ハ奠都祭モア
ルコトナレバ、茲ニ諸君ノ贊助ヲ仰ギ、當初ノ企圖ヲ遂セント欲スル所ナリ、蓋シ這
回參宮鐵道ノ舉タル、全ク神苑會ト密着ノ關係ヲ有シ、同ジク衆庶參拜ノ便ヲ開キ、
神恩ヲ謝シ、神德ヲ顯揚スルノ意ニ外ナラズ、關西鐵道會社ノ夙ニ參宮鐵道會社
ノ舉ヲ幫助セラレタルハ、特ニ參宮鐵道會社ノ幸ノミナラズ、本會モ資テ以テ其幸
ヲ享受セリ、依テ會社ニ關スル分ハ本會ヨリ該兩鐵道會社諸君ニ依頼スル所アリ、

兩會社諸君ヨリ各會社諸君ニ對シ、兩會社ノ出金額及ビ其寄贈年月日等ノ豫算案
ヲ提出セラレベケレバ、各會社ハ何卒之ヲ贊襄セラレンコトヲ希望ス、又役員及ビ
株主其他親戚知友ニ至ルマデ、本會ノ主旨ヲ贊成セラレテ、生等區々ノ微誠ヲ察シ、
貴社名ヲ表示スルノ額ト、各自義捐ノ額トヲ定メラレ、本會ニ御示教アラシコトヲ
希望ス、此言ヤ鄙俚ト雖モ亦已ムヲ得ザルニ出ヅ、諸君之ヲ諒セヨ

二月十五日、東京事務所ノ事務規程及事務取扱順序ヲ改定シ、所員
ヲ減シテ勵精事ニ從ハシム、是ヨリ先キ、常務幹事ノ下ニ常務委員
ヲ置キ、調査庶務會計ノ三掛ニ配シ、皇典講究所職員中、久保惠隣・青
戸波江・飯島誠・澁谷吉彌ニ囑托シテ庶務會計ノ事務ヲ處理セシム、
近時、皇典講究所職員ヲ減少シ、本務多端、爲ニ本會事務ノ囑托ヲ辭
スルニ至レリ、是ニ於テ規程ヲ改メ從來ノ三掛ヲ廢シ、更ニ一名ヲ
選ビテ庶務會計一切ノ事務ニ任シ、書記一員ヲ副ヘテ其事ヲ佐ク、
而シテ常務幹事ノ之ヲ督スルコト元ノ如シ。

神苑會東京事務所規程

- 第一條 東京事務所ノ事務ハ、常務幹事之ヲ董督シ、其事務ヲ分テ調査常務ノ二トシ、常務委員之ヲ分擔シ、書記之ニ從事ス
- 第二條 常務員ハ擔當事務ノ都合ニ依リ、日勤又ハ時々出勤ノ區別アリ
- 第三條 凡ソ事ノ大體ニ關セザルモノハ、常務幹事一名ノ捺印ヲ以テ會頭ノ承認ヲ受ケ、之ヲ實施スルコトヲ得
- 第四條 例規アル常務及既ニ會頭ノ承認ヲ得タル金錢ノ收支ハ、常務幹事一名ノ捺印ヲ以テ直チニ之ヲ施行ス
- 第五條 本會ヨリ諸向ヘ發スル文書ハ、規程アルモノ、外、重事ハ會頭ノ名ヲ以テシ、輕事若クハ照會督促ノ如キハ、常務幹事ノ名ヲ以テスベシ
- 第六條 本會印章并總裁會頭幹事ノ職印ハ、常務幹事ニ於テ自ラ之ヲ主管ス
- 第七條 經常及臨時費共、豫算中、過不足ヲ生ジタルトキハ、常務幹事ニ於テ會頭ノ承認ヲ受ケ、中科目以下流用ヲ爲スコトヲ得
但會頭ハ決裁施行ノ後之ヲ評議員ニ報告ス

- 第八條 幹事ハ會頭ノ委任ヲ受ケタル範圍内ニ於テ便宜事務ヲ處辨シ、且該豫算定額内ニ於テ備員ヲ使用スルコトヲ得
- 第九條 書記及募集委員補其他備員以下、採用申立書ニハ、本人身元保證狀ニ、保證人調印シタル書面ヲ添付シテ稟議スベシ
- 第十條 書記ハ有給無給ノ二種トス、有給書記ハ一個月金拾五圓ヲ以テ概額トシ、無給書記ハ半年若シクハ每月末ニ於テ報酬トシテ金圓ヲ附與ス
但報酬ハ事務ノ繁閑ニヨリ之ヲ定ム
- 第十一條 書記ノ外、月給若クハ日給ヲ以テスル備員ハ、月給金拾圓以内、日給金五拾錢以内ヲ以テ概額トス
- 第十二條 本會職員ハ總テ名譽職トス、尤モ常務幹事、常務委員ニハ、毎年六月、十二月兩度ニ、報酬トシテ金圓ヲ贈與ス、其報酬金額ハ、每年度豫算、東京事務所費諸給與ノ科目ニ組込、豫定シ置クモノトス
但報酬金額ヲ月割ト爲シ、毎月末之ヲ各員ニ附與スルハ、常務幹事ノ任意トス
- 第十三條 職員會務上ニ要スル處ノ費用ハ、會頭ノ見込ヲ以テ便宜實費ヲ支給ス、

旅行費用ノ如キ必ズ定則ニ拘ハラズ若シ定則ヲ要スレバ三重事務所旅費程則ニ據ルベシ

第十四條 寄附金品募集ニ關スル事務ハ、常務幹事心得内規及地方委員取扱心得書ニ依リ處辨スルモノトス

第十五條 常務幹事旅行等ニテ會務ヲ執行スル能ハザルトキハ、幹事ノ内臨時代理スルカ、又ハ常務委員ノ内一名ニ代理セシメ、其旨會頭へ稟申スベシ

第十六條 調査員ハ東京事務所管掌ノ事務ヲ調査シ、寄附募集規定ニ關スル事項ヲ取扱ヒ、本會ノ擴張ヲ計リ、常務員起草ノ文案ヲ點檢シ、金錢物品ノ收支ヲ審査スベシ

第十七條 常務員ハ本會文書往復編纂役員進退會議招集役員贊助員名簿調理寄附物件會員申込接受證牌證狀領收書附與本會廣告及金錢物件ノ出納豫算決算寄附金收入會計帳并寄附臺帳整理文書物品發送需用物品供給物件貸借ニ係ル事項其他現金并證書帳簿等ヲ保管シ、擔當事務ニ就テハ其責ニ任ズ

第十八條 書記ハ常務委員ノ指揮ヲ受ケ、本會諸文書ノ淨書并ニ證狀領收證ヲ書

シ、諸帳簿登記及文書物件ノ授受ヲ擔當シ、授付簿收受簿郵便切手受拂簿ヲ整理シ、其他雜務ニ從事スベシ

第十九條 事務ノ分掌ヲ定ムト雖モ、主任詰合ナキトキハ詰合ノ事務員ニ於テ事ノ緩急ヲ計リ之ヲ取扱ヒ事務壅滯ナキ様注意スベシ

第二十條 常務員退出後又ハ休日ニ際シ到着スル文書物件ハ、皇典講究所宿直員ニ收受方ヲ委托シ置キ、翌日出勤ノ上受取り、其旨收受簿ニ記載シテ後證ニ供スベシ

但至急ヲ要スル書狀又ハ電報ノ類ハ、皇典講究所宿直員ヨリ、即時ニ常務幹事若クハ常務員ノ内へ回付スベキ様、委托シ置クベシ

第二十一條 本會會計年度ハ、毎年一月一日ニ始メ、十二月三十一日ニ終ルヲ一年度トス

第二十二條 會計帳簿計表記式ハ、簿記法ヲ以テ計理シ、會計科目ハ大中小ニ別テ、從來ノ設定ニ由リテ整理スベシ

第二十三條 收支金アル毎ニ、日計表ヲ作り、又收支金ニ拘ハラズ毎月末日ニハ必

ズ日計表ヲ調製スベシ

第二十四條 年度末決算殘金ハ資本ニ組入勘定ニ立ツベシ

第二十五條 收入ハ其納者ヲシテ納付書ニ現金ヲ添ヘ差出サシメ、納者ニ對シテハ常務幹事記名調印ノ領收證書ヲ交付シ、現金又ハ爲替券ハ即日若シ時間ナキトキハ翌日締約セル銀行ニ送致シ當座預ケト爲スベシ

第二十六條 支出ハ當座預金引出切符ヲ作り、受取者ニ交付シ、受取證書ヲ徵スベシ、若シ受取者ヨリ受取證書ヲ徵スル能ハザル事由アルモノハ、取扱者ニ於テ支拂證明書ヲ作りテ證明スベシ

第二十七條 臨時小拂充用ノ爲メ、參拾圓以内ノ現金ヲ事務所ノ金庫ニ供置スルコトヲ得

第二十八條 現金ハ總テ現金取扱銀行ニ當座預ケニ附スルモノト雖モ、收入金アル即日若クハ翌日ニ仕拂金ヲ要スルトキハ、其仕拂フベキ員額ヲ常務主任ニ於テ之ヲ預リ、一時事務所ノ金庫ニ保管シ置キ、該支拂ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 本會資産ノ株券并ニ公債證書ハ、内藏寮ヘ請願シテ保護預ケト爲ス

ベシ此場合ニ於テハ常務幹事ハ株券公債證書ハ紙包トシ、之ニ封緘ヲナシテ差出シ、同寮預リ證書ヲ受ケ置クモノトス

但契約證書并ニ銀行ヨリ差入タル抵當物件及預金通帳引出小切符帳、又ハ預リ證文ノ類ハ、事務所ノ金庫ニ保管シ置クベシ

第三十條 東京事務所ニハ金庫ノ備ナキヲ以テ當分ノ内金庫ニ納ムベキ物件ハ、錠鎖アル箱ニ入レ、皇典講究所金庫ニ預ケ入置クモノトス

第三十一條 當座預金ノ豫約シタル銀行ヘ多額千圓以上ノ金額ヲ預ケ入ル場合ニ於テハ、特ニ契約ヲ締結シ、同行ヨリ相當ノ抵當物件ヲ徵シ置クベシ、本會ニ於テ當座借越振出シ金ヲ要スルトキハ、相應ノ物件ヲ根抵當トシテ同行ヘ差入置クモノトス

第三十二條 會計科目并ニ帳簿計表様式及事務規程順序ニ改正ヲ要スル場合ニ於テハ常務幹事之ヲ稟申シテ會頭ノ認可ヲ請フベシ

第三十三條 庶務ニ屬スル事務整理ノ爲メ、左ノ簿冊ヲ編纂調製スベシ
一 規則原議書綴

本會諸規則ノ原議及施行手續解釋等ニ關スル諸向往復ヲ輯次シ、卷首ニ目錄ヲ掲グ

一 職員并ニ名譽會員進退書綴

職員備員及名譽會員等進退移動辭令案、諸届ノ原書ヲ編綴ス

一 職員名簿

職名ヲ以テ順次ヲ立テ、現在職員備員等住所爵位氏名ヲ記載シ、移動アル毎ニ之ヲ修正シ早覽ニ便ニス

一 入會證書綴

一 會員名簿 附贊助員及員外寄附人名

一 三重事務所所轄會員名簿 附同上

一 寄附申込書綴

一 寄附募集一件書綴

一 三重事務所報告寄附一件書綴

一 寄附廣告原稿簿

一 農業館一件書綴

一 徵古館一件書綴

一 開苑式一件書綴

一 舊神苑會引繼書綴

一 雜纂

一 證牌證票及印刷物出納簿

一 物品目錄

東京事務所主管ノ本會印章以下諸物品ヲ列記シ、置キ、増減ノ都度事由ヲ登記ス

一 郵便切手受拂簿

一 授附帳

諸向ヘ回送スル文書物件發付月日宛名及摘要ヲ登錄ス

一 收受簿

諸向ヨリ來ル文書物件到着ノ月日、差出人名及ヒ其要略ヲ登錄ス

一 東京事務所記事

第三十四條 會計ニ屬スル事務整理ノ爲メ左ノ簿冊ヲ置ク

但常務主任ノ便宜ニ依リ會計簿帳外ニ適宜補助簿ヲ置クコトヲ得

一 日記帳

一 原簿

收入金ヲ細カニ勘定スル帳簿ナリ

一 支出内譯簿

一 公債株式出納簿

一 計表綴

一 寄附金物件臺帳

一 會計諸規則綴

一 贈與手當原議書綴

一 豫算原議書綴

一 決算及事務成績書綴

一 舊神苑會引繼書類綴

一 二十三年度以前諸證書綴

一 二十三年度以前銀行報告并地方委員報告書綴

一 二十四年度以降銀行報告書綴

一 二十四年度以降收入證書綴

一 二十四年度以降支出證書綴

一 繰替金決算書綴

一 東京三重兩事務所交渉勘定書綴

一 參宮鐵道株式會社往復書綴

一 二十七年以降銀行報告書綴

一 二十七年以降地方委員報告書綴

一 二十七年以降收入傳票證書綴

一 二十七年以降支出傳票證書綴

一 銀行當座預金通帳

一 收入金領收證原符綴

一 豫算書

一 決算書

(事務取扱順序ハ之ヲ略ス)

三月九日、宮廷ニ於セラレテハ、皇后陛下御宣下以來滿二十五年ノ御祝典ヲ舉サセ給フ、本會其筋ノ聽許ヲ被リ賀表ヲ上ツルニト左ノ如シ。(進達願書併録)

賀表 一

今般大婚式二十五年之祝典被爲舉候ニ付聊祝意ヲ表スル爲宮内省へ献上致度候間御進達被成下度此段相願候也

明治二十七年三月八日

神苑會會頭 花房 義質

東京府知事 三 浦 安殿

本月九日大婚式二十五年ノ御祝典被爲舉候ニ付聊祝意ヲ表スル爲賀表一通獻納仕度候間御領收被成下度此段奉願候也

明治二十七年三月八日

神苑會會頭 花房 義質

宮内 大 丞 宛

賀表

神苑會會員 臣等恭惟、易本乾坤、詩首關雎、剛順合德、則品物遂而天命全、蓋自 諸冊二尊降臨下土、益斯之祥、麟趾之慶、遂覃千祀、本善繼善述孝、綱紀天下、百度具舉、于海于陸、凡有裨於生民者、莫施而不爲、以故、殊邦慕德、如川朝海、黔黎嚮化、如麟萃淵、於戲不亦偉哉、茲當桃天之良辰、創行大婚二十五年盛典、其大令之發也、衆庶咸誦華封之三祝、天下悉歌周南之首章、雍々之聲、溢康衢、熙々之風、遍寰區、臣等掌神苑會事、久浴 聖澤、今遇大禮、祝文物之美、仰王化之隆、不知手舞足蹈、冀盡驚鈍之力、愈修神苑、揚 神德、以圖報天恩之萬一、謹表奉祝之微意

明治二十七年三月九日

神苑會會頭從三位勳一等 花房 義質

三月二十四日、既成神苑ノ全部ヲ 神宮ニ獻納ス、乃チ 兩宮苑地ノ現形ニ添ルニ左ノ書類ヲ以テシ、附屬物品百二十三點ト共ニ神宮司廳ニ引繼ヲ了セリ、但苑地ハ上地ノ制規ニ從ヒ、一旦三重縣ニ

引繼ノ手續ヲ經ル所ナリ。

添附書類

- 一 皇太子殿下御手植松引繼書 一通
- 一 上地段別一筆限取調書 一通
- 一 兩苑地圖 二枚
- 一 兩苑地所并ニ木石柵其他引繼目錄 一通
- 一 兩苑地維持費前年度決算額 一通
- 一 兩苑地維持費本年度豫算書 一通
- 一 外宮苑地内常夜燈敷地幸福虎保ニ貸渡證券 一通
- 一 引繼演說書 一通

右苑地獻納ノ件ハ爰ニ明治二十五年七月一日、本會事業ノ處置及將來ノ方針ヲ評決シタル、決議書第二項ノ理由ニ基ク所ニシテ、之ガ決行ニ當リ、將來維持ノ責任ヲ本會ニ負荷スベキ條件ヲ具シ、同

二十六年二月八日一タビ願書ヲ提出セリ、然レドモ當路ノ詮議寧ロ維持費ノ條件除却ニ在ルヲ内聞シ、同年十月更ニ願書ヲ改訂シテ聽許ヲ得タルモノナリ。

神苑會所有苑地獻納願

爰ニ本會創立以來主トシテ神苑ノ開設ニ從事シ、館町豐川町、外兩町ノ地所ヲ買收シ、家屋ヲ撤去シ、拮据經營、工事既ニ竣ヲ告候處、地所所有ノ權本會ニ在ルトキハ、徒ニ神苑ノ名號アリト雖モ其實民有ノ一圃ニ外ナラズ、後世百年ノ事固ニ期スベカラザルモノアリ、就テハ現今本會所有ノ 内宮神苑地、反別二町五反一畝三步二合八勺、外宮神苑地、反別三町五反九畝二十三步三合、合計反別六町一反二十六步五合八勺、木石其他一切有形ノ儘、此際 神宮ニ獻納シ、之ガ基礎ヲ鞏固ニシ、以テ本苑開設ノ本旨ニ適候様致度志願ニ有之候間、御受納被成下度、別紙圖面及反別調査書相添、此段奉願候也。

明治二十六年十月

神苑會會頭 花房 義 質

神宮宮司 鹿 島 則 文 殿 (添附書類略ス)

六月二日、賓日館登館心得第三條所定席料ノ内、會員ニハ之ヲ徴セズ以テ待遇ノ實ヲ舉グルニ勉ム。

七月二十八日、會則第五條ヲ改正シ、更ニ會員證牌ノ制式二種ヲ増加ス。是ヨリ先キ會員證牌ハ、紅紫、黃ノ三色ニ區別シ、寄附金額ニ應ジテ之ヲ交付ス、自今新ニ紅紫混成ノ一色ヲ設ケテ、參拾圓以上五拾圓未滿ノ寄附者ニ交付シ、又會テ五圓以上拾圓未滿ノモノニ與ヘシ證票ヲ廢シテ、代ルニ綠色ヲ附セル贊助員證牌ヲ以テス。凡從來紐式ノ一樣ニ限レルモノ、今ヨリ綬式ヲ設ケ、本人ヲシテ任意其一ヲ選ビ用ヒシム。

(從來ノ分)

第五條 一時若クハ五個年以内ノ年賦ヲ以テ、拾圓以上ヲ寄附スルモノヲ會員トシ、證牌ヲ附與ス、同拾圓未滿五圓以上ヲ寄附スル者ヲ贊助員トシ、證票ヲ附與ス、同五圓未滿ノ寄附者ハ別ニ名稱ヲ附セズ、尤モ壹圓以上ヲ寄附スル者ニハ證認

狀ヲ交付シ、壹圓未滿ヲ寄附スルモノニハ領收證書ヲ交付スルニ止ム、但シ證牌ハ三種ニ區別シ、拾圓以上五拾圓未滿寄附者ヘハ紅紐、五拾圓以上百圓未滿寄附者ヘハ紫紐、百圓以上寄附者ヘハ黃紐ノ證牌ヲ附與ス

(改正ノ分)

第五條 一時若クハ五個年以内ノ年賦ヲ以テ、拾圓以上ヲ寄附スル者ヲ會員トシ、證牌ヲ附與ス、同拾圓未滿五圓以上ヲ寄附スルモノヲ贊助員トシ、證牌ヲ附與ス、同五圓未滿ノ寄附者ハ別ニ名稱ヲ附セズ、尤モ壹圓以上ヲ寄附スルモノニハ證認狀ヲ交付シ、壹圓未滿ヲ寄附スルモノニハ領收證ヲ交付スルニ止ム
但シ證牌ハ五種ニ區別シ、贊助員ノ證牌ハ綠紐、若クハ綠綬ノ銅製牌トス、會員ニシテ拾圓以上參拾圓未滿寄附者ヘハ紅紐若クハ紅綬、參拾圓以上五拾圓未滿寄附者ヘハ紅紫紐若クハ紅紫綬、五拾圓以上百圓未滿寄附者ヘハ紫紐若クハ紫綬、百圓以上寄附者ヘハ黃紐若クハ黃綬ノ銀牌トス

八月二日、凡ソ會員ノ參宮スル者ニ對シ、既ニ待遇方法ヲ設クルアリト雖モ、時勢相若カズ、改定ノ必要ヲ認ム、今乃チ之ガ改定ヲ決行

シ東京并ニ三重方面ノ新聞紙ヲ以テ廣告ス。

神苑會會員待遇規程

- 第一項 本會會員參宮スルトキハ第二項以下ニ列記スル待遇ヲ受クルコトヲ得、尤會員ハ證牌ヲ以テ證トスルガ故ニ左胸部ニ之ヲ佩用スベシ、又場合ニ依リテ本會ハ證牌ヲ調査スルコトアルベシ
- 第二項 會員ノ親戚又ハ朋友ニシテ本人同行ノ向ハ、第五項ノ外ハ左ノ人員ニ限リ本人同一ノ待遇ヲ受クルコトヲ得
 - 一 黃紐及黃綬證牌佩用者ハ 同伴人十五名迄
 - 二 紫紐及紫綬證牌佩用者ハ 同伴七名迄
 - 三 紅紫紐及紅紫綬證牌佩用者ハ 同伴五名迄
 - 四 紅紐及紅綬證牌佩用者ハ 同伴三名迄
- 第三項 會員ハ本會三重事務所ノ證明書ヲ以テ、神宮撤下ノ御神寶拜觀ヲ許サル、コトアルベシ
- 第四項 本會ハ會員ヲ代表シ、毎年一月一日午前 内宮ニ於テ大々神樂ヲ奉納ス、

會員ハ隨意參列アルベシ

- 第五項 會員參宮スルトキニ限リ、草津四日市津松坂ヨリ宮川迄汽車賃金上中下各等トモ、二割引往復切符ヲ購求シ乗車スルコトヲ得
但割引切符ヲ購求セントスル者ハ、先ヅ本會東京三重兩事務所ノ内ニ照會アルベシ、本會ハ直ニ左圖ノ如キ勘合證券ヲ交付スベシ
(圖此ニ略ス)

- 第六項 會員ハ本會所屬ノ農業館及今後本會ニテ設置スル徵古館等ヲ無料ニテ縦覽スルコトヲ得
但入館セントスル者ハ、先ヅ本會三重事務所ニ照會アルベシ、該事務所ヨリ直ニ特別通券ヲ交付スベシ

- 第七項 會員ハ二見浦資日館及今後本會ニテ設置スル待客館ニ無料ニテ休憩宿泊スルコトヲ得、其入館手續及諸費自辦方ハ資日館登館心得書ニヨル
但同館ニ差支アルトキハ休泊ヲ謝絶スルコトアルベシ、殊ニ夏期ノ候ハ會員ノ宿泊多キ故、前以テ本會三重事務所ヘ照會アレバ、成ルベク繰合セ用辦ヲ爲

第八項 本會ハ會員參宮ノ節ハ充分便宜ヲ與ヘンコトヲ勉ム、依テ該地旅館ノ指定人力車ノ雇入各所案内等、本會三重事務所へ申出アレバ直チニ之ニ應ジ丁寧ニ取扱フベシ

第九項 本會贊助員即チ綠紐及綠綬ノ證牌ヲ佩用スルモノハ、會員ニ準ジ本規程條項ノ内第七項第八項ニ記載スル待遇ヲ受クルコトヲ得

第十項 本會ハ當分、東京麴町區飯田町五丁目八番地ニ東京事務所ヲ置キ三重縣度會郡宇治山田町大字豐川町百九番地、即外宮前ニ三重事務所ヲ置ク

凡ソ本會會員ノ神樂奉奏ヲ請フ者アルトキハ、特ニ料金半額ヲ減ゼラレタルモノ、今ヨリ神宮司廳ノ都合ニヨリテ之ヲ廢シ、八月三日更ニ左ノ待遇内規ヲ約セラル。

神苑會會員待遇内規

第一條 神樂殿詰傳達係ハ、常務ノ外、神苑會員ニ對スル接待事務ヲ擔當スベシ

第二條 左ニ記載スルモノハ第三條以下ノ規定ニ依リ特別ノ待遇ヲ爲スベシ

一 神苑會會員ニシテ黃色同行親戚朋友十人以下(紫色同上五人以下)紅色同上二人以下(證牌或ハ略章ヲ佩用スベシ)又ハ該會ノ證明書ヲ有スル者

第三條 第二條ニ該當スル者參殿シタルトキハ、接待室ニ導キ茶及煙草盆ヲ供ジ、且ツ時雍館内撤下御物拜觀切符ヲ附與スベシ

第四條 撤下御物拜觀切符ハ左ノ雛形ニ依リ、神樂殿ニ於テ調製スベシ

(雛形略ス)

第五條 神樂殿内ノ拜觀ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許スベシ

但シ事務ノ都合ニ依リ謝絶スルコトヲ得

八月十一日、會則第三條但書及第五條ニ修正ヲ加フ、凡ソ從來ノ規定ニ依ルニ、金壹圓以下ノ寄附者ニハ、幹事若クハ委員ノ領收證書ヲ交付スルニ止ム、右ハ寄附者ニ對スル禮遇薄キニ失シ、且募集金統理上缺點ナキヲ得ズ、自今簡單ナル證認狀ヲ製シ、會頭之ヲ交付スルコトニ改ム。

第三條 但書 飯田町五丁目八番地ニ設置スル「ス」ヲ「シ」ニ改メ、其下ニ「三重事務所ハ三重縣度會都宇治山田町大字豊川町百九番地ニ設置ス」ノ三十字ヲ加フ

第五條 ノ中、五圓未滿ノ寄附者ハ別ニ名稱ヲ附セズノ下、尤以下ヲ削リ、證認狀ヲ交付ス、物件ヲ寄附スルモノ、如キハ、其價額ニ應ジ前文ニ準ジ、證牌若クハ證認狀ヲ交付スベシ」ノ四十五字ヲ加フ、但書元ノ如シ

十五日、寄附金證認狀書式及附則ノ定アルモ、證牌ニ關スル細則ナキヲ以テ、右附則ヲ廢シ更ニ證牌證認狀取扱内規ヲ定ム。

神苑會證牌證認狀取扱内規

第一條 凡ソ何人ニ依ラズ一人若クハ數人ニテ本會ヘ金圓又ハ物件ヲ寄附スルトキハ、本會規則第五條ニ依リ其金額ニ應ジ證牌及證認狀ヲ附與ス

但證牌及證認狀交付ノ節本人ヨリ書式第十五號ノ受領證書ヲ徵スベシ

第二條 寄附金額拾圓以上、之ト同價ノ物件ニ對シテハ、會員證牌并ニ書式第一號ノ證認狀拾圓未滿五圓以上、之ト同價ノ物件ニ對シテハ、贊助員證牌并ニ書式第二號ノ證認狀五圓未滿壹圓以上、之ト同價ノ物件ニ對シテハ、書式第三號ノ證認

狀壹圓未滿拾錢以上、之ト同價ノ物件ニ對シテハ、書式第四號ノ證認狀ヲ以テス

第三條 創立會員及名譽會員ニハ寄附金ノ多寡ニ關ハラズ、黃紐若クハ黃綬證牌ヲ交付スルコトアルベシ

但創立會員ニハ證牌規則第五條ニ依リ改字證牌ヲ交付スベシ

第四條 證牌ハ綬式ノ方ヲ交付スルヲ例トス、然レドモ拜受者ノ希望ニ依リテ紐式ノ方ヲ交付スベシ

但從來交付シタル紐式證牌ヲ返納シ更ニ綬式證牌ヲ受取度願出ル者ニハ、其望ニ應ジ之ヲ交換シテ相渡スベシ

第五條 年賦ノ寄附者ニハ、第一回金員拂込ノ際前條ノ取扱ヲ爲スベシ

第六條 會員中純銀製ノ證牌佩用ヲ欲スル者ハ、書式第十二號ノ願書ニ製作代金ヲ添ヘ差出サシムベシ、本會ハ更ニ調製シテ會テ本人ヘ交付セシ證牌ト引換ニ之ヲ交付スベシ

第七條 本會徵古館并農業館陳列用物品ヲ寄附スル者ニハ、其價格ニ應ジ相當ノ證牌ヲ交付ス

但添書ハ拾圓以上書式第五號五圓以上書式第六號壹圓以上書式第七號壹圓以下書式第八號ニ依ル

第八條 親子兩名若クハ數名連合又ハ町村及銀行會社講中組合等團體法人的性質ノモノヨリ寄附セシトキハ其連名者又ハ團體組合ヲ以テ一個人トシ金高ニ應ジタル證牌一個ヲ交付スベシ

但本文ノ場合ニ於テ交付スル證牌ハ其連名者又團體組合員ハ交互佩用シ得ラル、モノトス依テ之ニ添附スル證認狀ノ宛名ハ團體組合等ニテ法人名義アルモノハ單ニ何々會又ハ何會社御中ト記載シ法人名義ナキ連合者ヘ交付スルモノハ何某殿以下別紙何名總代氏名殿又二三名連合ノモノハ其氏名ヲ列記スルヲ例トス

第九條 寄附金完納既ニ證牌交付セシモノ再三寄附金ヲ爲シタルトキハ最前ノ寄附金ト通算シ證牌ノ地位ヲ進ムルノ額ニ達スルトキハ更ニ相當ノ證牌ヲ交付シ前ニ交付セシ證牌ハ返納セシムベシ

第十條 會員并贊助員證牌ヲ遺失シ又ハ盜難火災ニ罹リタル者ハ其事實ヲ詳記シタル書面ニ手数料金五拾錢ヲ添附シ委員長若クハ委員ニ差出スベシ其事實明晰ナル者ニ限り委員長若クハ委員之ヲ證明スルノ添書ヲ爲シ本會ヘ送付ス本會ニ於テハ取調ノ上更ニ證牌及手数料領收證書ヲ右委員長若クハ委員ニ送致シテ之ヲ本人ニ交付セシメ且本人ヨリ書式第十五號ノ領收證書ヲ徵ス但證牌交付後三十日以内ニ在テ製作ノ不充分ノ爲メ蝶番ヨリ拔去遺失スルモノニ限り手数料ハ徵セズ

第十一條 證認狀及略章ヲ遺失シ又ハ盜難火災等ニ罹リタル者ハ第十條ノ手續ニ準ジ取扱フベシ證認狀ハ書式第九號ニ由テ調製スルモノトス但手数料ヲ徵スルノ限リニハアラズ

第十二條 一名ニテ寄附セシ金額ヲ後日之ヲ二名以上ニ引分ケ會テ受領シタル證牌ヲ返納シ更ニ其引分金額相當ノ證牌ヲ數個受取度申請スル者アリト雖モ一切之ヲ聽許セズ

但事情止ムヲ得ザルモノニ限リテハ時々其事實ニ就キ詮議處分ス

第十三條 會員贊助員證牌佩用方問合セアルトキハ朝儀ヲ除クノ外如何ナル場

合又ハ如何ナル着服ノ節ト雖モ(左肋部ニ附着)佩用差支ナキ旨ヲ告示スベシ

第十四條 會員贊助員證牌ハ一身ニ止マリ子孫ニ遞傳セザルモノトス

但寄附年賦金ノ幾分ヲ納付シタル後本人死亡ノ節相續人ヨリ其殘金額ヲ納付セシトキハ之ヲ一人ト見做シ會テ先代ニ交付セシ證牌ヲ其儘佩用セシム、此場合ニ於テハ相續人ヨリ書式第十三號ノ申込書ヲ差出サセ、本會ヨリ書式第十號ノ證認狀ヲ交付ス

第十五條 會員贊助員死亡ノ節會テ交付セル證牌ハ返納セシムルニ及バズト雖モ子孫ニ於テ之ヲ佩用スルコトヲ停止ス

但連合者中へ交付セシ證牌ハ其連名者悉皆死亡ノ後ハ本條ニ同ジ、又町村及銀行會社講中組合等ノ團體法人ニ交付セシ證牌ハ其團體解散迄ハ組合員ニ於テ佩用スルコトヲ得

第十六條 會員贊助員遺族ノ者先代ニ交付セシ證牌ヲ佩用セント欲スル者ハ書式第十四號ノ申込書ニ相續金會員ハ或圓以上ヲ添附シ、委員長若クハ委員ニ差出スベシ、委員長若クハ委員之ニ添書シテ本會ニ送附ス、本會ニ於テハ取調ノ上書

式第十號ノ證認狀及相續金領收書ヲ右委員長若クハ委員ニ送致シテ本人ニ交付セシム、且本人ヨリ書式第十五號ノ證認狀受領證書ヲ徵ス

第十七條 證牌ハ各種トモ良好完全ナルモノヲ見本トシテ錠鎖アル容器ニ納メ、本會ニ備へ置クモノトス、且證牌新調製作人ヨリ納附ノ節ハ掛員ニ於テ立會、該見本ト引較ベ一々點檢シ、粗製缺損アルモノハ製作人ニ下付シテ引換へ調進セシムベシ

又製作人ニ就キ直ニ購求申出ルモノアリト雖モ、製造人ハ之ヲ謝絶シ、其旨東京事務所へ届出ルノ件、其他製作上ニ付必要ノ件々ハ豫テ製造人ト契約ヲ爲シ、書式第十六號ノ證書ヲ製造人ヨリ受取置クベシ

(書式總テ略ス)

九月十九日、徵古館出品規則ヲ設定ス、蓋本館建設ニ先ダテ陳列品蒐集ノ要アリ、藏ニ之ガ購入ニ着手セシヨリ其數漸ク増シ、近ゴロ又寄贈或ハ出品ヲ望ム者少カラザラントス、凡ソ陳列ニ供スベキ者、獨リ本會備品ノミヲ以テ能クスル所ニ非ルニ由ル。

徵古館出品規則

第一條 凡ソ所藏物ヲ徵古館ニ陳列ノ爲メ寄附セント欲スルモノ、又ハ出陳セント望ムモノハ、書面若クハ口頭ヲ以テ、本會東京三重兩事務所ノ内ニ申出ベシ。但出陳セントスル物品ノ品名、性質傳來等ヲ詳記シ、其形狀ノ略圖ヲ添ヘ、申出ノ節差出スベシ。

第二條 本會ニ於テ物品ノ出陳ヲ承認スルトキハ、其物品ト引換ニ甲號預リ證書ヲ所有主ニ交付スベシ。但本會ノ請求ニ由リ出陳スル物品ニ對シテハ、之ト引換ニ乙號預リ證書ヲ交付スルモノトス。

第三條 出陳ノ物品ハ、修繕ノ外、常時手入ヲ要スルモノハ、本館ニ於テ之ガ手入ヲナシ、又嚴重ニ之ヲ保護スベシト雖モ、萬一天災、火災、盜難ニ罹リ紛失毀損シ、或ハ陳列中蟲鼠ノ害及自然汚損スルコトアルモ、本會ハ其責ニ任ゼズ。但本會ノ請求ニ由リ出陳セル物品ニシテ、萬一本條ノ損害ニ罹リタルトキハ、本會ハ其所有主ニ對シ相當五名以上評價シテ其金額ヲ定ムノ辨償ヲ爲スベシ。

第四條 出陳ノ物品ヲ本館ニ送附又ハ本館ヨリ返戻ノ節運輸ニ係ル費用ハ、渾テ其所有者ノ自辨タルベシ、且寄附物品送附ニ係ル運輸費ハ、其寄附者ニ於テ自辨スルモノト雖モ、其物品ニ由リテハ本會ニテ之ヲ支辨スルコトアルベシ。

但本會ノ請求ニ由リ出陳セル物品ニ係ル運輸費ハ、本會ニ於テ支辨スベシ。第五條 出陳ノ物品、萬一紛失又ハ毀損スルコトアルトキハ、其事由ヲ詳細ニ取糺シ所有者ニ報告等相當ノ手續キヲ爲スモノトス、紛失ノ物品若シ後日發見スルトキハ、其現品ヲ所有主ニ返附ス、曩ニ辨償金ヲ交付シアルモノハ、所有主ヨリ其金額ヲ本會ニ還納セシムベシ、且毀損物品ニ對シ辨償金ヲ交付スルトキハ、其毀損セシ現品ハ本會ト所有主ト協議ノ上之ヲ處分スベシ。

第六條 出陳物品ノ模寫、模造及撮影ヲ請フ者アルトキハ、豫メ所有主ニ照會シ、其承諾ヲ得タル後之ヲ許可スベシ。

但各種列品集合全體ノ形狀ヲ撮影スル如キハ、所有主ニ照會スル限ニアラズ。第七條 出陳ノ物品預リ期限ハ、三十六個月ヲ以テ一期トス、滿期ノトキハ本會ヨリ其所有主ニ通知シテ之ヲ返附ス、若シ出陳ヲ繼續スルトキハ、其都度預リ證書

ヲ書換交換スベシ

但品質ニ由リテハ、特ニ預リ期限ヲ短縮スルコトアルベシ

第八條 出陳ノ物品預リ期限内ト雖モ、所有主ノ望ニ依ルカ、又ハ本會ノ都合ニ依リテハ、何時ニテモ其物品ヲ返附スルコトアルベシ

第九條 所有主ニ於テ物品預リ證書ヲ紛失スルカ、又ハ毀損スルトキハ、其事由ヲ詳記シ、所有主署名捺印シテ速ニ本會ニ届出テ、證書ノ再渡若シハ引換ヲ請求スベシ、此場合ニ於テ本會ハ更ニ預リ證書ヲ調製シ、再渡ノ事由ヲ證書面ニ摘記シテ主任之ニ捺印シ、破損ノ分ハ直ニ引換交付シ、紛失ニ係ルモノハ二三新聞紙ヲ以テ廣告シタル後、三個月ヲ經テ發見セザルトキニ至リテ更ニ之ヲ交付スベシ

第十條 本館ニ出陳物品ノ所有主、轉住スルトキハ、其都度現任府縣國郡市町村番地等ヲ本會三重事務所へ報知スベシ

第十一條 出陳ノ物品預リ滿期ノ節之ヲ通知スルモ其所有主ノ所在不分明ナルトキハ、官報及三種以上ノ新聞紙ヲ以テ五日間廣告シ、而シテ滿期後三十六個月ヲ經ルモ受取方申出ル者ナキトキハ、兼テ交付セル預リ證書ハ無効トシ現品ハ

本會ノ隨意ニ之ヲ處分スベシ

第十二條 出品預リ證書書式左之通

(書式略ス)

十月、清國膺懲ノ師起リテヨリ以來、我軍、陸ニハ、牙山、平壤ヲ陷レ、海ニハ、豐島、黃海ノ大捷ヲ奏ス、茲ニ於テ賀表ヲ上ツルコト左ノ如シ。

賀戰捷表

神苑會會員臣義質等恭惟、清虜傲狠、違約背盟、屬視隣邦、敢拒吾議、於是宣戰之、嚴詔一降、以振億兆、臣庶敵愾之志、親征之、大纛乍進、以鼓六軍、驅虎禦侮之勇武、其名既正、事誠順、故於陸則奏牙山平壤之凱歌、於海則傳豐島黃海之捷音、乃知進而陷奉天、破北京、亦不出旬月也、蓋謂今日之事、遠媲美於神武神功之鴻蹟、亦非溢辭也、伏惟

允文允武

大元帥陛下、雄圖英略、神斷所運、克懲醜類、不々之烈、赫赫之功、何物加焉、然竊思

天祖在天之威靈、保祐邦家、庇護聖德、於冥冥間者、不爲无所由矣、臣義質等、不勝感激報

效之至、自今以往、愈修神苑、益揚神德、以圖報

天祖之偉惠陛下之洪恩茲欲表戰捷之賀意稽首再拜謹言

明治二十七年十月

神苑會會頭從三位勳一等 花房 義實

同月、茲ニ農業館附屬工藝館内ニ陳列セル徵古館用ノ備品ヲ賓日館ニ移シ、茲ニ陳列シテ以テ假徵古館ト稱ス、蓋平安奠都紀念祭將ニ明年ニ行ハレントス、是レ本會特ニ之ヲ二見浦ニ設備シ以テ衆庶ノ遊覽ニ待ツ所以ナリ、當時列品ヲ十三類ニ區分ス、計數三千二百二十二點、價格參千九百拾參圓餘、外ニ本會ノ請求ニ應ジ出陳セルモノ二十三點。

(右賓日館ニ陳列以來、長ク此方法ヲ繼續セリ)

此歲、農業館ハ主任幹事田中芳男ノ熱心ナル董督ニヨリ、館内頗ル整理ヲ告グ、之ヲ前年度ニ比シテ寄贈物品五百六十二點購入物品九百二十點ヲ増シ、觀覽人員四萬五千五百二十一人ヲ計上ス、館ノ

門前ニ設ケタル賣店神農園ハ、借主辻喜代藏之ヲ返還シ、東京稻波淳太郎其後ヲ襲グ、本館觀覽券委托ノ事モ亦同シ。

三重縣内各郡市、其他各地ノ寄附金、豫定額ニ達セザル方面ハ、其地ノ委員ニ對シテ勸誘完結ヲ求メ、又度會郡内ノ未納ヲ督促シ、時ニ專任幹事委員及書記ヲ派シテ、百方奔走以テ募集ニ努メタリト雖モ、二十七八年戰役以降、恤兵ノ事、軍事公債ノ應募等、臨時ノ費途多端ニシテ、民間金融緊迫、卒ニ其效果ヲ奏セザリシハ、又時局ノ已ムヲ得ザル所ナリ。然レドモ本會ノ財用空ク袖手觀望ヲ許サ、ボルガ爲、上記ノ困難ヲ排シテ東西ニ奔走シ、殊ニ本年二月舞子御別邸ニ於ル 總裁殿下ノ御思食ヲ以テ、大阪地方ノ富豪數十名ヲ御邸内ニ召セラレ、徵古館建營資金募集ニ關スル令詞ヲ賜ハリシ結果、同地方委員及有力者ノ斡旋、并ニ派出幹事ノ努力ヲ加ヘ、漸次好況ニ

向ヒシモ、是亦大勢時局ニ支ヘラレ姑ク中止ノ已ムベカラザルニ至レリ。當時大阪府下募集ヲ擔當シ同地ニ派出セシ三重幹事門岡千別ハ滞在シテ會務ニ奔走中、旅舎火ヲ失シ爲ニ携帶ノ書類并ニ服裝等悉ク烏有ニ歸セリト云。同幹事ハ歸所後幾モナク病歿セリ。明治二十八年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ行フ、此日、會員待遇規程ニ依リ會員一同ノ爲、午前九時 内宮ニ大々神樂ヲ奉奏ス。一月二十七日、本會總裁 有栖川熾仁親王殿下薨去遊バサレテヨリ、會頭以下會員一同哀慟措ク所ヲ知ラズ、此日謹デ左ノ弔詞ヲ上リ(用紙大奉書ニ認メ二十八日花房會頭携帶、御殿ニ捧持シ、恭ク之ヲ御棺前ニ奉呈ス)御葬儀(二十九日)ニ根越ノ眞榊一對ヲ獻上ス、幹事太田小三郎本會ヲ代表シ御葬儀ニ參列ス。

神苑會會員等茲ニ謹デ本會總裁參謀總長兼神宮祭主陸軍大將大勳位功二級熾仁

親王殿下ノ薨去ヲ追悼シ弔詞ヲ呈シ奉ル

明治二十八年一月

神苑會會頭從三位勳一等 花房 義 質

四月十七日、本會職員ニ對スル弔詞ノ式ヲ定ム蓋幹事委員若ハ其父母妻等ノ死亡ニ際シテハ、本會宜シク禮ヲ具ヘテ弔詞ヲ呈ス可シ、爰ニ三重縣ニ於テハ浦田長民、太田小三郎母、鹿島則文母等死亡ニ際シ、各其弔意ヲ表セルモ、未ダ一定ノ例規ヲ存セズ、自今定ムル所ノ式ニ據リ、其玉串料ハ隨時之ヲ定ムルモノトス。

評議員幹事長委員長幹事管財員委員等ノ本人死亡ノ節其遺族ニ送附スル弔詞書式

本會何々位勳爵氏名君ノ凶訃ニ接シ哀悼ニ堪ヘズ依テ茲ニ弔詞ヲ呈ス

年 月 日

神苑會會頭 位勳 氏 名

遺族 氏 名殿

同上父母妻女嗣子死亡ノ節送附スル弔詞書式

第六編 成立第二期 明治二十八年

○幹事以上ハ 尊大人 尊慈堂 令夫人 御令息御逝去

○委員ハ 御尊父母 御令室 御長男御遠行

何々何々ノ趣凶音ニ接シ悼惜ニ堪ヘズ茲ニ弔詞ヲ呈ス

年月日

神苑會會頭 位 勳 氏

名

神苑會何々位爵 氏

名殿

平安奠都ノ祭期間、參宮關西兩鐵道會社ニ於テ、農業館、賓日館ノ無料觀覽券ヲ發行セントス、乃チ其懇請ニ應ジ之ヲ承認ス。

右奠都祭執行ニ當リ、本會ハ神宮司廳ノ承認ヲ得、會員ニ於テ、神宮撤下御物ヲ拜觀スルコトヲ許容セラル、三重事務所ニ在テハ、宮川堤及農業館門前ニ標示シテ、會員參宮ニ對スル案内ヲナスベキ旨ヲ廣告シ、又賓日館内ノ假徵古館觀覽料ヲ五錢トシ、會員ニハ其料金を要セザル旨ヲ廣告ス。

此歲五月、清國和ヲ請ヒ戰役乃チ罷ム、茲ニ平和克復ノ 詔勅ヲ拜

シ謹テ左ノ表ヲ上ル。

伏惟

天皇陛下允文允文、曩降

大詔興征清之師、上下一致、寰區同心、軍旗所向、前無抗敵、遂至使清國、悔非謝罪、具禮請和者、是未嘗不由

祖宗在天之威靈、監臨邦土、與

陛下之英武神斷、勞

歛想於行宮、克排百難也、臣等誠不勝恐懼感泣之至今也、國光輝海外、

皇威振八荒、伸權利、擴版圖、或就絕代之偉業、無前之宏謨、乃知

寶劍建基之遺訓、於是驗矣、臣等遭遇斯盛時、抑亦何幸、茲拜平和克復之明詔、謝天覆地

育之洪恩、謹頌

陛下威德之萬一、并奉祈

聖壽無疆、誠恐誠惶、頓首再拜

明治二十八年五月

神苑會會頭從三位勳一等 花房 義 質

六月、有栖川宮威仁親王殿下ヲ總裁ニ奉戴ス。前總裁宮殿下薨去アラセラレテヨリ、本會總裁ヲ戴カザルユト半歲、會頭乃チ會員一同ノ希望ヲ表陳シ、書ヲ呈シテ、殿下ヲ奉戴センユトヲ惇願ス、殿下之ヲ諒トシ、許スニ臨鑒ヲ以テセラル、蓋、故宮殿下ノ遺緒ヲ繼紹シ給フノ誌志ニ出ヅ。會員一同感喜措ク所ヲ知ラズ、惇願書左ノ如シ。

本會創立以來總裁之儀ハ

故威仁親王殿下ヲ奉戴シ格別ニ御庇保ヲ蒙居候處、一朝薨去之御凶變ニ際會シ奉リ、本會一同哀痛之至ニ堪ヘズ永ク御遺勳ヲ仰慕罷在候次第ニ御座候、威仁親王殿下之儀即今海軍樞要之地ニ被爲立其他百般之事御多務可被爲在恐察仕候得共神宮ハ特別御崇敬之次第モ有之殊ニ故親王殿下之御緣故モ被爲在候儀ニ付何卒本會總裁ニ御推戴申上度幸ニ御認許ヲ賜候ハ、故親王殿下ニ咫尺シ奉リ御容顏ヲ拜候ト同一感想ヲ抱キ、會員一同

希望惇願之至ニ御座候依テ會員ニ代リ陳情仕候間、宜敷御執達被下度候拜具

明治二十八年六月一日

神苑會會頭 花房 義質

有栖川宮別當 山 尾 庸 三殿

威仁親王殿下へ、今般神苑會總裁御推戴御願之儀、及言上候處、委細御承諾被遊候、此段及御答候也

明治二十八年六月

有栖川宮別當子爵 山 尾 庸 三

神苑會會頭 花房 義質殿

十月十九日、總裁殿下、台命ヲ會頭ニ傳へ、二十一日ヲ期シ幹事評議員・委員長等ヲ率キ參邸スベキ旨ヲ達セララル、當時恰モ地方官ノ在京ニ會ス、所謂委員長ハ各府縣ノ長官是ナリ

謹啓、今般 威仁親王殿下、神苑會總裁御承諾相成候ニ就ハ、來ル二十一日午前十一時三十分、會頭以下幹事評議員委員長一統御招邀被遊度思召ニ付、同日時當宮へ御參集相成候様、諸君へ御通知御取計相成度、此段及御依頼候也

明治二十八年十月十九日

有栖川宮別當子爵 山 尾 庸 三

會頭直ニ台命ヲ諸員ニ傳ヘ、二十一日午前十一時三十分相率キテ參候ス、殿下之ニ餐ヲ賜ハリ次デ令旨ヲ賜フ(此日本會規則會務概略書・徵古館設置主意書ヲ頒タシメラル)諸員感佩、相與ニ事業ヲ大成センユトヲ奉答シテ退ク。

令旨

神宮ハ國家ノ宗祀億兆ノ仰敬スル所ナリ、神苑會會員ハ國民ノ本分ヲ以テ國ノ開化ト相伴ヒ、益々 神德ヲ顯揚シ、此仰敬ノ念ヲシテ厚カラシメンユトヲ企圖シ、寔ニ

故大將宮ニ請フニ總裁ノ任ヲ以テス、故宮其趣旨ヲ嘉納シ、其請ヲ許容セラレタリ、朝廷亦金若干ヲ賜ヒ、各地有志者ノ醵金モ蓋シ少額ナラズ、今ヤ此會ノ事業既ニ其半ニ達ス、獨リ徵古館ノ舉、其規模ノ大ト、費額ノ多キトニ關シ、未ダ當初ノ目的ヲ遂グル

能ハザルハ、本會員ノ最苦慮スル所ナリ、威仁 故宮ノ遺志ヲ繼ギ、茲ニ總裁ノ任ヲ諾ス、庶幾クハ此會ノ事業ヲ完成シ以テ 故宮ノ初志ヲ遂行センユトヲ、諸子能ク此意ヲ諒シ、適宜經畫ノ勞ヲ乘ラルレバ幸甚

明治二十八年十月二十一日

右 總裁殿下賜フ所ノ令旨ヲ謄寫シ、添ルニ會員待遇書・委員取扱方等ヲ以テシ、十一月八日牒ヲ附シテ各府縣委員長ニ發送ス。

拜啓過日御出京之節、屢煩清聽候神苑會募集金之儀ニ付テハ、兼テ本會規則會員待遇規程・委員取扱心得・徵古館建設主意書等ノ印刷物、致御回置候得共、尙便覽ノ爲別紙會員待遇書調製候間(何部差出申候、何分勸誘方、可然御措置企望仕候、尙印刷物御入用ニ候ハ、御申越被下度候、且此餘貴府縣下之御都合ニ依リ、本會ニ於テ取扱方心得共可相成事項ハ、無御腹藏御教示被下度到底諸事篤ト御打合之上、速ニ責務ノ完了ヲ告度素心ニ有之候御依頼旁々此段得貴意候也

明治二十八年 月 日

神苑會會頭 花房 義 質

各府(縣) 知 事 宛

追而過日、總裁殿下御演達相成候令旨モ別紙(何枚差出候間貴府(縣)高等官市町村長等へ御頒布被下度候又本會内規中委員心得之分別紙(何枚差出申候御合置可然御覽考被下度此段申添候也

(添付書類略ス)

十二月十六日、本年勅令第百十八號ヲ以テ勳章類似ノ標章佩用ヲ禁止セラル、ヤ、本會會員證牌ニ關シ、賞勳局并ニ警保局等ニ知照スル所アリ、乃チ從來ノ綬ヲ廢シテ總テ紐制トシ、牌型ヲ縮メテ徑五分八厘ニ改造ス、後其調製ヲ了スルニ至リ、之ヲ會員ニ交付シ會テ頒ツ所ノ綬牌ヲ佩ブトナカラシム。又會務擴張ノ必要ヲ認メ、各府縣ニ副委員長ヲ置クニ決ス、右二件ノ改定ニ從ヒ、會則條項ニ修正ヲ加フルコト左ノ如シ。

本會規則中修正條項

第五條

但證牌ハ徑五分八厘ノ八稜鏡形ニシテ紐房ノ色目ヲ以テ五種ニ區別ス、贊助員ノ證牌ハ綠紐ノ銅牌トス、會員ニシテ拾圓以上參拾圓未滿ノ寄附者ハ紅紐參拾圓以上五拾圓未滿ノ寄附者ハ紅紫紐五拾圓以上百圓未滿ノ寄附者ハ紫紐百圓以上ノ寄附者ハ黃紐ノ銀牌トス

第八條中 委員長ノ下(副委員長)ノ四字ヲ加フ

第十二條中 一名ノ委員長ノ下(トシ一名ヲ副委員長)ノ九字ヲ加フ

本年中、三重事務所ニ於テハ、平安奠都紀念祭ニ際シ、計畫考案スル所アリシモ、財用之ヲ許サバ、ルガ爲實行ヲ止メタルモノ多シ。而シテ其施シ得タル所ヲ舉レバ、奠都祭期間中、賓日館、農業館無料觀覽并ニ神宮司廳ノ特許ヲ得テ撤下御物ノ拜觀等、三面連續ノ通券ヲ調製シ之ヲ全國各地ニ散在セル篤志家(本會將來ノ有望者)ニ配送

シ以テ參宮ヲ勸誘シ、併セテ會員ノ待遇ヲ厚クシ、若クハ右大祭ヲ期シテ假徵古館ヲ賓日館内ニ設ケ、又徵古館建設準備地六百坪ヲ、農業館接續地域ニ購入シ、該館建設ノ準備ヲ指示セシノ類是ナリ。農業館本年ノ觀覽人一萬七千二百二十八人、物品ノ寄贈八百四十六點、購入千五百十三點、是多クハ第四回内國勸業博覽會ノ閉場ニ際シ、寄贈或ハ購入ニ係ル而シテ其列品増加ニ從ヒ場内狹隘ヲ告ゲ、爲ニ十二坪ヲ増築セリ。

明治二十九年一月一日、例ニヨリ新年拜賀式ヲ舉ゲ、内宮ニ於テ大々神樂ヲ奉奏ス。

七月、幹事太田小三郎私事ヲ以テ九州ニ至ラントス、本會托スルニ福岡佐賀熊本ノ三縣委員長ニ面シ、募集方法ヲ協議センコトヲ以テス。

同月、東京市安本龜八製作ノ養蠶人形ヲ購入シ、農業館内ニ陳列ス。本品ハ東京府下西ヶ原蠶業講習所員ノ指揮監督ニ係リ、製作ノ初、東京市公園内美術協會ニ陳列シ、六月二十一日ヨリ三日間、貴顯紳士及關係諸員ノ觀覽ニ供シ、同二十七日之ヲ青山御所ニ移シ、皇太后陛下 皇太子殿下ノ御覽ニ供ヘ奉リ、同二十九日又之ヲ宮中ニ移シ

皇后陛下ノ御覽ニ供ヘ奉リ、而シテ後農業館ニ移セシモノナリ。二十四日、總裁殿下東京御出發、舞子御別邸ニ向ハセラル、御滞在中會員ノ加入ヲ御獎勵アラセラレントス、兵庫縣委員長モ亦懇請スル所アリ、是ニ於テ花房會頭國重幹事及三重事務所員一名同地ニ赴キ、同縣委員長周布公平ノ熱心斡旋ヲ以テ、多數ノ有志者ヲ御別邸ニ參集セシメ、台命ニ從ヒ大ニ勸誘ヲ加フ、爲ニ翕然トシテ會

員ノ増加ヲ見ルヲ得タリ。

八月二十一日、昨年十二月十六日改定ノ本會證牌其調製ヲ了シ、茲ニ會員及贊助員ニ交付ス。

本年中大阪府和歌山縣其他府縣ニ委員ヲ派シ會員募集ニ勉ム。

此歲成川尙義、三重縣知事ヲ罷メ、田邊輝實其後ヲ襲ギ、本會三重幹事長爲ニ交迭ス。

明治三十年一月一日、新年拜賀式ヲ行ヒ、内宮ニ於テ大々神樂ヲ奉奏ス。

十五日、皇太后陛下、崩御遊バサレタルヲ以テ、謹テ左ノ弔詞ヲ奉呈ス。

神苑會會員等伏シテ

皇太后陛下ノ崩御ヲ震驚哀悼シ恭ク弔詞ヲ呈シ奉ル

明治三十年一月

神苑會會頭從三位勳一等男 花房 義質

四月三十日、横濱市ニ於ル宮内省御用邸ヲ拜借シ、市内著名ノ人士ヲ招集ス、蓋本會ノ事業ニ關シテ商議シ、併セテ入會ヲ勧誘スル所ナリ。

七月十一日、本會事業擴張ノ準備トシテ、宇治山田町大字豊川町、農業館門前東角ヨリ須崎橋際ニ至ルマデ、市街宅地四百九十三坪ニ合二勺ヲ購入ス、代金四千圓、持主阿竹嘉六、竹内善四郎ノ兩名ニ係ル。

九月十五日、本會規則第十二條中地方委員ニ關スル條項アルモ、其成規頗ル簡ニ失シ、各地方實際ノ募集事務ニ適切ナラザルヲ以テ、該委員ノ序次ヲ左ノ如ク定メ、益實務ノ進行ヲ計ル、從ウテ規則第八條及第十二條ヲ改正ス。

地方委員職序次

廳府縣委員總長 知事之ニ充ツ
 同委員副總長 書記官之ニ充ツ
 郡市委員長 郡市長之ニ充ツ
 廳府縣委員 參事官以下之ニ充ツ
 郡市委員 地方名望家郡市吏員之ニ充ツ
 郡市委員補 地方有志者之ニ充ツ

規則改正

第八條 本會ハ會頭副會頭評議員管財員幹事長幹事委員及ビ廳府縣委員總長廳府縣委員副總長廳府縣委員郡市委員長郡市委員郡市委員補ヲ以テ組織シ郡市委員以上ハ總裁之ヲ囑託シ郡市委員補ハ會頭之ヲ囑託ス

第十二條 廳府縣委員總長ハ廳府縣內ノ會務ヲ總轄シ廳府縣委員副總長以下ノ諸員ヲ選定擬議シ之ヲ會頭ニ申出ベシ

廳府縣委員總長ハ東京ニ在ルトキハ評議員トシテ會議ニ參列スルコトヲ得

廳府縣委員副總長ハ職掌委員總長ニ亞グ委員總長事故アレバ之ヲ代理ス

郡市委員長ハ廳府縣委員總長ノ指示ヲ承ケ部內ノ會務ヲ擔當シ郡市委員郡市

委員補ヲ選定擬議シ委員總長ヲ經テ之ヲ會頭ニ申立ルヲ得

廳府縣委員ハ委員總長ノ指示ヲ承ケ郡市委員及郡市委員補ハ郡市委員長ノ指示ヲ承ケ各其會務ヲ區別ス

十月、從三位周布公平ニ本會副會頭ヲ囑託セララル。

十一月、副會頭周布公平、會務擴張ノ用件ヲ負ヒ山口縣ニ出張ス。

神苑會史料

第七編

第七編

成立第三期

自明治三十一年一月
至同三十五年十二月

明治三十一年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ行ヒ、内宮ニ大々神樂ヲ奉奏ス。

十一日、農業館内ニ水産物陳列ノ目的ヲ以テ、建物二十六坪二合五勺ヲ増築ス、蓋シ昨年兵庫縣神戸市ニ開設セル、第二回水産博覽會出品中、農業館陳列ニ必要ナル物品ヲ購求シ其他各府縣出品人ノ寄贈或ハ出品志望ノモノ多數ニ及ビシヲ以テナリ。

二十九日、田邊三重幹事長、田中幹事、大渡委員等、花房會頭ノ邸ニ會合シ、會務ニ關スル協議會ヲ開キ、次デ二月十一日、周布副會頭、渡邊評議員、田邊三重幹事長、田中幹事、成川常務幹事、大渡委員等、花房會

頭ノ邸ニ協議會ヲ開キ、左ノ各項ヲ協定ス。

- 一 徵古館敷地買收ニ關シ三重幹事長ニ委託スベキ件
- 二 一枚摺規則改良ヲ圖ル件
- 三 宇治山田町ニ古器物展覽會ヲ催ス件
- 四 神都略載出版ノ件

但ニヨリ四迄田中幹事擔當

(右神都略載ハ三重委員藤井清司ノ編述スル所ナリ、全編四卷、稿既ニ成リ、三重幹事鹿島則文檢閲中、神宮司廳ノ失火ニ遇ヒテ煨燼ニ歸シ、遂ニ上梓セズシテ止ム)

三月三十一日、宇治山田町大字豐川町、農業館門前、西角ヨリ西方里道ニ達スル一帯ノ市街宅地ヲ、本會用地トシテ買收ス、初メ徵古館用地ヲ倉田山ニ豫定セリト雖モ、比年寄附金成績ノ不良ニ徵シ、其資力或ハ倉田山ヲ拓キ難カラント恐ル、且本館ハ農業館ト密接ノ關係アリ、若シ兩館ヲ隔離センカ、實際管理上ニ支障ヲ來スヤ

必セリ、乃チ建館準備トシテ農業館接續地域ノ購入ヲ圖ルモノ此ニ日アリ、而シテ其所有者中二三ノ徒、不當ノ地代及ビ家屋立退料ヲ要求スルニ遇ヒ、一旦其議ヲ變更シテ農業館南面ノ苑地ヲ借用セント欲シ、神宮司廳ニ交渉スル等、百方考案ヲ回ラスニ當リ、三重縣知事田邊輝實并ニ度會郡長滿岡勇之助ノ斡旋ヲ以テ、所有者ヲシテ至當ノ要求額ニ改メシメ、加フルニ所有者中堀江德兵衛ノ其地ヲ寄附シ來ルアリ、茲ニ買收ノ一段落ヲ見ルニ至レリ。右徵古館準備地買收ヲ了センヲ以テ、四月十一日火防上ノ必要ヲ認メ、更ニ其接續地百八十三坪五合七勺ヲ買收ス。六月二十日、花房會頭ノ邸ニ職員會ヲ開キ左ノ事項ヲ評議ス。

會合人名

會頭	花房 義 質	副會頭	周 布 公 平
評議員	渡 邊 洪 基	兼評議員兼幹事員	成 川 尙 義

評議員 飯田 巽 評議員 久米 金彌

幹事 田中 芳男 幹事 中田 直慈

囑託技監 片山東熊 委員 大渡 直清

評議事項

一、農業館陳列品目錄印刷ノ件

成ルベク省略ヲ主トシ今一回田中幹事ニテ修正ヲ加フルコト

一、徵古館敷地ノ件

一、徵古館建築方法ノ件

耐火構造ヲ目的トシ其設計ヲ片山技監ニ囑託ス

一、町田久成遺物買上ノ件(徵古館陳列品)

一、田中幹事三重事務所ニ出張ノ件

六月二十九日、證牌取扱内規第十六條ニ左ノ但書ヲ追加ス、蓋會員證牌ハ、佩用者死亡ノ後、其相續金ヲ納付セル相續人ナシテ襲用スルコトヲ得セシムト雖モ、獨リ啟字證牌ニ至リテハ、其佩用者ガ創

立者タルヲ證明スルモノニシテ、之ヲ子孫ニ佩用セシムルハ事實ト齟齬シ、隨ヒテ啟字ノ價值ヲ失フベキヲ以テ、若本人死亡後、遺族相續金ヲ納ムレバ、啟字證牌ノ佩用ヲ止メ、更ニ通常證牌ヲ交付スルニ在リ、其名譽證牌ニ於ルモ亦然リ。

第十六條(本文ヲ略ス)

但シ創立會員及名譽會員ノ證牌ヲ相續人ニテ繼續佩用セントシ、本文ノ相續金ヲ差出シタルトキハ、其本證ノ佩用ヲ許ササルモ更ニ通常會員ノ證牌ヲ交付シテ佩用セシムベシ

九月二十七日、入會勸誘ノ爲、大渡委員ヲ大分縣ニ派ス。此歲、三重縣知事田邊輝實、職ヲ罷メ、李家祐ニ、其後ヲ襲ギ、尋テ山縣伊三郎之ニ代リ、幾モナクシテ荒川義太郎之ニ代リ、隨テ三重幹事長屢交迭ス。十二月、勝田義禎ニ三重委員ヲ囑托シ、賓日館常務員ヲ命ズ。

明治三十二年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ行ヒ、内宮ニ於テ

大々神樂ヲ奉奏ス。

二月十日、三重事務所ハ常ニ會員ノ來訪ニ接シ、農業館ハ逐年觀覽者ヲ増加ス、門前織ルガ如ク自カラ人力車ノ需用ヲ生ズルユト多シ、之ガ利便ニ供センガ爲メ、本會用地ノ内、適當ノ個處ニ停車場一棟ヲ建設シテ車夫ニ貸與ス。

二月十一日、東京京橋區南紺屋町、地學協會ニ於テ職員會ヲ開キ左ノ事項ヲ評議ス。

出席人名

會頭	花房 義 質	評議員	渡邊 洪基
常務幹事	成川 尙 義	幹事	田中 芳男
三重幹事	太田小三郎	三重幹事	滿岡勇之助
三重委員	山中 崔 十	委員	玉井 修 眞
委員	大渡 直 滿		

評議事項

- 一、 徵古館建築ニ關シ貴衆兩院ニ請願ノ件
- 一、 神宮司應收入等其筋へ問合セノ件
- 一、 本會經營事業調書ノ件

此日ノ會合頗ル消長ノ機運ニ關スルモノアリ、將來經營ノ方針亦之ニヨリテ定マル、是レ評議慎重、遂ニ神宮經常費增加問題ヲ喚起シテ而シテ後、間接ニ本會ノ希望ヲ貫徹スルニ至リシ所以ナリ。當時輒ク募金ノ績ヲ得ル能ハズ、職員等常ニ歲月ノ遷リ易ク事業ノ期シ難キヲ憂フ、窃ニ謂ヘラシ本會ノ計圖既ニ上下ノ稱贊ニ遇フ、之ヲ國家ノ事業ト爲スモ敢テ不可ナキニ似タリ、宜ク國庫ノ補助ヲ仰ギテ以テ前途ノ大成ニ勗ムベキナリト。遂ニ帝國議會ニ請願スルノ意ヲ決シ、三重職員太田、滿岡、山中等、請願書案ヲ携へ上京シテ之ヲ會頭ニ稟議ス、蓋本日提案ノ動機是也。相議シテ曰ク議院請

願ノ事固ヨリ不可ナシ、然レドモ今遽カニ之ガ效果ヲ收ムベキニ非ルハ論ナキノミ、若カズ先ヅ 神宮經費ヲ論ジテ以テ政府ノ意向ヲ問ヒ、其別途收入ノ餘裕ニ就キテ補助ヲ求ムルノ途ヲ講ゼンニハ、事若シ成ラズンバ、則テ敢テ議會ニ請フ所アラント、評議粗此ニ傾ク。越テ十六日、花房會頭、周布副會頭、評議員渡邊、田邊、幹事田中、太田、委員山中、大渡等再ヒ精養軒ニ會シテ前議ヲ評決シ取ル所ノ方針ヲ一定ス、尙協議ノ結果主旨目的ヲ鼓吹シ現狀ヲ紹介スルノ必要ヲ認メ、創立成績現況書(三千部)ヲ調製シテ盛ンニ會員ヲ勧誘スルノ資料ニ充ツ。

神苑會創立成績現況書

神苑會ノ目的ハ別冊規則書ノ趣旨ヲ以テ其實蹟ヲ完成セント欲スルニ在リ、爰ニ明治十九年三重縣下ニ創立ヲ唱ヘシ以來、茲ニ十三年、既ニ神苑ヲ開キ、農業館ヲ建テ、資日館ヲ設ク、獨リ微古館ノ建設ニ至テハ、規模ノ大ト費額ノ多トニ因リ、未ダ其

竣功ヲ告グル能ハズ、常ニ之ヲ憾ミトセリ、今ヤ四方同志者ノ贊襄ヲ得テ、該館ノ成功ヲ期シ當初ノ目的ヲ貫カント欲ス、仍テ既往ノ着手順序、事業成績及ビ現狀ノ梗概ヲ掲グルコト左ノ如シ

本會ハ明治十九年六月ヲ以テ、伊勢國度會郡宇治山田町ニ創立セリ、蓋シ此地ハ歷朝ノ尊崇シ給ヒ、億兆ノ仰敬シ來ル所、神宮鎮座ノ靈境ナルニ、其地域狹隘蕪雜ニシテ、畏多クモ尊嚴ヲ缺クノ現狀アルヲ憤慨シタルニ、因ルモノナリ、舊記ヲ案ズルニ、足利氏以降、朝憲式微ニシテ神領漸ク衰ヘ、土着ノ民久シク守護不入ノ治ニ徃レテ漫ニ自己ノ私ヲ營ミ、往々家屋ヲ起シ漸次 宮域ヲ侵蝕シ、褻瀆ノ畏ルベク火災ノ虞アルモ、曾テ之ヲ顧ミザルニ至レリ、徳川幕府ノ時之ガ掃蕩ノ事ヲ試ミシモ遂ニ其效ヲ奏セズ、因循シテ明治維新ニ馴致セリ。

靈境ノ現況既ニ斯ノ如シ、地方有志者之ヲ憂フル久シ相議シテ云フ 神宮、月次、其他ノ祭典ハ從前ニ異ナルコトナク、頗ル鄭重ヲ盡サセ給フモ、其 宮域附近ノ現狀斯クノ如クナルトキハ、内地參拜者ノ感想果シテ如何、殊ニ海外人モ亦踵ヲ此ニ接スルノ今日、之ヲ見テ何トカ謂ハン、其國體ノ光輝ニ關スル蓋シ鮮少ナラズ、吾輩

神地近接ニ住シ 神恩ヲ蒙ル殊ニ深シ、豈傍觀默止スベケンヤ、宜ク率先シテ改良ノ策ヲ建ツベシト、是ニ於テ資ヲ醜シ勞ニ服シ、先ヅ 宮城附近廓清ノ舉ヲ施行シ、進テ徵古館農業館等ノ設備ヲ爲シ、一ハ以テ歴史資料ヲ供給シ、一ハ以テ農業殖産ヲ勸誘シ、共ニ併セテ 神德ノ顯揚國體ノ發輝ニ資セントシ、二三ノ有志之ヲ唱フルヤ、同志ノ輩翕然之ニ和シ、宇治山田町ヨリ附近村落ニ至ル迄、一致協贊ノ誠ヲ表セリ、乃チ事業ヲ分テ二段落トナシ、神苑開設ヲ第一着手トシ、徵古館農業館ヲ第二着手トス

第一着手起業ニ際スルヤ、三重縣知事石井邦猷ハ其舉ヲ贊襄シ、金若干ヲ寄附シ、獎勵指揮至ラザル所ナク、神宮司廳ハ金參萬圓ヲ支出シ以テ其費ヲ補助セリ、乃チ會名ヲ神苑會ト稱シ、度會郡長浦田長民ヲ假會頭トシ、後神宮宮司鹿島則文ヲ之ニ推ス、幹事太田小三郎委員十數名ト、鞠躬盡力、民家ヲ移轉シ、荒蕪ヲ拓開シ、大ニ林泉ノ土功ヲ起シ、明治二十二年十月恰モ式年 遷宮ノ盛典ニ際シ大略造苑ノ績ヲ奏ス、其面積凡ソ一萬九千坪餘風致林ノ別地ニ在ルモノハ算入セズ、民家ヲ移轉スル一六十九戸之ヲ幕府ノ萬治寛文年間ノ改修事業ニ比スレバ、優ニ其成績ノ超越セ

ルヲ見ル、又神苑竣功ノ前ニ當リ、十九年十二月二見浦ニ賓日館ヲ建築シ、數句ニシテ成ルヲ告グ、二十年三月

皇太后陛下ノ御泊ヲ忝シ、次デ又二十四年八月

皇太子殿下ノ御駐驛ヲ忝シ、誠ニ本會無上ノ光榮ヲ荷ヘリ、爾來此館ヲ以テ、會員若クハ諸員待遇ノ區ト爲シ、今日ニ至レリ

擴張事項

第一着手事業ノ駸々歩ヲ進ムルヤ、幹事太田小三郎等謂ラク、本會ノ事タル、我等首唱ノ責務アルモ、到底一地方獨任ノ事業ニ非ズ

神宮ハ國家ノ宗祀ニシテ、國民一般ノ崇尊スル所ナリ、宜シク全國協贊ノ力ニ藉テ、以テ此事ノ完成ヲ期スベシト、乃チ二十一年臘末、東京ニ出デ要路顯官及ビ紳士ニ陳述スル所アリ、大ニ其贊助ヲ得タリ、經始ノ績遂ニ

天聽ニ達シ、特ニ金壹萬圓

皇太后陛下ヨリ金貳千五百圓

皇后陛下ヨリ金貳千五百圓

皇太子殿下ヨリ金五百圓ヲ賜ヒ、此舉ヲ嘉獎セラル、依テ更ニ組織會規ヲ修正シ、有栖川熾仁親王殿下ヲ總裁ニ奉戴シ、宮内次官伯爵吉井友實ヲ會頭ニ、大學總長渡邊洪基ヲ副會頭ニ、別ニ評議員、管財員、幹事等數十名ヲ推薦セリ、二十二年五月、事務所ヲ東京三重ノ兩地ニ設ケ、東京事務所ハ幹事、委員、書記ヲ置キ、會頭直ニ之ヲ監督シ、三重事務所ハ三重縣知事ヲ幹事長ト爲シ、幹事、委員、書記ヲ置キ、權限ヲ規シテ事ヲ行ヒ、且兩地ノ會計諸般ノ事務ヲ舉テ、宮内省内藏助飯田巽ノ管理ニ委シ、以テ其整理ヲ計ル、是ニ於テ本會ハ協贊ヲ全國有志ニ求ムルコト、ナレリ

第二着手事業ノ徵古館農業館ニ從事スルト同時ニ、全國有志者ニ對シ、入會義捐ノ事ヲ謀ルニ方リ、裁總熾仁親王殿下ニハ事業ノ功程ヲ規畫シ、各地方長官ヲ其第内ニ招致シ、親シク令旨ヲ賜ヒテ會員募集ノ件ヲ依囑シ給フ、是ヨリ天下靡然トシテ各贊助ノ實ヲ表セントセリ、既ニシテ幹事田中芳男ノ擔任ヲ以テ、農業館ヲ外宮神苑地ノ北面ニ建ツ、凡ソ農産、種樹、牧畜、漁獵、養蠶ノ範圍ニ屬セル分類其實物又ハ模造圖書等ヲ蒐集シ、秩然臚列セザルモノナシ、其開館ヲ告グル二十四年五月ニ在リ、翌年十二月 總裁熾仁親王殿下ノ親臨ヲ仰ギ、開苑ノ式ヲ行ヒ、第一着手事業

ノ完成ヲ奉告シ、越テ翌年神苑ヲ舉ゲテ

神宮ニ奉獻セリ、其後數月ニシテ參宮鐵道ノ開通ヲ告グ、運輸ノ機關茲ニ備ハルニ至リシ者、抑モ是レ本會ノ事業經營大ニ與リテ力アリト云フベシ

是ヨリ先キ、渡邊副會頭公使トシテ海外派遣ノ命ヲ拜セルニ依リ、男爵花房義質之ニ代リテ副會頭タリ、偶々吉井會頭病ヲ薨ズ、宮内次官花房副會頭其後ヲ承テ會頭ニ任ジ、第二着手ノ事業ニ華々タリシモ、未ダ全國職金ノ成績ヲ見ズシテ、二十七年日清戰役ニ會ヒ、軍務倥傯、素ヨリ他ヲ顧ミルニ迫アラズ、爲ニ會務ノ阻滯ヲ來スコト數月、次デ 總裁熾仁親王殿下ノ薨去ヲ以テシ、哀ヲ國民ト共ニスルノ悲運ニ遭遇セリ、本會ノ不幸焉ヨリ大ナルハ莫シ、此間纔ニ徵古館準備ノ物品有志者ノ寄贈及ビ本會ノ購入セシヲ、賓日館ニ陳列シテ縱覽ニ供シ、以テ時機ノ至ルヲ待ツ、幾クモナクシテ國家戰捷ノ隆運ヲ來シ、本會總裁トシテ 威仁親王殿下ヲ奉戴スルノ榮ヲ得タリ、蓋シ 故殿下ノ遺圖ヲ繼紹シ給フノ懿旨ニ出ヅ、二十八年十月、殿下ハ各地方長官ヲ徵ケ關ノ第二招キ、令旨ヲ降シ懇々依囑シ給フ所アリ、當時事業ノ完成ニ要スル金額、概算參拾六萬參千四百圓、其内既濟寄附金拾貳萬四千八拾餘圓ヲ控除シ、前途

要スル所尙貳拾四萬餘圓ヲ募集セザルベカラズ、各地方長官令旨ヲ拜シ募集ニ着手セリト雖モ、其好成績ヲ得タルハ僅々ノ府縣ニ止リ、在昔今日ニ至レリ、三十年十月、從三位周布公平ヲ副會頭ニ推薦シ、其協力ヲ請ヘリ

上來述ブル所ノ如ク、本會當初ノ目的ハ既ニ其半ヲ達ス、目下ノ急需ハ募集金額ノ速成ニ在リ、今ヤ徵古館ハ建設用地既ニ定リ、構造圖案モ亦調フ、乃チ其金額ヲ得バ直ニ建築ノ事務ヲ了シ、猶維持ノ資本ヲ準備シ、本會之ヲ以テ最終ノ事業トシ、總裁威仁親王殿下ニ對シ拜謝復命スル所アラントス、尙ニ聞ク、内宮ノ臨時遷宮ハ實ニ三十三年十月ニ在リト、曩ニ二十二年式年遷宮ノ盛典ニ際スルヤ、本會能ク内外ノ神苑ヲ竣功セリ、今又三十三年ノ臨時遷宮ノ盛典ヲ期シ、徵古館ノ建築ヲ竣ヘ會務ヲ完結シテ以テ、神宮ニ奉獻セントスルハ最モ當サニカムベキノ急務タリ、加之國際間改正條約ノ實施モ將ニ近キニアラントス、此時ニ際シ、本會其經營ヲ全クセザルハ、國家ノ大廟ニ對シ深ク恐懼ニ堪ヘザルモノアリ、庶幾クハ全國同志者諸君、本會ノ微衷ヲ諒トセラレ、相率テ贊襄アラントラ、左ニ創業以來ノ收支計算并ニ成績ヲ掲ゲテ參照ニ供ス

記

一金拾九萬壹千八百貳拾九圓八拾九錢貳厘

但創業以來明治三十一年十一月迄收入總額

内

金拾七萬七百拾貳圓七拾五錢

寄附金總額

内

金壹萬圓

宮内省御下賜

金貳千五百圓

皇太后陛下同上

金貳千五百圓

皇后陛下同上

金五百圓

皇太子殿下同上

金貳千六百圓

各皇族方御寄附

金參萬圓

神宮司廳補助

金拾貳萬貳千六百拾貳圓七拾五錢

各府縣有志者寄附

金貳萬千百拾七圓拾四錢參厘

爾餘諸收入

一金拾六萬貳千五百六拾八圓八拾五錢八厘
但同上支出總額

差引

金貳萬九千貳百六拾壹圓參錢五厘

本會經營ニ係ル物件目錄

- 一 內宮神苑 反別二町五反一畝步餘
- 一 外宮神苑 反別三町五反九畝步餘
- 一 內宮接續風致林ノ保管 反別百六十九町三反三畝步餘
- 一 倉田山 反別八町七畝步餘
- 一 寶日館敷地 一千三十三坪餘
- 一 同 建物 一百九十四坪餘
- 一 徵古館敷地 四千二百四十五坪餘
- 一 農業館工藝館建坪 二百三十七坪餘
- 一 三重事務所并附屬建物 百二十四坪餘

三月六日、農業館中ニ木竹陳列ノ爲一棟ヲ増築ス。

三月二十五日、副會頭周布公平會員募集ノ用務ヲ負ヒ、委員渡邊憲一ヲ隨ヘテ山口縣ニ出張ス。

五月二十五日、全國私設鐵道會社第十二回大會ヲ宇治山田町ニ開ク、周布副會頭之ニ臨ミ、參宮鐵道會社社長渡邊洪基ノ紹介ヲ以テ各鐵道會社參集員ニ本會ノ主旨ヲ縷陳シ、贊成、入會ヲ求ム、參集者皆贊成ノ意ヲ表シ、歸社ノ後應分ノ力ヲ盡サンコトヲ誓ヘリ、翌二十六日宇治山田町滞在ノ各鐵道會社員ニ送ルニ左ノ書簡ヲ以テス。

拜啓陳者昨日詳細申演置候通リ神苑會ノ主趣御贊成貴下御一己ノ資格ニ於テモ御加入被下度希望候仍テ別紙申込書用紙差出候間御寄附金額御記入ノ上御返却被下度候草々 敬具

明治三十二年五月二十六日

神苑會副會頭 周布 公平

何鐵道會社

何 某殿

追テ會員證牌左ノ如ク區別ス

一拾圓以上參拾圓以下 紅 紐

一參拾圓以上五拾圓以下 紅紫紐

一五拾圓以上百圓以下 紫 紐

一百圓以上 黃 紐

拜啓昨日ハ得御面會本懐ノ至ニ奉存候其節申述候神苑會ノ旨趣即時御同感ヲ表
セラレ得御賛成候段感謝ノ至リニ御座候不取敢此段御挨拶申進候 敬具

明治三十二年五月二十六日

神苑會副會頭 周 布 公 平

何鐵道株式會社

何 某殿

何 某殿

六月、幹事兼度會郡委員長滿岡勇之助、度會郡長ヲ罷メ、岡耕三郎其
後ヲ襲ゲルヲ以テ、本會度會郡委員長交迭ス。

八月三日、周布副會頭宇治山田町ニ至リ、兩宮參拜ノ後、三重事務
所、農業館等ヲ視察シ、五日歸京ス。

十五日、幹事滿岡勇之助ニ三重事務所常務幹事ヲ囑託ス。

九月五日、周布副會頭、大渡委員、三重事務所ニ臨ミ、本會將來ノ計畫
及徵古館建設ノ件ニ關シ、荒川三重幹事長及三重幹事、同委員等ト
協議スル所アリ、九月十日歸京ス、太田三重幹事、玉井三重委員相共
ニ同行上京ス。

十一日、花房會頭ノ邸ニ評議會ヲ開ク、會スル者左ノ如シ。

花房會頭 周布副會頭 渡邊評議員

飯田評議員 太田三重幹事 大渡委員

議 目

一 神宮司應補助金ノ件

一 徵古館敷地買收ノ件

一 徵古館建築概算ノ件

一 補助金ニ係ル條件調査ノ件

九月二十五日、小松宮彰仁親王殿下、神宮御參拜ノ爲、宇治山田町ニ御參向、外宮御參拜ノ後、本會三重事務所ニ台臨アラセラレ、幹事委員等ニ拜謁ヲ許サレ、本會ノ事業ヲ嘉シ、職員ノ勵精ヲ勞フノ令詞ヲ賜ヒ、農業館ヲ台覽アラセラル、此日拜謁ヲ許サレタル者左ノ如シ。

- | | |
|----------------|--------------|
| 三重縣委員副總長 川上書記官 | 度會郡委員長 岡 耕三郎 |
| 三重幹事 宇仁田宗馨 | 三重幹事 滿岡勇之助 |
| 三重委員 村田德三 | 三重委員 竹内善兵衛 |
| 三重委員 西田七左衛門 | 三重委員 尾 寺 信 |
| 三重委員 村井恒藏 | 三重委員 久保田五兵衛 |
| 三重委員 渡邊 憲一 | 度會郡委員 乙部八次郎 |

度會郡委員

朝倉寬一郎

度會郡委員

井村芳次郎

二十七日、花房會頭、赤十字社ノ用務ヲ負ヒテ、宇治山田町ニ出張シ、併セテ三重事務所ヲ視察セリ。

十二月二十五日、本會規則中、待客館舎ヲ設クルノ條規アルモ、未ダ設置ニ至ラザルヲ以テ、姑ラク五二會館ヲ假用シテ本會休泊所ニ充ツルモノトシ、同會館トノ間ニ特約ヲ締結ス。

明治三十三年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ行ヒ、會テ 内宮ノミニ奉奏セン大々神樂ヲ茲歲ヨリ 内外兩宮ニ奉奏ス。

一月十二日、横濱市委員長梅田義信ノ請求ニ應ジ、本會會則ノ要旨ヲ漢譯シテ回付ス、蓋シ清國總領事并ニ領事等ニ勸誘センガ爲ナリ。

神苑會募集員概要

伊勢 神宮奉祀 國祖也。歷朝尊崇祀典大殿故士民四時子來莫不謝恩德者。先是霸政之時地制紛亂民家往々侵 宮域汚穢蕪雜冒瀆 神德者不爲不多維新以降三重縣志士有憂于此捐資結會將創開苑圃構造臺榭以甄明 靈境焉。號曰神苑會。事業漸次就緒成緒歷々可觀。既而事聞 宮廷特賜金圓獎成之。於是頒會旨于天下。廣求同志而應募者亦萬計。此時仰 有栖川宮熾仁親王殿下于神苑會總裁。薦宮內次官伯爵吉井友實君子神苑會會頭。帝國大學總長渡邊洪基君子神苑會副會頭。經營頗力。卽 內宮神苑、外宮神苑、農業館、賓日館。雖各竣其功。徵古館者。費額鉅萬。未至起工。此爲憾耳。今也。當功闕一篑之時。求贊助于四方者。蓋不得已也。乃 有栖川宮威仁親王殿下。繼紹故宮遺志。以膺神苑會總裁之任。從三位勳一等男。爵花房義賢君。承吉井會頭之後。幹理其事。薦從三位勳三等周布公平君子神苑會副會頭。從事更張。其餘置評議員幹事委員若干名。以各服其事務。又薦各府縣知事于募集委員總長。各府縣郡市長于募集委員長。所在募會員者。皆欲速奏其成功也。請四方志士。贊本會微衷。陸續入會投資。幸甚。

明治三十三年一月

神 苑 會

十五日、前總裁故有栖川宮殿下五周年祭遙拜式ヲ三重事務所ニ

舉行ス、三重職員等之ニ參列セリ。

二十五日、三重縣知事荒川義太郎、香川縣ニ轉任シ、小倉信近其後ヲ襲フ、隨ヒテ三重幹事長交迭ス。

三月一日、神宮少宮司桑原芳樹ニ、三重幹事ヲ囑託ス。

二日、總裁宮御邸ニ於テ殿下ノ台臨ヲ仰ギ、會頭列席シテ幹事田中芳男ニ、金杯一個ヲ贈與セララル。蓋シ、明治二十四年一月以降、農業館建築陳列等、十年一日ノ如ク、勵精事ニ從ヒ、以テ今日ノ整頓并ニ盛況ヲ致セルモノ、功勞顯著、今乃々之ヲ表彰セララル、所ナリ。

本會幹事從三位勳二等田中芳男氏ハ、明治二十四年一月以降、本會農業館建築ヲ初トシ、同館陳列事務ヲ擔任シ、能ク整頓ノ功ヲ奏シ、今日ノ盛況ヲ見ル、之レ全ク、氏ガ殆ド十年間一日ノ如ク、此業ニ勵精シタルノ致ス所ニシテ、功勞殊ニ著明ナリトス、仍テ金杯一個ヲ贈リ、其功勞ヲ表彰ス。

明治三十二年三月九日

第七編 成立第三期 明治三十三年

神苑會總裁大勳位 威 仁 親 王
神苑會會頭從三位勳一等男爵 花 房 義 質

九日、田中幹事ノ擔任編纂ニ係ル農業館列品目錄稿ヲ脱シ其製本
ヲ了セシヲ以テ、

天皇陛下 皇后陛下 皇太子殿下 各皇族殿下ニ獻納ス。

右陳列品目錄ハ現在甄別ノ分類農業館二十四類附屬館十六類ニ
就キ、陳列ノ順序ニ從ヒ、每品其名稱、產地、性效、寄贈者等ヲ概説セル
モノニシテ歷々館中ノ列品ヲ知悉スベシ、花房會頭ノ序文、周布副
會頭ノ跋文アリ、又本館設立主旨、建築圖、列品類目等ヲ卷首ニ掲グ、
總品數一萬六百七十餘點ニ互リ、紙數七百八十餘ページノ大冊子
ヲナセリ、其編纂ノ勞亦容易ニ非ルナリ。

一神苑會農業館列品目錄 一冊
右者今般本會ニ於テ出版發行仕候ニ付

陛下へ献上仕度御執奏奉願候 敬具

明治三十三年三月九日

神苑會會頭男爵 花 房 義 質

宮内大臣子爵 田 中 光 顯殿

一神苑會農業館列品目錄 一冊

右者今般本會ニテ出版發行仕候ニ付

皇后陛下へ献上仕度御執奏奉願候 敬具

明治三十三年三月九日

神苑會會頭男爵 花 房 義 質

皇后大夫子爵 香 川 敬 三殿

一神苑會農業館列品目錄 一冊

右者今般本會ニ於テ出版發行仕候ニ付

殿下へ献上仕度御執達奉願候 敬具

明治三十三年三月九日

神苑會會頭男爵 花 房 義 質

東宮大夫侯爵 中 山 孝 磨殿

一神苑會農業館列品目錄 一冊

右者今般本會ニテ出版發行仕候ニ付

殿下へ獻上仕度御執達之程奉願候 敬具

明治三十三年三月九日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

小松宮別當男爵 花房 義 質殿

伏見宮別當男爵 眞木 長 義殿

有栖川宮別當 齋藤桃太郎殿

閑院宮別當男爵 花房 義 質殿

華頂宮家令 萩原 是 知殿 (各通)

山階宮家令 黒岩 直 方殿

北白川宮家令 田中 建三郎殿

久邇宮家令 小藤 孝 行殿

梨本宮家令 日高 秋 父殿

同月、參宮便覽ヲ出版發行ス、其體裁一枚摺折本ニシテ、一面ニハ
兩宮城内ノ殿舍附屬舍及別宮等ヲ概説シテ本會ノ事蹟及規則書

ヲ掲ゲ、一面ニハ神都實測圖ヲ掲ゲ附スルニ二見浦朝熊山ノ地域
ヲ以テス、所謂參宮者ノ便覽ヲ目的トセル者ナリ、其記事ハ三重委
員藤井清司、神都實測圖ハ宇治山田町益正司、各擔任編製シ幹事田
中芳男ノ督理ニ成ル所ナリ、農業館列品目錄ト同ジク非賣品トス。
三十日、三重常務幹事滿岡勇之助、事務協定ノ爲メ三重委員玉井修
眞ヲ隨へ上京ス。

三十一日、神宮司廳ヨリ本會ニ對スル補助金下附指令、并ニ命令條
件ヲ達セララル、蓋シ本會ノ事業着々緒ニ就ケリト雖モ、獨リ徵古館
ノ建築ニ至リテハ、多大ノ資金ヲ要スルガ爲、未ダ實施ノ域ニ達セ
ズ、而シテ各府縣寄附金召集ノ實況ヲ見ルニ、二十七八年戰役ニ次
グニ各地多少ノ天災等ヲ以テシ、爲ニ其進行ヲ頓挫セリ、是乃テ該
館ノ規模ヲ縮少シテ、之ヲ農業館隣接ノ地ニ擬スルニ至リシ所以

ナリト雖モ、若シ其規畫宜シキヲ得ズ、延テ 神宮ノ體面ニ影響スルコトアラシニハ、單ニ本會當初ノ本旨ニ違フノミナラズ、内外國人ニ對シ慚愧ニ堪ヘザルヲ以テ、再ビ倉田山選定ノ議ヲ復セルニ際シ、端ナク明治三十年ノ災變起リ(神宮司廳ノ失火ヨリ)茲ニ神苑擴張ノ急且要ヲ感ズルニ至レリ、其區域ヲ 外宮北御門口(裏參道ノ北端ノ西隣トス、當時 外宮神苑ハ北御門口以東ニ起レルモ、其以西ニ在リテハ依然トシテ民屋櫛比シ、頻年競ウテ大厦ヲ營ミ、殊ニ宇治山田町第一ノ旅館、宇仁館、神風館等、二階或ハ三階ノ構造殆ド 外宮宮域ノ北角ヲ邊圍セリ、若夫レ高樓一朝火ヲ失スルアラシカ、宮域ノ危險言フベカラズ、況ヤ其 御正殿トノ距離甚ダ遠カラザルニ於テチヤ、近ク三十年ノ災變ヲ回憶スレバ頗ル寒心ニ堪ヘザルモノアリ、由來本會創立ノ趣旨ニ鑑ミ、如斯ノ危險一日モ座視傍

觀スベキニアラズ、是ヲ以テ北御門口以西、彼ノ大旅館ヲ主トシ、字參リ道ト稱スル一部ノ民家ヲ撤去シ、其地ヲ買收シテ以テ神苑ノ區域ヲ擴張スベキニ決ス。此舉實ニ官民ノ拍手スル所ナルモ、本會資金ノ現状既ニ前述ノ如ク、今又之ヲ如何トモ爲スベキナシ、遂ニ神宮司廳ニ事情ヲ具シテ補助金下附ヲ悃願シ、幸ニ今日ノ指令ヲ得ルニ至リシモノナリ。

神苑會事業費ノ義ニ付補助願

神苑會事業ニ付テハ、追々經營能ハ在候得共猶御廳ノ御補助ヲ仰ギ、一層速ニ其成績ヲ奏シ度然ルニ神苑ハ一旦落成スルモ、徵古館ハ從來規模ノ宏壯ト費額ノ巨大トヲ要シ候義ニテ、未ダ其着手ニ至ラズ、因テ其規模ヲ縮少シ其費額ヲ低減スレバ、或ハ目的ヲ達シ得ラル、ガ如シト雖モ、
神宮ハ内外人ノ仰グ所ニ候得バ、條約實施、内外ノ交通日ニ倍蕪スルノ今日、其體面ヲ爲サルトキハ太ダ恐入ル次第ニ付、右建築設計ニ最モ用意ノ周到ヲ要スルハ

論ヲ待タズ、神苑ニ於テモ一層擴張ヲ要スベキ個所モ有之候處、右等ノ費用ハ、到底會員ノ募集金ヲ以テ之ニ充ツルモ支辨スルニ足ラズ、徒ニ在苒歲月ヲ移シ候モ、其成功ハ期シ難ク、彼是苦慮仕候間、御應出格ノ御詮議ヲ以テ、御積立ノ内一時金九萬圓又毎年御收入ノ内ヨリ金貳萬圓宛、御補助被下度此段悃願候也

明治三十三年一月二十五日

神苑會頭男爵 花房 義 質

神宮宮司伯爵 冷 泉 爲 紀 殿

神苑會頭男爵 花房 義 質

本年一月二十五日付第一六號其會事業費補助願之件別冊ノ條件ヲ附シ補助金ヲ下附ス

明治三十三年三月三十一日

神宮宮司伯爵 冷 泉 爲 紀 印

補助金下附命令條件

第一條 補助金ハ明治三十二年度ニ於テ參萬圓同三十三年度ニ於テ壹萬圓合計四萬圓及明治三十三年ヨリ明治六十二年迄三十個年間毎年金壹萬五千圓宛下附スルモノトス、當司廳ハ第二條ニ掲グル事業ノ都合ヲ見計ラヒ前項ノ金額數

年分ヲ繰上ゲ下附スルコトアルベシ

神宮社入金ニ著シキ増減ヲ生ズルコトアル時ハ、實地ノ場合ニ應ジ補助金ヲ増減スルコトアルベシ、又第二條ノ事業完成ノ見込確立セザルトキハ全ク補助ヲ廢スルコトアルベシ

第二條 補助金ハ其會ノ目的トスル左記ノ事業ニ要スル費用ニ限り其會ニ於テ之ヲ支出スベシ

- 一 徵古館敷地買入ノ事
- 一 徵古館建設ノ事
- 一 陳列品買入ノ事
- 一 神苑擴張ノ事
- 一 神宮ニ關係アル舊蹟ヲ保存スル事
- 一 前各號ノ事業完成ニ至ル迄ノ間前各號ニ掲グル敷地建物其他ノ物件維持保存ノ事

第三條 補助金ニ依ル事業ノ收支豫算及工事ノ設計ハ豫メ當司廳ノ承認ヲ得ル

コトヲ要ス、其豫算又ハ設計ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第四條 補助金ノ收支ハ當司廳ノ監督ニ屬シ當司廳ハ其會ニ對シ監督上必要ナル方法ヲ行フコトアルベシ

第五條 其會ニ於テ第二條ノ事業ヲ了ラザル間ハ、其會ノ收得セル金品ハ可成該事業ニ充用シ、其收支ハ當司廳ノ請求アルトキハ閱覽ニ供スベシ

第六條 徵古館及其陳列ノ物品ニ付テハ、該事業完成ニ至ラザルモ、神宮皇學館生徒學術研究ニ關シ必要アルトキハ、其會ハ特別ノ便宜ヲ與フベシ

第七條 第二條ノ事業完成後ハ、其事業ニ依ル設備ハ、神宮ニ奉納スベシ
以上

右ニ對スル本會受書左ノ如シ。

受書

今般本會事業費金爲補助別冊通御下附相成拜承仕候、右命令條件無相違確守可致候、依而命令條件別冊寫相添、此段御請仕候也

明治三十三年四月二日

神苑會會頭男爵 花房 義 賢

神宮宮司伯爵 冷 泉 爲 紀殿

各府縣ニ於ケル募集ノ成績ヲ完了セント欲スルハ、本會積年ノ宿望ニシテ、常ニ職員ノ肝膽ヲ碎ク所ナリ、當時内務次宮小松原英太郎、本會ニ同情シ斡旋ノ勞ヲ執ラル、所多シ、一日花房會頭、周布副會頭、小倉委員總長、滿岡幹事等ト内務省官舎ニ會同シ、之ヲ完結スル所以ノ方法ヲ謀ル。乃チ地方長官ノ勸誘督勵ヲ請フニ如カズトシ、四日、八日ノ兩日ニ分チ、地方官會議ノ爲、上京中ノ各地方長官、及内務次官、神社局長等ヲ帝國ホテルニ招待ス。會頭之ニ臨ミ、總裁殿下ノ令旨ヲ傳ヘテ曰ク、速ニ募集ヲ了シ、會務ヲ完成スルニ努力アラントテ望ムト、且告グルニ本會ノ希圖ヲ以テシテ曰ク、本年十月執行アラセラルベキ、内宮臨時遷宮ヲ期シテ、徵古館地鎮祭ヲ舉行セントス、是今ヨリ一層敏活ノ手段ヲ盡シ、管下ヲ誘致シテ

其成額ヲ速ニセラレンコトヲ請フ所以ナリト。各地方長官皆 總裁殿下ノ令旨ヲ奉體シ、茲ニ力ヲ盡サンコトヲ誓ヒ、本會饗スル所ノ晚餐ヲ了シテ退散ス。

此日、不參ノ地方官ニ對シテハ、翌日滿岡三重幹事悉ク其旅宿ヲ訪問シテ、當日ノ狀況ヲ陳述シ、各盡力セラレンコトヲ請ヘリ。

此春、皇太子殿下御成婚ノ典ヲ舉ゲサセ給フ、本會奉祝ノ微意ヲ表セント欲シ、四月三十日東京府ヲ經テ獻品願書ヲ呈出シ五月七日之ヲ聽許セラル、茲ニ於テ宇治山田町畫師磯部百鱗ヲシテ 兩宮神苑内ニ於ル御手植松ノ成木繁茂セル狀ヲ畫カシメ、之ヲ表装シタル畫幅一對ヲ獻納ス。

五月八日、各府縣委員總長、各府縣農會、博物館、物產陳列場等ニ農業館列品目錄、各一部ヲ配送ス。

同月十四日、本會事業費補助トシテ、神宮司廳ヨリ金參萬圓ヲ交付セラル、蓋シ本年三月命令條件第一條中ニ示サレタル明治三十二年度分ナリ。

同月二十四日、花房會頭、周布副會頭、三重事務所ニ至リ農業館等ヲ視察ス。

本年四月、帝國ホテルニ各地方長官ヲ招キ、募集事務ノ督勵ヲ依頼セルモ、尙本會ノ現狀及ビ將來事業發展ヲ企圖スベキノ點等ヲ詳悉センガ爲、本月左ノ主意書ニ書簡ヲ添附シテ發送ス。

時下益々御清穆奉賀候陳バ過般御上京中神苑會ノ義ニ付御依頼申上候通自今御勸誘之場合、御參考トモ可相成候ニ付、別紙主意書并ニ差引表相添呈貴覽候間本會ノ近況御諒察宜蒙御高配度此段御依頼迄早々拜具

明治三十三年五月十四日

神苑會副會頭 周布 公平

神苑會會頭男爵 花房 義賢

各地方長官宛

追テ時宜ニ依リ御管下へ本會職員差出候義モ可有之候間、御合置被下度候也
(當時缺席セル地方長官ニ送リシ文)

時下益御清程奉賀候陳ハ、過般御上京中、神苑會ノ義ニ付、於帝國ホテル御懇話相願
候處、御差支有之遺憾難申盡候、其砌本會職員ヨリ御旅館ニ差出シ御依頼申上候通、
自今御勸誘ノ場合御參考トモ可相成候ニ付、別紙主意書并ニ差引表相添呈貴覽候
間、本會ノ近況御諒察宜蒙御高配度、此段御依頼迄早々拜具

明治三十三年五月十四日

神苑會副會頭 周 布 公 平

神苑會會頭男爵 花 房 義 質

各地方長官宛

追而時宜ニ依リ御管下へ本會職員差出候義モ可有之候間、御合置被下度候也

主意書

明治十九年、神苑會創業以還、地方長官ノ盡力ニ頼リ、地方有志者ノ義損ニ資テ以テ
業務進行シ、今漸ク目的ノ大半ヲ成就スト雖モ、前途重大ノ責任ヲ荷ヒ、自今各地ノ

石募ヲ希望スルノ止ム可カラザルハ、屢之ヲ各地方ニ訴へ、官廳民間ニ於テ皆其耳
底ニ熟シ、更ニ贅言ヲ埃タザルガ如シト雖モ、今回地方長官ノ會議ヲ期シ本會事業
ノ全功ヲ切望スルニ方リ、目下事業ノ現況及募集ノ成績等ヲ報道スベキ必要ヲ感
ゼリ、試ニ之ヲ略陳セン、抑本會ノ目的事業トシテ苑地ノ開設、徵古館并ニ待賓館ノ
建築ヲ最大要務ナリトスルヤ、近年 兩宮宮城ニ密接セル民屋、其他汚穢ヲ蕩滌セ
ンガ爲、當地有志者ノ辛苦經營管ナラズ、人心翕然トシテ私財ヲ抛チ努力ヲ供シ、日
夜斯業ニ奮勵セルヲ以テ、竟ニ 聖聞ニ達シ宮内省ノ御下賜金、宮方ノ御寄附金、其
他神宮司廳補助金、一般人民ノ募集金ヲ得テ、以テ着々事業ヲ施設スルノ至運ニ向
ヒタリ、夫レ斯業ノ遠近ニ聞達スルヤ、固ヨリ一郡一縣ニ止ルモノニ非ズシテ、一般
臣民ノ力ヲ以テ完成スベキ義務アルヲ唱道シ、遍ク寄附ヲ全國ニ仰グニ至レリ、爾
來鞠躬力ヲ盡シ、内外兩苑地ヲ修了シ、徵古館ニ屬スル一部、農業館、待賓館ニ屬スル
一部ノ資日館ヲ竣成セリ、然リ而シテ大要目ノ徵古館ニ在リテハ、構造ノ容易ナラ
ザルト、工費ノ巨額ナルトニ支ヘラレ、未ダ起工ノ緒ニ就ク能ハザルハ、最モ遺憾ト
スル所ニシテ、既ニ寄附完了ノ有志者ニ對シ、赧然愧觀ヲ増シ、常ニ憂念措ク能ハザ

ル所ナリ、是ヲ以テ孜孜トシテ各府縣ノ召募ニ從事シ、速ニ完結ヲ期スルノ至情日ニ逼ル、而シテ支吾數年ヲ涉リ募集ノ進行ヲ視ル能ハザルハ、其間、日清ノ戰役其他各地ニ於テ天災屢々臻リ、召募上意外ノ頓挫ヲ來シ、各府縣中召募ノ成績往々異同ヲ免レズト雖モ、必ズ之ガ均一ヲ後年ニ期セザルヲ得ズ、回顧スレバ明治二十二年熾仁親王殿下ヲ總裁ニ仰ギ奉リ、斯業ノ完成ニ付キ地方長官ヲ召サレ御令旨ヲ賜リ、其後 大宮殿下御隱被遊、威仁親王殿下ヲ總裁ニ仰ギ奉リ、同二十八年ニハ殿下ノ御思食ヲ以テ地方長官ヲ御邸ニ召サレ、大宮殿下ノ御懿旨ヲ奉嗣被遊、親シク御令旨ヲ賜リタルハ、忝ク俱ニ奉體遵守スル所ナリ、其際地方長官ハ募集員額ヲ協定シ、既ニシテ又之ヲ半減セラレ、其後募集標準稍々其貫聯ヲ缺キ、或ハ各地解釋ヲ異ニスルヲ以テ、今回別表ヲ調製シ先年來寄附ノ實蹟ヲ調査シ、將來希望ノ金額ヲ章明ナラシメ、地方長官并ニ地方有志ノ盡力ヲ以テ、速ニ徵古館ノ完成ヲ期シテ 殿下ノ御令旨ニ奉答スルニ汲焉タリ、輒近或ハ本會ノ事業ヲ以テ國民ノ義務トシテ之ヲ國庫ニ請求スルノ說ヲ提記セラル、ヤ、論據固ヨリ條理ノ存スルモノアリト雖モ、斯業既ニ半途ニ及ビ國費多端ノ今日ニ於テハ、可成當初計畫ノ精神ニ

基キ、資金ノ義損ヲ以テ之ガ全功ヲ修メント欲ス、上來陳說スルガ如ク、斯業ノ完成ヲ期センガ爲メ辛酸備サニ嘗メ、不得已之ガ補助ヲ神宮司應ニ懇請シ、司應善ク其赤誠ノ空ス可ラザルヲ察シ、主務省ニ於テモ從來本會ノ美譽ヲ翼贊シ、之ガ成功ヲ地方長官ニ懇懇セラル、固ヨリ一日ニ非ズ、時恰モ司應ニ於テハ國庫ノ支辨増加セシヲ以テ、同司應ヨリ今般年々金壹萬五千圓ヅ、一時金四萬圓ノ補助ヲ許可セラル、ノ幸運ニ際會セリ、如斯ノ時機ヲ得テ、地方長官ノ勸誘、地方有志者ノ奮勵相待テ而シテ希望ノ募集金其實蹟ヲ奏シ、神德ヲ仰敬スルノ意ヲシテ深厚ナラシムルニ至ルベシ、近ロ又敬承スル所ニ由レバ、明治三十年四月二十三日

神廟御災上ノ災ニ罹ラセラレ、本年ハ御遷宮ノ盛典御舉行アルベシト、斯ノ時ニ方リ必ズ徵古館地鎮祭ノ執行ヲ豫期スルヲ以テ、遍ク會員ノ諸氏及ビ應募者ヲシテ其主旨ヲ知得セシメラレ、一層本會ノ事業ヲシテ敏活ナラシムルハ、實ニ一舉兩得ノ好機ナルヲ信ゼリ、茲ニ地方長官ノ來會ニ當リ 總裁殿下ニモ御台臨ヲ仰ギ奉リタルモ、當春以來常ニ 東宮殿下ニ御附被遊、此節ハ御慶事前御都合難被遊、就テハ精々斯業ニ勉勵シ速ニ完成スベキノ御令旨ヲ賜リ、本會會頭義質忝ク之ヲ遊奉

シ、普ク地方長官ニ宣傳スルノ光榮ヲ得タリ、希クハ區々ノ衷ヲ諒セラレ、本會ノ希望ヲ全ウセラレンコト切望ノ至リニ堪ヘザルナリ

明治三十三年四月

神 苑 會

(添附各府縣負擔差引表略ス)

皇太子殿下、同妃殿下ニハ、有栖川宮、同妃兩殿下御同列、御慶事御報告ノ爲行、啓仰出サレ、五月二十四日午後六時十五分ヲ以テ山田驛ニ着御アラセラル、本會會頭、副會頭、幹事、委員、書記、宇治山田町在住會員等、同驛ニ奉迎ス。

翌二十五日 皇太子殿下、同妃殿下

神宮ニ御親告アラセラル、本會役員及政字章會員等、苑内御手植松附近ニ整列シテ奉迎ス、此日

皇太子妃殿下、有栖川宮妃殿下ニハ、二見浦ニ成ラセラレ、賓日館

ニ御休憩アラセ給フ。周布副會頭、宇仁田幹事、玉井委員、吉川書記等賓日館ニ出仕ス。

有栖川宮殿下ニハ、午後五時農業館ニ台臨アラセラル、花房會頭及田中幹事、御先導館内御一覽ノ後、三重事務所ニ於テ、職員及政字章會員ニ拜謁ヲ許サレ、令詞ヲ賜ヘリ。

皇太子、同妃兩殿下、及 有栖川宮、同妃兩殿下ニ献上ノ爲、正副會頭、田中幹事等左ノ物品ヲ携帶シ、御泊所ニ參候ス。

獻上品

一菓子 (本會賓日館ニ於テ供資用ノモノ)

一農業館列品目錄 (本會出版非賣品)

一參宮便覽 (本會出版非賣品)

皇太子、同妃兩殿下ニハ、有栖川宮、同妃殿下ト共ニ、翌二十六日午前九時山田驛御發、京都ニ向ハセラル、本會諸員奉送ノコト、奉

迎ノ時ニ同シ。

(右御參向中、總裁宮殿下ヨリ、在三重職員ニ對シ、酒饌料金百圓ヲ賜ヒタルヲ以テ、職員并ニ創業當時ノ功勞者五十二名ヲ與可樓ニ招キ、會頭、副會頭列席シ、殿下并ニ本會ノ萬歲ヲ唱ヘテ乾杯ス) 八月十日、農業館門前、農產品賣捌所ヲ借用セル、東京神農園主稻波淳太郎ノ要請ニヨリ、該建物一棟ヲ同人ニ讓渡シ、併セテ條件ヲ定メテ其近接ノ地凡五十坪ヲ無代使用スルユトヲ承認ス、蓋農產品苗場ヲ設ケテ實驗參考ニ資セントスルモノナリ。

六月以來、募集事務ニ關シテ、山口、福岡、佐賀、熊本、長崎ノ各縣下ニ出張セシ滿岡幹事、八月ニ至リ歸所ス。

神宮司廳補助金下附命令條件第二條第四項ニ依リ、本年八月ヲ以テ、外宮神苑擴張地、即チ北御門口以西ニ於ル神風館、宇仁館等ノ

地所買收、家屋撤去ノ實施ニ着手ス。

當時、三重縣知事、小倉信近、五二會館ニ本會幹事ノ會同ヲ促ガス、桑原、滿岡、宇仁田ノ三幹事之ニ會セリ、度會郡長岡耕三郎亦列席シ、相共ニ其方針ヲ協議ス、滿岡幹事意見ヲ陳テ曰ク、此買收ノ事、一ニ行政上ノ斡旋ニ由ルヲ要ス、故ニ本會ハ當局者ニ對シテ交渉ヲ開キ、又當局者ハ各所有主ニ對シテ示命セラレ、ノ順序ニ依ラレンコトヲ請フト、知事郡長之ヲ承允ス。茲ニ於テ價格ノ協定、契約書ノ交換等、都テ岡耕三郎ニ於テ郡長ノ資格ヲ以テ、持主ト交渉スルユト數次、宇仁館ハ九月十日、神風館ハ十一月二日ヲ以テ契約ヲ終了ス、右兩家ニ係ル契約金額實ニ四萬五千圓、今左ニ宇仁館即チ西田周吉ノ受書ヲ掲載ス。

受書

度會郡宇治山田町大字一志久保町字上館三十三番ノ第一

一宅地十一坪八合五勺

持主 西田 周吉

同 三十四番

一宅地四十五坪九勺

同 同 人

同 三十七番

一宅地六百十三坪三合三勺

同 同 人

合計 六百七十坪二合七勺

此御買上代金六千參拾參圓四拾錢八厘

一總建家坪一千二十五坪一合五勺

內 譯

三階建西洋館 六十八坪

此移轉料金貳千拾七圓七拾九錢貳厘

三階建 二百六十二坪五合

此移轉料金四千七百貳拾五圓

二階建 五百二十八坪一合

此移轉料金八千九百七拾七圓七拾錢

上平家建 百三坪一合

此移轉料金千六百四拾九圓六拾錢

中平家建 二十六坪四合五勺

此移轉料金貳百六拾四圓五拾錢

土藏 三十七坪

此移轉料金壹千參百參拾貳圓

移轉料合計金壹萬八千九百六拾六圓五拾九錢貳厘

但庭園樹木景石等一切之移轉料ハ此内ニ合蓄ス

一發電所 電氣器械汽罐汽機 一式 持主 西田 周吉

此移轉料金參百圓

總計金貳萬五千參百圓

地所買上代建物移轉料其他總額

內金參百圓ハ神社會へ寄附可仕候

右ハ今般神苑地御擴張ニ付私所有之地所并ニ家屋等移轉之義前記之通り價格并ニ移轉料ヲ申受ル事ト相定メ神苑會ト契納取結ビ之義承諾仕候此段御請仕候也

宇治山田町大字一志久保町三番屋敷

明治三十三年八月

同 上 西 田 周 吉

西 田 貞 助

三重縣度會郡長 岡 耕三郎殿

印紙 契約書

東京府東京市京橋區築地三丁目四番地男爵花房義質ト三重縣度會郡宇治山田町大字一志久保町三番屋敷西田周吉同貞助トノ間ニ建物并ニ有體動產移轉之契約ヲ締結シ西田周吉同貞助ハ移轉之義務ヲ負ヒ男爵花房義質ハ移轉料仕拂ノ義務ヲ負ヒ左ノ條項ヲ取定ム

第一條 移轉スベキ建物左ノ如シ

三重縣度會郡宇治山田町大字一志久保町字館宅地三十三番ノ第一同三十四番

同三十七番建物

- (1) 三階建西洋館六十八坪
- (2) 三階建二百六十二坪五合
- (3) 二階建五百二十八坪一合
- (4) 上ノ部平家建百三坪一合
- (5) 中ノ部平家建二十六坪四合五勺
- (6) 土藏 三十七坪

合建物坪數一千二十五坪一合五勺

但二階坪三階坪共

第二條 移轉スベキ有體動產左ノ如シ

- (1) 三重縣度會郡宇治山田町大字八日市場町三百四十三番地ニ存在スル發電所備付ノ電氣器械并ニ汽罐汽機一式
- (2) 庭園ノ樹木景石井戸側其他一切

第三條 移轉料總額ハ金壹萬九千貳百六拾六圓五拾九錢貳厘

- (1) 第一條第一項金貳千拾七圓七拾九錢貳厘
- (2) 第一條第二項金四千七百貳拾五圓
- (3) 第一條第三項金八千九百七拾七圓七拾錢
- (4) 第一條第四項金壹千六百四拾九圓六拾錢
- (5) 第一條第五項金貳百六拾四圓五拾錢
- (6) 第一條第六項金壹千參百參拾貳圓
- (7) 第二條第一項金參百圓

但第二條第二項ノ移轉料ハ本條ノ一項乃至六項ノ内ニ含蓄ス

第四條 移轉ノ時期ハ明治三十三年十月十五日ヨリ同三十四年六月三十日マデ

ニ建物其他悉皆ノ移轉ヲナス事

第五條 移轉料受渡ノ期日及ビ方法ハ左ノ如シ

- (1) 金五千圓ハ此契約書取替スベキ當時ニ於テ授受スル事
- (2) 金四千圓ハ建物取退ケ着手ノ際一週間以内ニ授受スル事

(3) 金四千圓ハ第一條第二項第三項ノ建物ヲ取拂ヒタル時ニ於テ一週間以内ニ授受スル事

(4) 金六千貳百六拾六圓五拾九錢貳厘ハ一切ノ移轉ヲ終了シタル時ニ於テ一週間以内ニ授受スル事

右金員ハ其都度三重縣度會郡役所ニ於テ授受スル事

第六條 此契約ニ違反シタル時ハ男爵花房義質ハ契約ノ當時交付シタル金五千圓ノ返還ヲ求ムル事ヲ得ズ又西田兩人ヨリ違反シタル時ハ金五千圓ヲ加倍シテ連帶賠償スル事

但一部ノ違反モ之ト同一タル事

第七條 此契約締結ノ後建家其他ノ物品ガ天災若クハ火災ノ爲メニ消滅シタル時ハ西田兩人ハ移轉料ノ請求ヲナスヲ得ズ

但一部ノ消滅ハ前記移轉料ノ割合ニ應ジ相當ノ移轉料ヲ授受スル事

第八條 此契約ハ神苑會ト西田周吉外一人ト締結スベキモノナリト雖モ同會ハ未ダ法律上法人ノ資格ヲ有セザルニヨリ男爵花房義質個人ノ資格ヲ以テ契約

スルモノニ付、双方トモ、神苑會トノ關係ハ異議ナキ事

第九條 發電所備付ノ電氣器械、汽罐、汽機、移轉ノ上ハ、西田兩人ハ該地所又ハ、建家

ニ於テ、火防上危險又ハ不潔ノ事業ハ一切ナサル事

第十條 西田周吉外一人ハ移轉料ノ内ヨリ金參百圓ヲ神苑會事業資トシテ同會

ヘ寄附スルニ付、最終授受金ノ内ヨリ控除スル事

第十一條 此契約書ハ二通ヲ作り、雙方各一通ヅ、所持保管スル事

但シ寫一通ヲ度會郡役所ヘ差出シ置ク事

右契約如件

明治三十三年九月

右約定人	男爵	花房	義質
同		西田	周吉
同		西田	貞助

右行政上ノ幹旋ヲ以テ、旅館兩家ノ締約ヲ了シ次デ自餘數名ノ締約ヲ了ス、其買收地合計千八百一坪、撤去スベキ人家十四戸、建坪千八百四十一坪之ガ移轉期ヲ限定シテ三十四年三月乃至九月トス。

九月十八日、本會管財員飯田巽、三重事務所ニ出張シ、財團法人出願方ニ關シテ三重幹事ト協議ス。

十月六日、各府縣ノ委員總長ニ對シテ左ノ通牒ヲ發ス、嚮キニ本年四月、地方長官ヲ帝國ホテルニ招致シ、會員募集ノ督勵ヲ圖ルニ當リ、本年十月、内宮臨時遷宮ヲ期シテ、徵古館地鎮祭執行ノ豫定ヲ告ゲタリト雖モ、其後募集ノ績未ダ舉ラザルニ今茲ニ十月ヲ迎フ、到底豫定ノ實行ヲ能クスベカラズ、即チ延期ヲ報ズルノ已ムベカラザル所以ナリ。

神苑會創立以來、資金募集ノ義ニ付テハ、屢御配慮ヲ請ヒ、本年四月東京御會同ノ際ハ、總裁宮殿下ノ御令詞ヲ賜リ、尙親シク御協議致候ニ付テハ、爾來專ラ御盡力被下候事ト相考候處、目下如何之狀況ニ可有之哉、近況御報知相願度、且今回、皇太神宮臨時御遷宮ノ盛典御舉行ニ際シ、徵古館地鎮祭ノ執行ヲ豫期セシヲ以テ、一層本會ノ事業ヲシテ敏活ナラシムル様、御盡力ノ程御依頼仕候通ニ候處、御配慮

ニ依リ追々會員モ増加シ、稍盛況ヲ顯シ候ヘドモ、應募者ノ數モ未ダ豫定ノ如クナ
ラズ、隨テ地鎮祭執行ノ義モ今始ク相見合セ候次第ニ有之候、就テハ此上一層ノ御
配慮ヲ以テ速ニ相纏リ候様御盡力被下度希望之至リニ御座候、先ハ近況御報知煩
シ度、旁此段得貴意度候 敬具

明治三十三年十月六日

神苑會會頭 男爵 花房 義 質

各府縣委員總長宛

十月二日、爰ニ 皇太子殿下御慶事奉祝ノ爲、獻納セシ所ノ御手植
松ノ畫幅ヲ撮影シ、額面用トシテ複寫シ印刷ニ附セルモノ、頃日調
製ヲ告ゲ、職員及創立功勞者等ニ各一葉ヲ頒ツ、蓋紀念ニ資センガ
爲メナリ。此日

皇太神宮臨時遷宮式ヲ執行セラル、三十年御炎上ノ爲、新タニ造替
ヲ竣ヘサセ給フ所ナリ、其儀式都テ式年ノ例ニ異ナルユトナシ、本
會會員等(證牌佩用者)域内特定ノ地ニ參入スルユトナ許可セラレ、

盛儀ヲ拜セシモノ勝テ算フベカラズ。

二十五日、願ニ依リ三重委員賓日館常務員勝田義禎ノ職ヲ解シ、

十一月十日、小倉信近三重縣知事ヲ罷メ、古莊嘉門其後ヲ襲ヘルヲ
以テ三重幹事長交迭ス。

神宮司廳補助金ニ係ル命令條件第二條第一項ノ事項即チ徵古館
敷地ニ關シ、之ガ買收方法ヲ講ズルニ、其目的地タル倉田山ハ、大西
菊松外數十名ノ所有ニ屬シ、速カニ完結スベカラザルヲ察知ス、是
ニ於テ一面ニハ度會郡役所并ニ關係町村役場ノ斡旋ヲ勞シ、一面
ニハ三重事務所職員并ニ事務員ヲシテ交渉ノ局ニ當ラシメ、遂ニ
五千六百六拾五圓餘ヲ以テ、山地六町七反餘ヲ買收スルユトヲ得
タリ。是ヨリ花房會頭出張シテ、其實地ヲ踏査シ、大體ノ規畫ヲ定メ、
次デ周布副會頭モ亦屢出張シテ、建築ノ方法、路線ノ設計等、緊急ノ

要件ヲ指示セリ、爲ニ事務員ヲシテ大ニ意氣ヲ振作セシム。
嘗テ購入セシ豊川町(農業館建設ノ區)ハ面積一町三反五畝歩餘ニ
シテ、徵古館、農業館并ニ三重事務所ヲ容ル、ノ餘地ナク、而モ徵、農
二館、各其地ヲ異ニスルハ、頗ル經濟上、統一上ニ便ナラザルヲ以テ
倉田山買收完了ノ後、二館ヲ同地ニ置クモノトシ、地域ヲ倉田山ニ
相シテ設計ヲ畫ス。

三十四年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ行ヒ、内宮ニ神樂ヲ奉
奏シ、翌二日之ヲ 外宮ニ奉奏ス。

四日、古莊幹事長來リテ、太田、宇仁田、滿岡三幹事ト本會事業ニ關ス
ル件ヲ協議シ、倉田山ニ於ル、徵古館建築地ヲ實檢ス。

十六日、周布副會頭來ル、翌十七日 兩宮參拜ヲ遂ゲ三重事務所ニ
滿岡、宇仁田、太田ノ三幹事ト會務ヲ協議シ、即日歸路ニ就ケリ。

二月五日、三重委員渡邊憲一、病ヲ以テ辭職ヲ請ヒ此日解囑セラレ、
曩ニ明治二十四年就職以降内ハ常務ニ從事シ、外ハ會員募集ニ盡
力シ、其功勞尠カラザルガ爲、特ニ慰勞金五拾圓ヲ贈與ス。

五月二日、會務協議ノ爲、滿岡三重幹事ハ三重事務所書記箕曲茂七
ヲ隨ヘ上京、同十三日歸任ス。

本月中旬、三重縣津市ニ於テ全國市長會合ノ舉アリ、期ニ迨ビ各市
長、助役、參事會員等相會同ス、本會此好機ヲ利シテ事業ノ現況ヲ示
シ、將來ノ發展ヲ諮ルノ得策ナルヲ察知シ、十八日請ウテ神都ニ招
キ賓日館及五二會館ヲ宿舍ニ充テ、事務員ヲシテ歡迎セシム、滿岡
幹事、玉井委員等、募集事務ニ關シテ向後ノ誘導ヲ懇頼シ、其會ヲ本
會ノ爲ニ盡力セルモノニ對シテハ、特ニ夜會ヲ開キ之ヲ款待ス。

本會評議員、正三位勳一等渡邊洪基ノ訃ニ接シ、左ノ弔詞ヲ贈呈シ、

添ルニ香花料(金拾圓)ヲ以テス、回顧スレバ本會成立ノ際、副會頭トシテ大ニ畫策スル所アリ、後又評議員トシテ機務ニ參與シ、力ヲ本會ニ盡サル、コト十餘年、今溘焉トシテ逝ク、悲哉矣。

本會評議員正三位勳一等渡邊洪基君ハ本會創始ノ際ニ方リ副會頭トシテ大ニ畫策スル所アリ爾來十有餘年常ニ本會ノ爲メ盡力セラル、事鮮少ナラズ今ヤ俄然其訃音ニ接シ會員等哀悼ノ至ニ堪ヘズ謹デ茲ニ弔詞ヲ呈ス

明治三十四年五月二十五日

神苑會會頭正三位勳一等男爵

花房 義質

六月一日、古莊幹事長宇治山田町ニ至リ、倉田山ニ於ル徵古館敷地、及其道路敷ヲ實視シ、滿岡幹事ト協議ス。

九日、男爵九鬼隆一、宇治山田町ニ太田幹事ヲ訪フ、同男爵ノ意ヲ國寶保存ニ注ギ、且古器美術ノ鑑識ニ精シキハ、嘗テ時人ノ知ル所ナリ、此夕、滿岡、太田、宇仁田ノ三幹事、藤井委員、吉川書記等、晚餐ヲ五二會館ニ共ニシ、徵古館建設及ビ設備上ニ關スル意見ヲ問ヒ、翌十日

本會既設事業ノ實見ヲ請フ、其農業館觀覽ニ當リ、田中幹事特ニ之ヲ導キ辯明ノ勞ヲ執ルヤ、頗ル列品ノ整頓ヲ稱揚セリ。

七月四日、總裁殿下ニハ地方官會議ノ爲、上京中ノ各府縣知事ヲ御邸内ニ召サセラル、召ニ應ズルコトヲ得ザル者二三名、餘ハ悉ク參邸ス、午後六時謁ヲ賜ヒ、親シク令詞ヲ下シ給フ。

神苑會會員募集ニ付テハ、從來容易ナラザル配慮ヲ煩シタリ、尙今後モ引繼キ配慮ヲ以テ、速ニ本會ノ目的ヲ達センコトヲ望ム

(御口演)

令詞訖ルヲ待テ、會頭花房義質、先ヅ 殿下ニ具奏シ奉ルニ本會現況ノ大略ヲ以テシ、次デ參會者ニ報告スルニ、現下ニ處スル本會ノ希望方針ヲ以テシ、併テ今後ノ盡力ニ待ツ所アルヲ述ブ、右終リテ立食ヲ諸員ニ賜フ、酒盃ノ間、殿下親シク御下問ノ點アリ、會頭乃

ナ諸員ト詢リ、相共ニ令旨ヲ奉戴シ、勸奨督勵以テ事ニ會務ニ從フベキヲ奉答ス、殿下大ニ嘉納アラセラル、宴罷ミ、午後七時皆退散ス。翌五日會頭ハ吉田書記ヲシテ、各地方長官ノ旅館ヲ訪問シ、前日參集ノ勞ヲ謝セシム。

同月二十五日、花房會頭ハ官内省技監片山東熊及委員安江孝ヲ伴ヒ、徵古館建設地及道路敷等實視ノ爲、宇治山田町ニ至リ、翌二十六日 神宮參拜ヲ了シ、三重事務所ニ臨メリ、片山技師ハ書記一名ヲ伴ヒテ倉田山ニ徵古館敷地并ニ道路敷地ヲ實檢ス。二十九日會頭ハ神宮司應員ノ參加ヲ請ヒ、相共ニ 外宮神苑擴張地ヲ檢分シ、越テ三十日、歸京ノ途ニ就ク、其滞在中片山技監實檢上ノ考案ニ基キ、徵古館敷地并ニ其道路敷ニ係ル會頭及三重幹事等ノ意見決定ス。九月十四日、本會幹事從四位鹿島則文、及三重委員小川宗一死亡ス、

鹿島則文ハ本會創始ノ當時、神宮宮司ノ官ニ在リテ發起人ト共ニ力ヲ本會ノ創立ニ致シ、後推サレテ假會頭ノ職ニ就キ、直接間接ニ本會事業ニ規畫スル所多シ、小川宗一ハ創立功勞者ナリ、并ニ没スベカラザルノ績アルヲ以テ、鹿島幹事ニ對シテハ左ノ弔詞ニ玉串料金參圓ヲ添へ、小川委員ニ對シテハ玉串料金貳圓ヲ贈ル。

本會前幹事從四位鹿島則文君ハ、本會創始ノ際ニ方リ假會頭トシテ大ニ企畫スル所アリ、後新ニ會頭ヲ置クヤ君ハ實ニ擇バレテ幹事トナリ、爾來十有餘年常ニ本會ノ爲盡力セラル、コト鮮少ナラズ、今ヤ卒然其訃音ニ接シ、會員等哀悼ノ至リニ堪ヘズ、謹デ茲ニ弔詞ヲ呈ス

明治三十四年十月十五日 神苑會頭正三位勳一等男 花房 義 質

北御門口以西、苑地擴張ノ區域ニ於ル民家、九月ヲ以テ悉ク移轉ヲ了セリ、是ヨリ造苑ノ土工ニ着手ス。

十月五日、寄附金募集ノ用件ニ關シ、幹事滿岡勇之助、委員玉井修眞

ノ二名、静岡、岐阜ノ二縣ニ出張シ同十三日歸任ス。

二十九日、本會幹事國重正文ノ訃ニ接シ、左ノ弔詞ヲ贈リ、玉串料金貳圓ヲ添フ。

本會幹事國重正文君ノ凶訃ニ接シ、哀悼ニ堪ヘズ依テ茲ニ弔詞ヲ呈ス

明治三十四年十月二十九日 神苑會會頭正三位勳一等男爵 花房 義質
國重 篤介殿

來ル十一月九日、全國私設鐵道會社懇親會ヲ奈良市ニ開催セントス、參宮鐵道會社長片岡直濫ヨリ特ニ通牒ヲ受クル所アリ、乃チ此機ヲ以テ未定部分ノ募集ヲ促サント欲シ、奈良鐵道會社長ニ對シテ左ノ依頼書ヲ發ス。

拜啓秋冷之候、益御清適奉賀候陳者唐突ノ義ニ候へ共去ル三十二年五月二十五日、伊勢山田ニ於テ各鐵道會社御懇親會御開催ノ砌、周布副會頭出頭、神苑會事業費ニ對シ、親シク御面語ヲ遂ゲ、御賛成ヲ得候分ハ別紙ノ通ニ有之候處、其後御寄附金額

ニ關シ、尙御協定相途可申之處、彼此取紛レ途ニ今日ト相成候、借本會事業モ追々進行致シ、造苑ハ勿論、農業館、賓日館ハ既ニ完成候得共、其大主要タル徵古館設立ニ至リテハ、工費ノ巨額ヲ要シ、隨テ其資金之取纏モ、日一日ニ急迫ヲ告候場合ト相成候、然ルニ來十一月九日、錦地ニ於テ御懇話會御開催可相成ニ付、前年御協賛之厚意ニ基キ、此際金額等ノ御協定ヲ得テ、徵古館設立之時機ニ相達シ度、貴社ハ今回御會主ノ事ニテ、萬般御繁忙ハ重々拜察候得共、何卒右御披露被成下、夫々相纏リ候機、特ニ御幹旋被下度、切望ニ不堪候、右御依頼旁得貴意度、草々 敬具

明治三十四年十一月一日 神苑會會頭男爵 花房 義質
奈良鐵道會社長 今村 勤 三殿

追伸尙、今回新ニ御參列之方々ニ對シテモ、同様宜敷御協商ヲ煩シ度、是亦御依頼申上候也

十一月六日、寄附金募集ノ用件ヲ以テ、滿岡幹事、玉井委員再ビ静岡縣ニ出張シ、八日歸任ス。

此年、徵古館建設位置ニ關シ、會員村井恒藏外十名ヨリ左ノ建議書

ヲ提出セリ、右建議者ハ各宇治山田町ニ名聲アリ本會創立功勞者タルヲ以テ、其言フ所該町地理ノ實況ニ照シ、將來ノ發展ヲ考ヘ、深ク本會ノ爲ニ意ヲ注グル點、大ニ見ルベキ者アリ、然レドモ本會既ニ客年ノ評議ニ依リテ倉田山ニ決定シ、爾來敷地ノ買收ヲ了シ、着々設計ヲ進メ、準備整頓、今ニ於テ詮議變更スベキニ非ル也。

徴古館位置ニ關スル建議

徴古館建設ハ本會最終ノ一大事業也、其劈頭第一ノ重要問題ヲ位置ノ選定トス、曩ニ本會ノ創始ニ際スルヤ、企圖絶大乃チ相スルニ倉田山ヲ以テス、而モ是レ當時ノ聲言ニ過ギザル也、近年農業館接續地ヲ擴張セラレ踏査已ニ了ル、用地一タビ茲ニ決セシモノ、如シ、爾來在實蹟未ダ舉ラズ、選定ノ區得テ知ル可ラザルノ觀アリ、仄ニ聞ク輓近財務大ニ振ヒ、將ニ工事ヲ倉田山ニ起サレントスト、生等深ク機運ノ順熟ヲ喜ビ轉々閣下并ニ當局諸賢ノ盡瘁ニ謝スルヤ切ナリ、唯謂ラク位置ヲ倉田山ニ相セラル、者果シテ是レ選定宜シキヲ得タリヤ否ヤ、生等大ニ疑訝ノ點ナキ

能ハザルナリ、願フニ生等謝劣素ヨリ樞務ニ容喙スベキノ分ニアラザルヲ知ル、然リト雖モ事體重要、得喪之ニ繫ルアルニ至テハ、區々ノ衷情默セント欲シテ而シテ能ハズ、敢テ鄙見ヲ披瀝シテ閣下ノ明裁ヲ請フ所アラントス、然々地理ヲ按ズルニ、兩宮ノ中間、丘陵ニ據リテ市街ヲ構成スルノ區、之ヲ古市町ト稱ス、其丘脈西南スルモノハ宮本村ニ互リ、東北スルモノハ四鄉村及濱鄉村ニ至ル、所謂倉田山ハ東北部ノ丘陵ニ屬セリ、其高燥朗曠眺望ニ富ムノ勝ハ固ヨリ適當ノ資ヲ稱スベシト雖モ之ガ通路ハ單ニ古市町ニ往還スルノ一方面アルノミ、故ニ現時ノ國道ニ聯絡セントセバ、其交點ヲ古市町ニ起シ、以テ目的地タル倉田山ニ達スルノ道路延長凡八九町ヲ新設セザルベカラズ、而シテ此連接ヲ完全ナラシメントセバ、古市町ニ於ル人家若干ヲ撤去スベキノ必要ヲ認ム、又更ニ方面ヲ別途ニ覓メン乎、岩淵町東端里道ヲ起點トシテ、以東田圃ヲ通過シ、以テ目的地山麓ニ達スル一條ノ新路延長凡十二三町ヲ開設セザルベカラズ、此道或ハ平坦ヲ制スルヲ得ン、然レドモ山麓ノ局所到底坂路ヲ免レザルハ勿論其通行ヤ純ハラ徴古館ノ目的ニ止マリ、資リテ以テ參宮道路ニ利用シ得ベキノ非ル也、蓋道路ノ用ハ坦且捷ヲ尙ブニ在リ、若シ能ク地勢

ヲ觀察シテ捷路ヲ 兩宮ノ間ニ修メントセバ、則宜ク南部ノ平面ヲ開通スベシ、何
 ゴ故ラニ北部ノ迂ヲ取ルヲ要センヤ、南部修道ノ利ハ夙ニ土人ノ唱說スル所、而シ
 テ經費給セズ今猶決行ノ機運ニ會セズト雖モ、現時ノ國道其狹隘迂曲ニ加フルニ
 坂路危險ノ狀ヲ以テスルノ一大關點ハ、公衆既ニ之ヲ鳴ラシ、地方官廳亦之ヲ認メ
 テ遂ニ新道設計ヲ起スニ至リシ所以、宜シク早晚施設ノ舉アルヲ期スベシ、今ヤ此
 問題ニ顧慮スルコトナク、館ヲ北部ニ置クニ至リテハ、其通路連絡ニ巨費ヲ投ズル
 ノ損アリテ、而カモ天下ノ公衆此ニ接應スルノ迂ヲ取ザルヤ明ケシ、是管ニ經濟其
 宜シキヲ失スルノミナラズ、苦心經營ノ效果ヲ舉テ空シク寂寥ノ域ニ委シ去ル者
 ト謂フベシ、若シ本會財政ノ現狀ヲシテ、綿々餘裕アラシムルヲ得バ、規模ヲ擴大シ
 廣域ヲ適用スル固トニ可ナリ、然レドモ創業經營ノ難ハ具サニ既往十餘年間ノ經
 歴ニ驗了スル所、生等乃チ前例ニ鑑ミテ以テ壯圖ノ唱ヘ易ク、事蹟ノ必シ難キヲ知
 ル、若カズ適應ノ計圖ヲ修メンニハ、方針此ニ出レバ、倉田山ノ撰實ニ過大ノ感ナキ
 能ハザル也

惟ルニ徵古館ノ設置ハ、神都ノ大觀ヲ永遠ニ貽ス所、其形勝ヲ具シ火災ヲ遠ルノ點
 ニ於テ、位置ヲ丘陵ニ取ルハ甚ダ可ナリ、是レ之ヲ北部ニ探ネテ既ニ倉田山ヲ相ル
 所以ナリト雖モ、未ダ會テ南部ニ於ル適當ノ區ニ着目セラレザルモノ、如シ所謂
 南部ハ 外宮以東、宮本村北端、山野ニ屬スルノ區是也、但俗稱シテ宮崎ト云フ、西ヲ
 限ルニ 外宮ノ山林ヲ以テシ、南面宮本村ノ山脈ニ對シ、北方平野ヲ隔テ、岡本町
 ノ人家ヲ望ミ、東南彌八束山、瀧浪山等ノ丘陵起伏點綴ス、平野ハ則チ水田萬頃、湖流
 之ニ横ハル、勢田川ノ源是ナリ、形勝ノ美、眺矚ノ豐、敢テ倉田山ニ輸セズ、古人嘗テ此
 區ノ一隅ヲ相シテ書庫學寮ヲ建設シ號シテ宮崎文庫ト曰フ、名聲藉甚舊址今ニ存
 セリ、外宮神苑ノ東端ヨリ南折數歩ニ在リ、慶安年間出口延佳等同志七十餘名ト
 書庫ヲ此區ニ創建ス、事 寂聞ニ遠シテ陸彼ノ特典ニ浴シ、幕府モ亦采地二十石ヲ
 賜ヒ維持ノ資ニ充ツ、蓋シ近古ノ一美蹟ナリ、嗚呼、此勝槩古人既ニ之ヲ二百年前ニ
 相ス、獨リ本會創始ニ際シテ倉田山ヲ主唱セシ所以ノ者ハ之ヲ要スルニ 倭姫命
 ノ神威銅碑ヲ以テ目的事業ノ最ニ置キ、隱ガ岡ノ口碑ニ緣由シテ蹟ヲ此區ニ傳ヘ
 ント欲セシガ爲ノミ、當時ノ計圖既ニ止ンス、而モ依然トシテ尙倉田山ノ說アル者
 ハ、至竟先入主トナルノ類ニアラズヤ、今ヤ地勢ヲ審案シテ彼此ヲ較量スルニ本館

適當ノ城途ニ宮崎方面ニ若カザルヲ覺ユ、試ニ得失ヲ指摘セシ乎、彼ハ則チ廣漠ニ失シ、通路ニ僻ス、此ハ則チ然ラズ、廣狹度ニ中リ往還導キ易シ、宮林ヲ負ヒ神田ヲ控ヘ、平野ヲ連ネ遠山ヲ遠ラシ、徑ヲ隔テ、以テ文庫ノ舊址ヲ訪フベク、踵ヲ轉ジテ直チニ農業館ヲ指願スベシ、此ノ如キハ形勝彼ニ優ルノ視易キモノナリ、其通行ノ難易ニ至テハ、彼此ノ懸絶固ヨリ論ナシ、運搬陳列ノ便之ニ伴ヒ、維持保管ノ便モ亦之ニ伴フ、館ノ盛運此ニ與カラズンバアラザル也、彼ノ區未ダ施工ニ至ラズ一旦買收ノ地、或ハ賣却シ或ハ保存スベシ、其處分一ニ財政計畫ノ適スル所ニ任センノミ、何ゾ必シモ拘束セラル、ヲ要セン、茲ニ宮崎方面ノ概圖ヲ添附シテ、彼此選擇ノ參考ニ供フ、冀クハ精査熟察セラレンコトヲ、生等筆ヲ擱スルニ臨ミ、尙聊カ鄙見ヲ吐白セントス、他ナシ、農業館接續地ノ用途是ナリ、此地參宮往來ノ要衝ニ當リ、頗ル衆目ヲ惹クニ足ル、乃チ其一部ヲトシテ待客館ヲ茲ニ建設シ、他ノ一部ヲトシテ徵古館附屬參考館ヲ茲ニ建設セララル、ヲ得バ、配置甚ダ適シ、計圖始メテ完キヲ奏セン、其施設順序ニ至テハ、他日應ニ披陳スル所アルベシ

右謹テ鄙見ヲ陳具ス、敢テ尊嚴ヲ冒シ、恐懼ニ堪ヘズ、冀クハ愚衷ヲ諒セラレンコト

ヲ誠惶頓首

明治三十四年十月 日

三重縣度會郡宇治山田町

神苑會員

- 村 井 恆 藏
- 西川 武 右衛門
- 藤 井 清 司
- 奥 山 中 書
- 竹 内 善 壽
- 藤村 六郎 左衛門
- 村 田 德 三
- 吉 川 清 三 郎
- 山 本 伊 兵 衛
- 島 田 長 兵 衛

神苑會頭男爵 花 房 義 質 殿

三十五年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ舉グ、内宮ニ大々神樂ヲ奉奏シ、翌日又之ヲ 外宮ニ奉奏ス。
十七日、會員募集用件ヲ負ヒ、滿岡幹事ハ書記一名ヲ隨ヘ、滋賀縣蒲生郡ニ出張シ、十九日歸任ス。

同月十八日、寄附金成績表ハ單ニ事務上ニ必要ナルノミナラズ、各府縣委員部ニ於テモ必需ノ参考書タルヲ以テ、之ガ調製既ニ數回ニ及ベルモ、其記載方精密明瞭ヲ缺クトキハ、其效從ウテ薄シ、今乃テ該表調製心得ヲ定メテ編製ノ精密ヲ計ル。

神苑會寄附金成績表調製心得

- 第一條 本表ヲ神苑會寄附金成績表ト稱ス
- 第二條 表中欄ヲ分チテ七段トス、其第一段ヲ廳府縣名第二段ヲ希望額、第三段ヲ申込額、第四段ヲ希望額ニ對スル申込額ノ過不足、(未ハ過)第五段ヲ既濟額、第六段ヲ未濟額、第七段ヲ寄附人員トス

ヲ未濟額、第七段ヲ寄附人員トス

第三條 廳府縣名ハ、公定ノ府縣順序ニ據リ列記スルモノトス

希望額トハ、廳府縣ニ對シ、本會ニ於テ希望スル寄附金ノ標準ヲ掲グルモノトス
 申込額トハ、寄附金申込高ヲ掲グルモノトス、希望額ニ對スル申込額ノ過不足トハ、希望額ト申込額トヲ對比シ、其差額ヲ掲グルモノトス
 既濟額トハ、現在收入セシ金高ヲ掲グルモノトス
 未濟額トハ、申込ニ對スル既濟殘高ヲ掲グルモノトス
 寄附人員トハ、金高ノ多少ニ拘ラズ總テノ寄附者人員ヲ掲グルモノトス、但講社其他組合又ハ連合ハ各一人ト看做スベシ

第四條 皇室、皇族、御下賜、其外諸會社等ニシテ、希望額以外、特別寄附ニ係ルモノハ、附屬トシテ別表ニ製シ、寄附者ノ名ヲ列スベシ

諸官廳ヨリ下附及一般寄附物品ハ、相當ノ價格ニ換算シ、附屬表ト爲シ、諸官廳及ビ廳府縣名列記ノ下ニ分類記入スベシ

第五條 勞力等ヲ金額ニ換算シタルモノ、其他金額ニ換算シ難キモノアルトキハ、

附屬表中別項ニ掲グベシ

第六條 三重縣ハ事業地元ナルヲ以テ廳府縣ノ例外トシ、希望額ヲ定ムルニ因リ、之ヲ別項ニ掲グベシ

第七條 理由説明ヲ要スルトキハ、備考ノ欄ヲ設ケ列記スベシ

第八條 本表ハ別紙書式ニ據リ、毎年十二月三十一日ノ現在ニ因リ調製スベシ、若シ臨時調製ノ必要アル時ハ、其當時ノ年月日ヲ記入スベシ

第九條 希望額ハ、廳府縣三重縣ヲ除ク人口一人ニ對シ金壹錢ノ割ヲ以テ算出スルモノトス、但人口算出方ハ別ニ定ムル處ニ據ル

申込額ハ、本會創業以來、兩事務所ヘ申込ヲ受ケタル寄附金高ヲ掲グベシ、既濟額ハ、本會創業以來、兩事務所ヘ現在收入シタル寄附金高ヲ掲グベシ

但府縣別ハ會計帳簿ニ拘泥セザルモノトス

第十條 本表ハ兩事務所ニテ調製シタルモノヲ、双方協議ノ上、一方ニテ統計調製スルモノトス

第十一條 各事務所ニ於テ調製スルニハ、希望額及ビ申込額ノ希望額ニ對スル過

不足ノ二項ヲ除クノ外總テ前各條ニ準據スベシト雖モ、尙ホ左ノ各條ニ據ルベシ

第十二條 第一條ノ題號中、東京又ハ三重事務所ノ製表ニハ、各其事務所名ヲ加入スベシ

第十三條 申込額、既濟額、未濟額、寄附者人員トモ、各其所限リヲ掲グベシ

第十四條 兩事務所ノ一方ヘ申込タル寄附者ヲ、他ノ一方ヘ引繼ギタルトキハ、前ノ一方ヲ除キ後ノ一方ヘ挿入スベシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テ、前ノ一方ハ申込額既濟額トモ總テ除キ、後ノ一方ヘ挿入スベシ

第十六條 寄附者申込當時ノ居住府縣ヨリ、他府縣ヘ轉々移住シタル者アルトキ

ハ、最初申込タル當時ノ廳府縣ヘ挿入スベシ

第十七條 寄附者他府縣ヘ轉々シ、其居住先ヨリ年賦金納入アルモ、其納入金ハ最

初申込タル當時ノ廳府縣ヘ挿入スベシ

第十八條 第十六條第十七條ハ寄附金物件臺帳ニ據ラザルモノトス

第十九條 寄附申込者ヨリ未ダ少シモ收入ナキ時ト雖モ寄附者ノ内ニ編入シ亦少シモ收入ナキ内ニ退會又ハ死亡セシモノハ寄附者ノ内ニ挿入セザルモノトス

第二十條 本心得ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

二月八日、寔ニ三重委員藤井清司ニ、本會歴史編纂委員ヲ囑托セリ、然レドモ、其専心事ニ從ヒ、單獨業ヲ卒フルノ難キモノアルヲ諒トシ、更ニ創立功勞者中、永ク會務ニ從事シ、事歴ニ精シキ吉川清三郎ヲ以テ之ガ委員トシ、藤井清司ト協力編成センコトヲ托ス。

二月二十七日、外宮神苑擴張設計ニ關シ、神宮宮司伯爵冷泉爲紀、本會幹事田中芳男、同滿岡勇之助、相會同シテ實境ヲ視察シ、了リテ五二會館ニ協議ス。

外宮苑地擴張ノ必要ハ、專ラ火災ノ豫防警戒ニ存シ、而シテ汚水疏通ノ事亦之ニ附帶セリトス、蓋シ西北市街ノ高地ヨリ排疏スル所

ノ汚水、概ネ造苑地ノ西端ニ會注ス、今ヤ苑地ヲ繞ルニ汚水ノ溢出ヲ以テセンハ、潔清ノ旨ニ背クヤ論ナキノミ、之ヲ避ケントセバ、苑地前面ノ道路ヲ縱貫スベキ、一大暗渠ヲ鑿通セザルベカラズ、是レ實ニ多額ノ土工費ヲ要スル所ナリ、然レドモ、本會直接ノ管理事業ニ非ルヲ以テ、之ガ施設ヲ地方ニ委ネ、既ニ其成功ヲ認ム、茲ニ於テ本會ハ主トシテ防火ヲ以テ造苑ノ方針トシ、林泉ノ風趣ヲ裝フコトナク、勉メテ防火ニ效アル樹木ヲ選ビ以テ苑地ノ設計ヲ起ツ、一ニ是レ幹事田中芳男ノ提案ト宰理トニ依ル所ナリ、而シテ其南疆宮域ヲ區畫セル寛文年間施設ノ溝渠ハ、暗渠新設ノ爲メ填塞ノ必要ヲ生シ、茲ニ防火ノ目的ト共ニ不潔ノ觀悉ク其掃清ヲ期スルヲ得タリ。

客年九月、此區域ノ人家就中、宇仁館、神風館等ノ大旅舎ヲ首目トス

撤去ヲ了スルヤ、旬餘ニシテ北面ノ市街、一志町沿道ノ民家火ヲ失シ、火勢猛烈、忽ニシテ背後ヲ貫キ、撤去地ノ正面ニ延燒ス、道路一條ヲ隔ツト雖モ、道南即チ造苑地域ノ板圍ヲ燃焦セリ、若夫本會事業ノ着手ヲシテ、遅ル、ユト數旬ナラシメン乎、巍然タル旅舎ヲ延燒シ、餘焰ノ及ブ所、宮城ノ安危將ニ測ラレザルモノアラントス、想ウテ茲ニ至レバ深ク事業決行ノ時宜ヲ得タルヲ賀セズンバアラズ、此失火アリテヨリ後、地方廳モ深ク宮城附近ノ民家建營上ニ注意シ、縣令ヲ設ケテ制裁ヲ加フル所アルニ至ル、本年五月發表スル所ノ縣令第四十號是ナリ、今參照ノ爲メ之ヲ左ニ掲グ。

三重縣令第四十號

第一條 宮城地及神苑地トノ距離六十間以内ニ於テ屋舎ヲ新設シ若クハ既設ノ屋舎ヲ改築セントスル時ハ設計書ニ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クベシ

第二條 前條ニ依リ新築若クハ改築スル屋舎ハ左ノ制限ニ從フベシ

- 一 屋舎ハ平家ニ限ル事
- 二 屋根ハ不燃質物ヲ以テ葺キスル事
- 三 竈ハ煉瓦石ノ類ヲ以テ築造スル事
- 四 浴場ヲ設クルトキハ火焚場ハ煉瓦石ノ類ヲ以テ築造スル事
- 五 火消所及灰置場ハ不燃質物ヲ以テ築造スル事
- 六 煙突ヲ設クルトキハ煉瓦石又ハ鐵板製ニシテ屋上ヨリ六尺以上突出セシムル事
- 七 便所尿溜ハ不透過物ヲ以テ築造スル事

第三條 宮城地及神苑地トノ距離百二十間以内ニ於テ、煤煙ヲ飛散シ又ハ惡臭ヲ發スベキ製造場若クハ牛馬繫置場ヲ新設スルコトヲ得ズ、但シ既設ノ牛馬繫置場ハ明治三十四年十二月三十一日迄ニ移轉スベシ

第四條 宮城地及神苑地トノ距離三百間以内ニ於テ汽罐又ハ熱機關ヲ使用シ及危險物ヲ貯藏シ、若クハ取扱フ屋舎ヲ新設スルコトヲ得ズ

第五條 本則ニ違反シテ建設シタル屋舎ハ地方長官ニ於テ必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

五月十三日、徵古館敷地其他會務協定ノ爲、三重常務幹事滿岡勇之助ハ書記箕曲茂七ヲ隨ヘ上京シ二十三日歸任ス。

十六日、外宮神苑擴張地設計既ニ定リシヲ以テ其土功ヲ愛知縣名古屋市大島角右衛門ニ命ジ、之ガ監督ヲ三重縣廳ニ托ス、縣廳乃チ本間技手ヲシテ臨監セシム、後十二月一日ニ至リ竣功ヲ告グ。本會ノ申請ニ依リ、三重縣廳ヨリ技師東武平并ニ技手岩井某ノ兩名ヲ派遣シ、六月一日ヲ以テ倉田山徵古館建設地ノ測量ニ着手シ、同八日之ヲ結了ス。

六月十八日、本年一月以來幹事田中芳男擔當中ノ農業館統計表完成ヲ告グ、其表中、農業館開館以來十一年間ノ成績ヲ網羅セルヲ以テ、汎ク江湖ノ參考ニ供スベク、又以テ模範ヲ示スニ足レリ、依テ印刷シテ本館ニ陳列シ、且之ヲ本會ニ功勞アルモノ、若クハ農産陳列場ノ設ケアル各府縣并ニ協會團體等ニ配送ス、其表皮ノ裏面ニ左ノ記事ヲ加フ。

神苑會 本會ノ創立ハ明治十九年六月トス、初メ宇治山田町太田小三郎氏外十數名發起者トナリ神苑會ヲ設立シ、第一着ニ 兩宮宮城接近地ノ人家ヲ取拂ヒ茲ニ神苑ヲ開ク、二十二年五月、大略成苑ヲ奏スルト同時ニ會務擴張ノ運ヲ遂ヘ、始メテ事務所ヲ東京三重ノ兩地ニ置キ、大勳位有栖川熾仁親王殿下ヲ奉ジテ總裁ニ戴キ、會頭副會頭其他職員各其人ヲ得タリ、而シテ豫定第二着ノ事業中、資日館及農業館ヲ建營シ、次デ徵古館假陳列場ヲ設ク、今ヤ徵古館ハ專ラ準備中ニ在リ、現任職員ニハ、大勳位有栖川威仁親王殿下ヲ總裁ニ戴キ、正三位勳一等花房義質氏ヲ會頭ニ、從三位勳三等周布公平氏ヲ副會頭ニ推シ、其他幹事長、幹事、評議員、管財員、委員アリ又各地方ニハ委員總長、委員長、委員ヲ置ク、其精シキハ既ニ印行セル參宮便覽、附

農業館ハ明治二十三年之ガ準備ヲナシ、翌二十四年一月 外宮苑地前ヲトシテ設
計シ、五月ニ至リ建築落成シテ開館ス、館内ハ農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶類ノ産業并製
品及各種ノ標本、模型、圖書統計表等ヲ二十四類ニ分チ陳列ス、抑モ本館設備ノ要ハ
學理ト實際トヲ併セ、一見通曉シ易キヲ旨トシ、人智ヲ裨補セントスルニ在リ、本館
并廊下ノ面積一百九十二坪餘、敷地面積二千零二十坪餘アリ、附屬館ハ本館ノ西隣
ニ在リ、廊下ヲ以テ連結ス、其面積六十三坪餘、館内陳列品ハ主ニ明治二十六年十一
月三重縣ノ寄贈ニ係ル工藝品ニシテ、之ヲ十六類ニ分テリ、本館物品ノ蒐集陳列ハ
本會幹事從三位勳二等田中芳男氏ノ專任整理ニ成レリ、明治三十二年農業館列品
目錄ヲ編製シ、今又増補目錄ノ編製ニ着手セリ、而シテ開館以來十一年ノ列品數
量、觀覽人員收支決算ヲ一目通覽センガ爲メ、茲ニ農業館統計表ヲ製スルモノナリ

農業館規則摘要

- 一本館ハ公衆ノ來觀ヲ許ス
- 一本館ニ物品ヲ寄贈シ若クハ出品セント欲スルモノハ豫メ本館ノ承諾ヲ受クベ

シ但シ荷作運搬ニ係ル費用ハ自辨タルベシ

一物品ハ產地又ハ製作人及數量ヲ記シ可成説明ヲ附記スベシ

一陳列品ハ總テ賣買セズ

一本會ハ常時開館シ自一月一日午前八時ヨリ至五月三十一日午前八時午後五時迄自六月三十一日午前八時ヨリ午後四時迄トス

一觀覽券料一人金貳錢、十五歳未満壹錢、神苑會員ハ無料トス、又學校職員并ニ生徒
ニシテ該校ノ證明書ヲ携帯スル時ニ限り無料觀覽ヲ許ス

本會、曩ニ地方委員取扱心得ヲ制定セルモ、爾後地方ノ實況ヲ參酌
シ、修正ヲ加フベキノ必要ヲ認メ、本年六月之ヲ改正スルユト左ノ
如シ

神苑會地方委員取扱心得

- 第一項 地方委員部ハ道廳(支廳)府縣廳郡(島司)市區役所ニ設置ス
- 第二項 地方委員部ハ委員總長、委員副總長、委員長、委員補ヲ以テ組織ス
- 第三項 委員總長ハ會頭之ヲ推薦シ、委員總長ニ於テハ委員副總長、委員長、委員、委

員補ヲ會頭ニ推薦ス

但シ市區ニ屬スル委員委員補ハ委員長ニ於テ委員總長ニ推薦ス

第四項 地方委員部ハ各其受持地方ノ會員ヲ募リ寄附金ヲ集メ之ヲ東京事務所又ハ三重事務所へ送附シ其他兩事務所ヨリ委託スル事ニ從ヒ斡旋スルモノトス

但郡市區役所委員部ニ於テ特ニ兩事務所ニ直接スル場合モ委員總長ノ監督ヲ受クルモノトス

第五項 寄附金ハ東京又ハ三重事務所へ送金スル迄ノ間ハ委員部ニ於テハ現金取扱方ヲ銀行ニ囑託シ左ノ案文ニ據リ規約ヲ結ビ之ヲ取扱ハシムルモノトス
(案文後出)

第六項 前項ノ現金ヲ取扱ハシムルモノハハ手数料トシテ其取扱ヒタル現金高千分ノ五以内又爲替金ニ對シテハ普通ノ爲替料ヲ交付スルヲ得

第七項 委員部ニ於テ其必要アル場合ニ際シテハ本會ノ主意規則寄附ノ手續委員部所在現金取扱銀行及寄附者ノ氏名申込金額ハ其地方便宜ノ方法ヲ以テ廣

告スルコトヲ得

但團體寄附金五圓以上ハ總代人ノ氏名ヲ掲ゲ金五圓未満ハ本文ノ限リニアラズ

第八項 寄附金ハ各寄附者ヨリ申込書ヲ差出サシメ(申込書ニハ金額寄附者氏名年月日及時寄附何個年賦寄附ト明記スル類)其現金ハ第五項ノ現金取扱方へ拂込マシム尤寄附者ノ便宜ニ依リ直ニ金員ヲ委員部へ差出ストキハ之ヲ受取第一號書式ノ領收證書ヲ渡シ置キ其金員ハ現金取扱方へ預ケ入レ領收證ヲ徴シ置クモノトス

第九項 一時寄附金全納者ハ勿論年賦寄附者ニ於テモ第一回分以上納附シタル者へハ直ニ證據證狀ヲ交付スルモノトス

第十項 地方ノ情況ニ依リ年賦寄附金ヲ取纏メ之ガ納付ノ期限ヲ定メ會頭ニ報告スルモノトス

第十一項 町村大字會社講社組合等ノ團體若クハ團體ニアラザルモ一人別ノ寄附金少額ナルモノハ成ルベク總代人一名ヲ以テ寄附申込及ビ納金セシムルモノトス此場合ニ於テハ其團體ヲ一個人トシ證據ハ共有ノモノト見做ス

但本項ノ場合ニ於テハ法律ニ定メラレタル法人ノ外ハ總代何ノ誰何ノ某々ト氏名ヲ列記シ申込書ニ添附スルヲ要ス

第十二項 委員部ニ於テ取扱フ諸費ハ道廳府縣内現收入金ノ十分ノ一以内ヲ以テ之ニ充ツルモノトス此諸費仕拂ノ爲メ其募集金ノ内現收入高ノ十分ノ一以内ヲ用意金トシテ振替受取置キ其諸費ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ第四號書式ノ用意金勘定書ヲ作り現金送附ト同時ニ東京又ハ三重事務所へ差出スモノトス

條十三項 委員部ニ於テハ毎月現金取扱方ヨリ第二號書式ノ寄附金收入内譯書ヲ差出サシメ之ニ第三號書式ノ收支仕譯書ト寄附金申込書トヲ現金ニ添へ一個年少クモ二回以上東京又ハ三重事務所へ差出スモノトス

但現金ハ成ルベク最初申込書ヲ送附シタル事務所へ向ケ送納スルモノトス
⑩ 印紙 神苑會地方委員部ニ於テ取扱フ神苑會寄附ノ現金ヲ取扱フ何銀行へ委託スルニ付雙方締約スル條項如左

第一條 神苑會ニ金員ヲ寄附セントスル者何銀行へ持參シタルトキハ豫テ設ケ

アル領收證明紙ニ其金圓住所氏名年月日等ヲ記入記名捺印シテ(年賦寄附ナレバ何年賦何回分ト記載ス)金員引換ニ寄附者へ交付スベシ

第二條 寄附者便宜ニ由リ寄附金へ寄附申込書ヲ添へテ差出シタルトキハ俱ニ之ヲ受取現金ハ前條ノ如ク受入其申込書ハ速ニ締約シタル委員部へ送附スベシ又委員部ヨリ現金ヲ回送シタルトキハ之ヲ預リ受取證書ヲ差出スベシ

第三條 何銀行ニ於テ受取タル寄附金及委員部ヨリ回送シタル現金其月中ハ無利足預リ金トシ翌月一日ヨリ相當ノ利足ヲ本會へ仕拂フモノトス

第四條 前月ノ合計金額ハ第二號書式ノ寄附金收入内譯書ヲ添附シ毎月十日迄ニ締約シタル委員部へ報告スベシ

第五條 寄附金取扱ノ手数料トシテ其取扱ヒタル金高千分ノ五ノ割合ヲ以テ何銀行へ交付シ其他爲替料ハ取束ネ銀行ヨリ締約シタル委員部へ請求シテ受取ル事ヲ得

第六條 締約シタル委員部ヨリ何銀行へ向テ收入金ヲ他所へ爲替取組ノ通知アルトキハ何銀行ハ其手續ヲナシ爲替券ヲ該委員へ送附スベシ締約シタル委員

部ヨリハ受取證ヲ交付スルモノトス

第七條 此條約ハ明治何年何月何日ヨリ施行スルモノトス

第八條 此條約中更正加除ヲ要スルコトアラバ雙方協議ノ上日ヲ定メテ履行スベシ

第九條 締約者一方ノ都合ニ據リ解約ヲ申入ル、トキハ何時タリトモ異議ナク承諾スベシ

右締約セシ證トシテ此條約書二通ヲ作り雙方署名調印シ、一通ハ何銀行へ、一通ハ神苑會道廳府縣郡市區委員部ニ保護候也

年 月 日

神苑會道廳府縣郡市區

(委員 總長)

名 印

何銀行頭取氏

名 印

(第一號乃至第四號書式略ス)

本會會員中、夏期ノ靜養若クハ海水浴ノ爲、賓日館ニ休泊ヲ請フ者、比年増加ノ傾向アリ、其療病ヲ目的トシ傳染病者ヲ容ル、ガ如キ

危險ヲ防ガント欲シ、七月七日、賓日館登館者心得書第五條及第十條ヲ左ノ通り改正ス。

第五條中(但)ノ一字ヲ(其)ニ改メ本條ニ更ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ本館差支アルトキハ臨時登覽ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十條 療病ヲ目的トスルモノ、休泊及傳染病ノ虞アルモノ、癡癩白痴爛醉者等ノ登覽ヲ謝絶ス

八月二十四日、博覽會三重協贊會ト協商シ、神宮撤下御物拜觀所ヲ倉田山ニ建設スル事ヲ決定ス。抑第五回内國勸業博覽會、位置既ニ大阪ニ決シ、開期モ亦來春ニ迫レルヲ以テ、京攝附近ノ地、今ヨリ相競ヒテ旅客歡待ノ設備ニ汲々タリ。三重縣亦協贊會ヲ組織シ、古莊知事ヲ會長ニ推シ、森書記官ヲ其事務長ニ任シ、百方劃策スル所アリ、謂ラク 神宮撤下御物拜觀所ヲ建設シ、内外人民ニ拜觀ヲ許容セラル、ヲ得バ、我縣ノ特色又何ゾ之ニ加ヘン宜ク神苑會ト謀